



神奈川県

政策局政策部  
情報公開広聴課

令和5年度

# 県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和5年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和6年2月公表

テーマ「食の安全・安心」「食・食育」「かながわの農林水産業」

「SDGs(持続可能な開発目標)」「環境問題」

「ICT(情報通信技術)」「将来の住まい」

「地域社会との関わり」「治安対策」

「ともに生きる社会かながわ」

「生活に不安や課題がある人への支援」

「配偶者等からの暴力」「がん対策」「循環器病対策」

「スポーツ」「かながわの広報」

第2回課題調査…………… 令和6年3月公表

テーマ「地震対策の取組み」「子ども・子育て支援」

「かながわの水源地域」「生物多様性」

「『未病改善』の取組み」「アレルギー疾患」

「依存症に対する意識」「肝炎対策」「かながわの人権」



## はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時勢に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和5年7月から8月にかけて実施した「基本調査」、9月から10月にかけて16テーマについて実施した「第1回課題調査」、及び10月から11月にかけて9テーマについて実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々に広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

神奈川県政策局長



## 目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

### 基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
  - 1 生活総合満足度
  - 2 暮らし向きの変化
  - 3 今後の暮らし向きの見通し
  - 4 地域の住みよさ
  - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
  - 1 重要度
  - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	119
----------------	-----

## 第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	133
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	141
第Ⅲ部 調査結果の詳細	157
第1章 食の安全・安心	159
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第2章 食・食育	165
1 「食育」への関心	
2 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
3 ゆっくりよく噛んで食べているか	
4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか	
6 朝食を同居の方と食べる頻度	
7 夕食を同居の方と食べる頻度	
8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
第3章 かながわの農林水産業	183
1 県の農業に期待する役割	
2 「地産地消」の取組みの重要度	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け	
5 県内にある農地の保全に対する考え	
第4章 SDGs（持続可能な開発目標）	193
1 「SDGs」の認知度	
2 SDGs達成に向け効果的な後押し	

第5章 環境問題 -----	197
1 特に入力してほしい環境に関する取組み	
2 脱炭素を意識した取組み	
3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向	
4 「気候変動への適応」への関心	
第6章 ICT（情報通信技術） -----	205
1 デジタル化推進に関する意向	
2 デジタル化が進むことで期待できると思うこと	
3 デジタル化が進むことで不安を感じる事	
第7章 将来の住まい -----	211
1 将来の住まいに対する不安	
2 将来の住まいに不安を抱く理由	
3 親族との同居意向	
第8章 地域社会との関わり -----	217
1 地域社会との関わりを大切にす意識	
第9章 治安対策 -----	219
1 不安を感じる犯罪	
2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思ふもの	
第10章 ともに生きる社会かながわ -----	225
1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度	
2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方	
4 障がい者に配慮した行動をとる人	
5 障がい者への差別・偏見の有無	
6 希望する手話の学習方法	
7 障がいの程度や状態にかかわらず参加したいと思ふワークショップ	
8 「ヘルプマーク」の認知度	
第11章 生活に不安や課題がある人への支援 -----	241
1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度	
2 ひとり親家庭への支援状況	
3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況	
第12章 配偶者等からの暴力 -----	247
1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと	
第13章 がん対策 -----	249
1 身近な人ががんになったときの対応	
2 「緩和ケア」に対するイメージ	
3 がんの最終段階だと言われた場合に過ごしたい場所	

第14章 循環器病対策	255
1 脳卒中の主な初期症状の認知度	
2 脳卒中への適切な対応の認知度	
3 心臓病の再発防止対策の認知度	
第15章 スポーツ	261
1 体力への自信の有無	
2 1年間のスポーツ実施日数	
3 スポーツ推進に係る取組みの認知度	
4 「かながわパラスポーツ」の認知度	
第16章 かながわの広報	269
1 県の広報の達成度	
2 県の広報媒体の認知度	
3 県政情報の入手先	
第IV部 調査票と単純集計結果	275

## 第2回課題調査

第I部 調査の概要	293
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第II部 調査結果の概要	301
第III部 調査結果の詳細	313
第1章 地震対策の取組み	315
1 大きな地震に備えた対策	
2 海岸で地震による強い揺れを感じた時の行動	
3 「津波」に対する知識や理解	
4 津波に対して実施が望まれる制度	
第2章 子ども・子育て支援	323
1 年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことの重要性	
2 希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思ふ取組み	



第3章	かながわの水源地域	327
1	家で使っている水道の水源地の認知度	
2	かながわの水源地域への関心	
3	「やまなみグッズ」を購入したい場所や方法	
第4章	生物多様性	333
1	「生物多様性」の言葉の意味の認知度	
2	生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること	
3	周辺地域の自然環境の変化	
第5章	「未病改善」の取組み	339
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	
2	過去1年間の「未病改善」の取組状況	
3	「未病改善」の取組みに必要だと思うもの	
4	「フレイル」の認知度	
第6章	アレルギー疾患	347
1	アレルギー疾患の増加傾向	
2	アレルギー疾患に関する情報の入手	
3	アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援	
第7章	依存症に対する意識	353
1	依存症に対する意識に関する認知状況	
2	依存症に関する相談場所として知っているもの	
3	相談できる場所を知ったきっかけ	
4	依存症の回復に必要と思うもの	
第8章	肝炎対策	361
1	ウイルス性肝炎の認知度	
2	「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3	検査結果の把握状況	
第9章	かながわの人権	367
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要がある と思うこと	
3	同和地区出身者に対する差別について	
4	子どもの結婚相手が同和地区出身者であると分かった時の対応	
第IV部	調査票と単純集計結果	375



# 第2回課題調査

## 第I部 調査の概要



## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) 地震対策の取組み
- (2) 子ども・子育て支援
- (3) かながわの水源地域
- (4) 生物多様性
- (5) 「未病改善」の取組み
- (6) アレルギー疾患
- (7) 依存症に対する意識
- (8) 肝炎対策
- (9) かながわの人権

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法  
ア 郵送による調査票の配布  
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和5年10月27日（金）～11月21日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 C C Nグループ

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,213標本 〔 郵送回答 : 788件 インターネット回答 : 425件 〕
有効回収率	40.4%

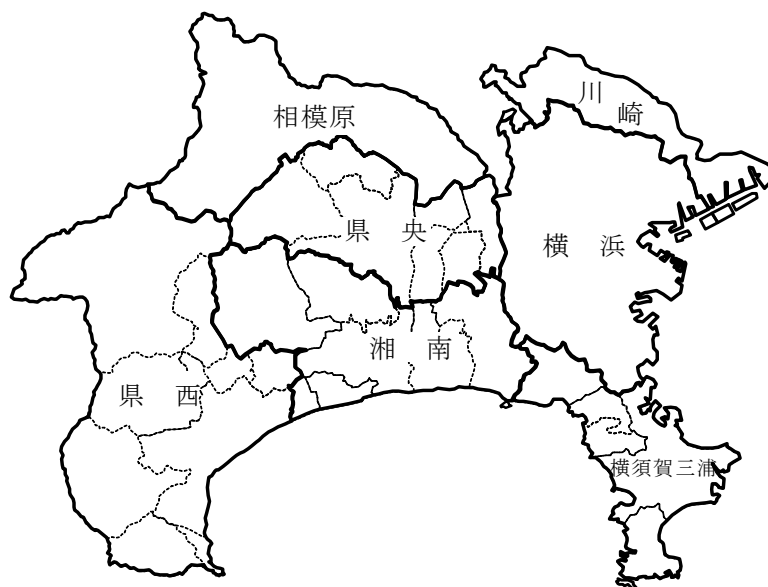
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	471	39.3%
川崎	川崎市	460	172	37.4%
相模原	相模原市	220	89	40.5%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	95	36.5%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	101	33.7%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	204	46.4%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	45	37.5%
無 回 答			36	
全 体		3,000	1,213	40.4%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和4年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,144,823人 60地点 1,200標本	-	-	3,144,823人 60地点 1,200標本
川 崎	1,270,209人 23地点 460標本	-	-	1,270,209人 23地点 460標本
相模原	605,503人 11地点 220標本	-	-	605,503人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	565,655人 12地点 240標本	26,334人 1地点 20標本	591,989人 13地点 260標本
県 央	-	683,384人 14地点 280標本	36,578人 1地点 20標本	719,962人 15地点 300標本
湘 南	-	1,008,814人 20地点 400標本	91,429人 2地点 40標本	1,100,243人 22地点 440標本
県 西	-	194,560人 4地点 80標本	91,705人 2地点 40標本	286,265人 6地点 120標本
人口計	5,020,535人	2,452,413人	246,046人	7,718,994人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和4年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数（ $n$ ）、および回答比率（ $P$ ）ごとに信頼度95%のときの標本誤差（%）を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ $P$ ） 回答者数（ $n$ ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,213	± 2.44	± 3.25	± 3.72	± 3.98	± 4.06
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \div 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ $n$ ）が 1,213 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.98%以内（真の値は、63.98%～56.02%）である」とみることができる。



## 8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 213) (%)

横浜	38.8
川崎	14.2
相模原	7.3
横須賀三浦	7.8
県央	8.3
湘南	16.8
県西	3.7

(無回答 3.0)

(2) 性別 (n=1, 213) (%)

男性	44.7
女性	51.1

(無回答 4.2)

(3) 年齢 (n=1, 213) (%)

18～29 歳	4.0
30～39 歳	8.7
40～49 歳	20.4
50～59 歳	24.6
60～69 歳	18.1
70～74 歳	12.0
75 歳以上	8.9

(無回答 3.3)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 213) (%)

小学校入学前	8.7
小学校在学中	12.0
中学校在学中	7.6
高校在学中	7.4
短大、専門学校等在学中	3.7
大学、大学院等在学中	4.5
学校教育終了[未婚]	23.1
学校教育終了[既婚]	25.6
その他	2.7
子どもはいない	27.0

(無回答 3.6)

(5) 家族形態 (n=1, 213) (%)

一人暮らし (単身世帯)	13.4
夫婦のみ (1 世代世帯)	27.6
親と子の世帯 (2 世代世帯)	46.2
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	4.4
その他の世帯	4.8

(無回答 3.7)

(6) 職業区分 (n=1, 213) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.6
	家族従業者	1.2
勤め・内職	勤め (フルタイム)	42.2
	勤め (パートタイム)	16.3
	内職	0.1
主婦・主夫 (勤めていない)	16.1	
学生	0.4	
無職	13.9	
その他	0.4	

(無回答 3.8)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=793) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	4.4
	自由業	4.9
勤め・内職	経営・管理職	8.8
	専門・技術職	19.5
	事務職	24.5
	教育職	6.4
	技能・労務職	11.0
	販売・サービス職	16.9

(無回答 3.2)



## 第 2 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。  
〔例：問14で「以前から行っておらず、今も行っていない」と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」を合わせたものを《行っていない・行わなくなった》と表現している。〕  
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

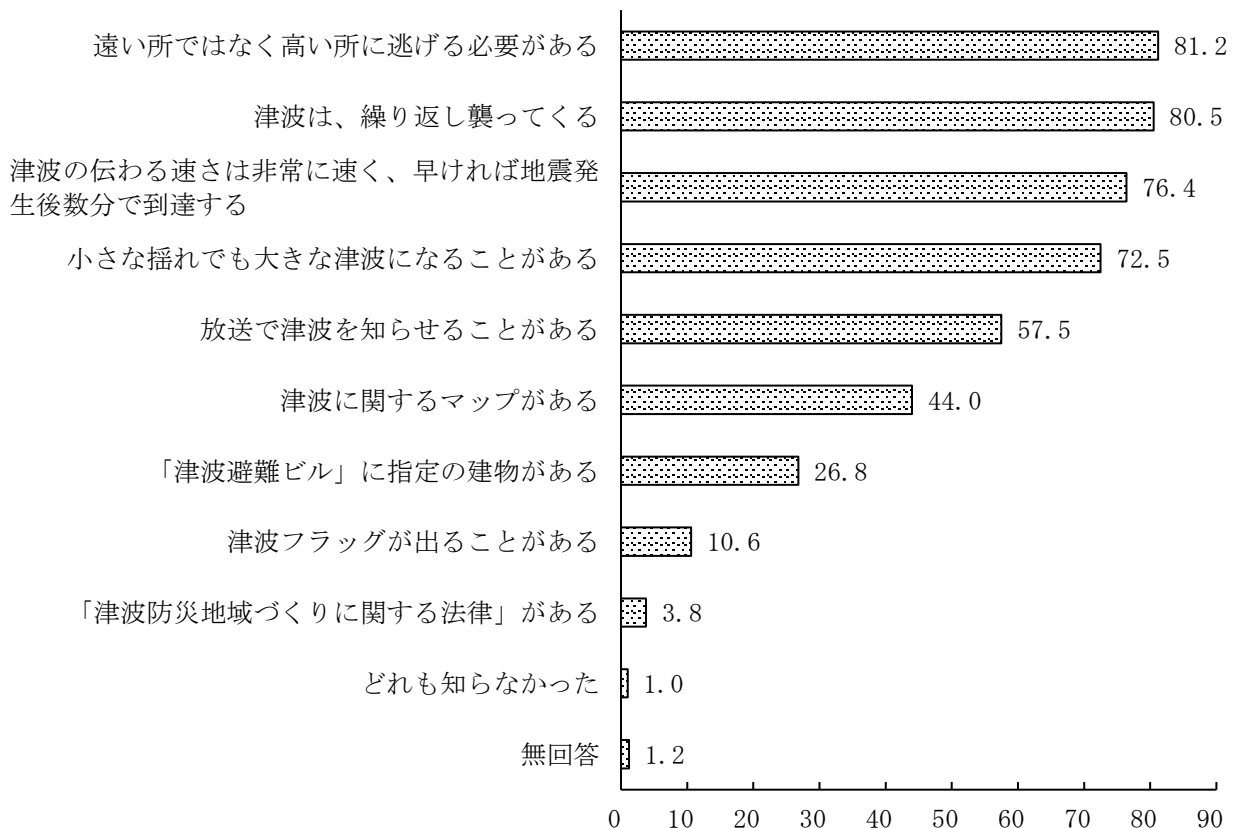
## 1 地震対策の取組み（問1～問4）

県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

### ▼津波に対する知識や理解（問3）

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が81.2%で最も多く、次いで「津波は、繰り返し襲ってくる」が80.5%であった。[図表1]

図表1 津波に対する知識や理解（複数回答）（n=1,213）（%）



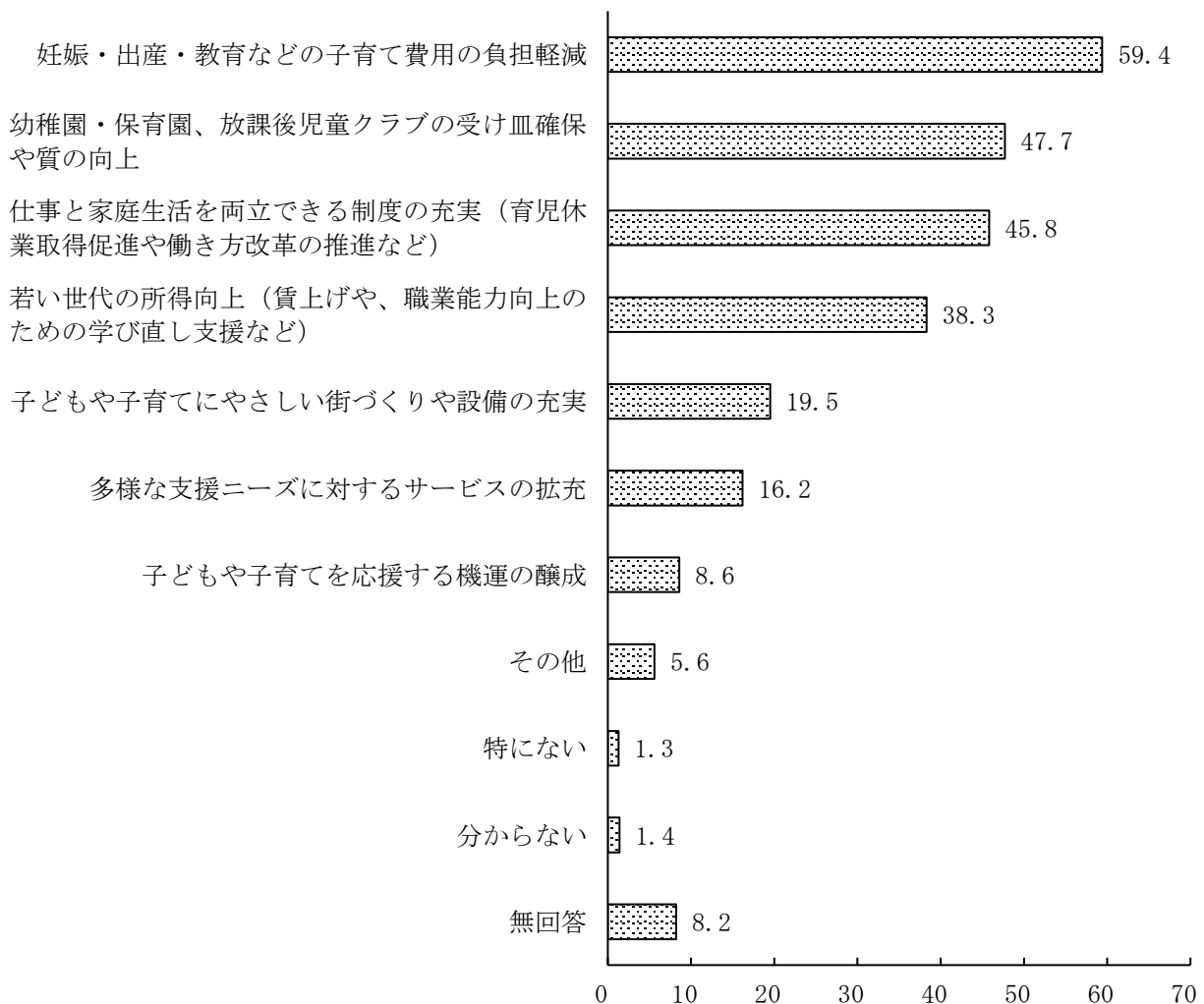
## 2 子ども・子育て支援（問5～問6）

県では、子育てに喜びや生きがいを感じ、安心して子どもを産み育てることができるよう、「子ども・子育て支援」の充実に取り組んでいます。今回、希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組みなどについて調査しました。

### ▼希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組み（問6）

希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会を実現するために特に重要だと思う取組みについて複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「妊娠・出産・教育などの子育て費用の負担軽減」が59.4%で最も多く、次いで「幼稚園・保育園、放課後児童クラブの受け皿確保や質の向上」が47.7%であった。[図表2]

図表2 希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う取組み  
（複数回答）（n=1,213）（%）



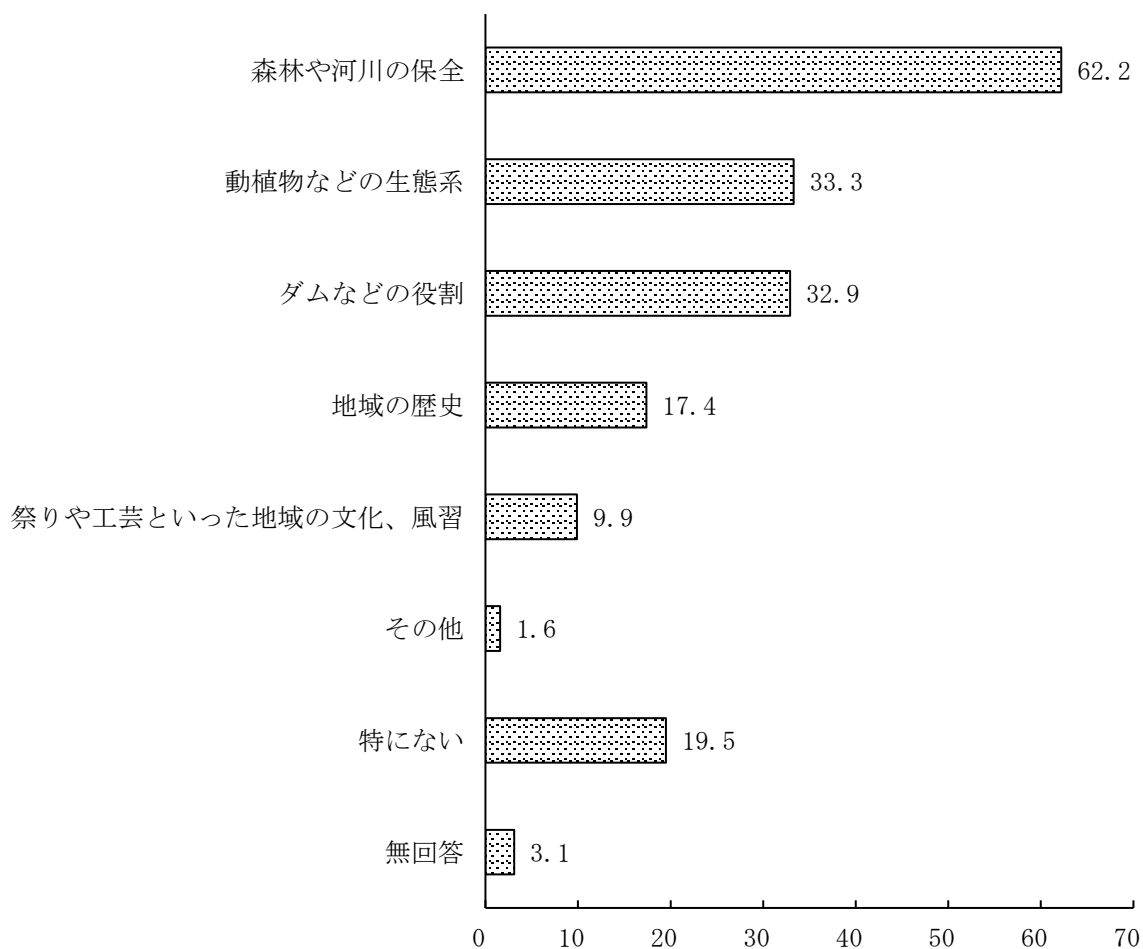
### 3 かながわの水源地域（問7～問9）

県では、水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、水源地域における交流を通じて、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでいます。今回、かながわの水源地域への関心について調査しました。

#### ▼かながわの水源地域への関心（問8）

かながわの水源地域について知りたいことについて複数回答で尋ねたところ、「森林や河川の保全」が62.2%で最も多く、次いで「動植物などの生態系」が33.3%であった。[図表3]

図表3 かながわの水源地域への関心（複数回答）（n=1,213）（%）



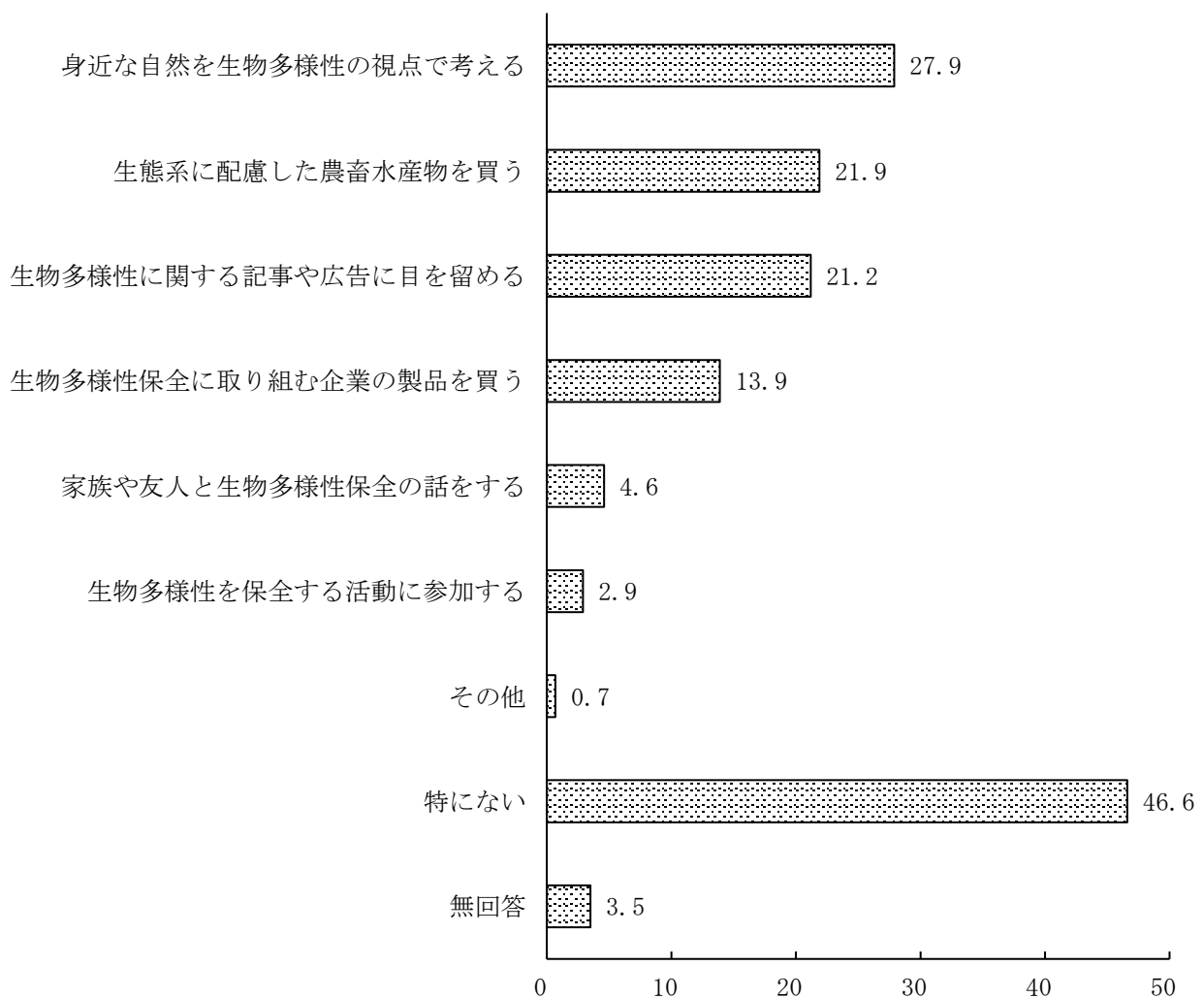
#### 4 生物多様性（問 10～問 12）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

##### ▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 11）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 27.9%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」が 21.9%であった。[図表 4]

図表 4 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること  
(複数回答) (n=1,213) (%)





## 5 「未病改善」の取組み（問13～問16）

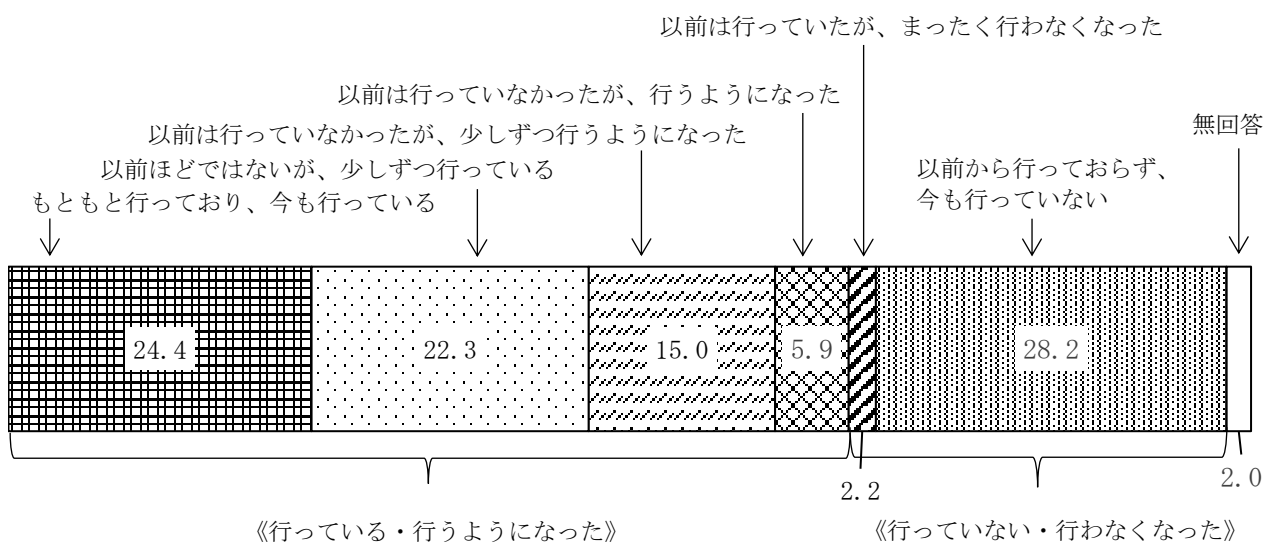
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

### ▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問14）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（24.4%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（22.3%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（15.0%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（5.9%）を合わせた《行っている・行うようになった》は67.6%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（28.2%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.2%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は30.4%であった。〔図表5〕

図表5 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,213）（%）



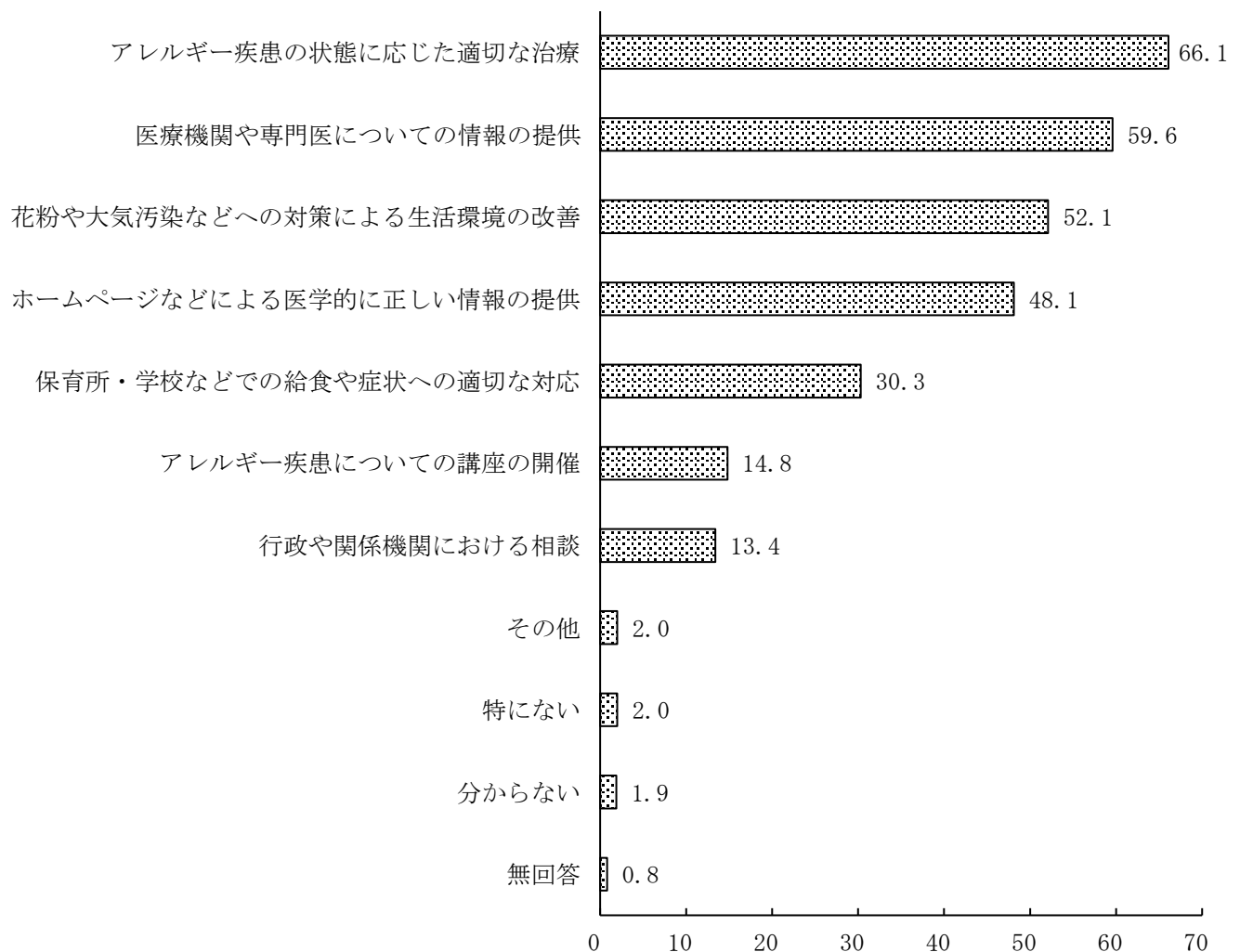
## 6 アレルギー疾患（問17～問19）

県では、「神奈川県アレルギー疾患対策推進計画」に基づき、アレルギー疾患患者などを支援する環境づくりとして、県民が適切な情報を入手し、患者が生活の質の維持向上のための支援を受けられるよう体制の整備に取り組んでいます。今回、アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援などについて調査しました。

### ▼アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（問19）

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「アレルギー疾患の状態に応じた適切な治療」が66.1%で最も多く、次いで「医療機関や専門医についての情報の提供」が59.6%であった。[図表6]

図表6 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）（n=1,213）（%）



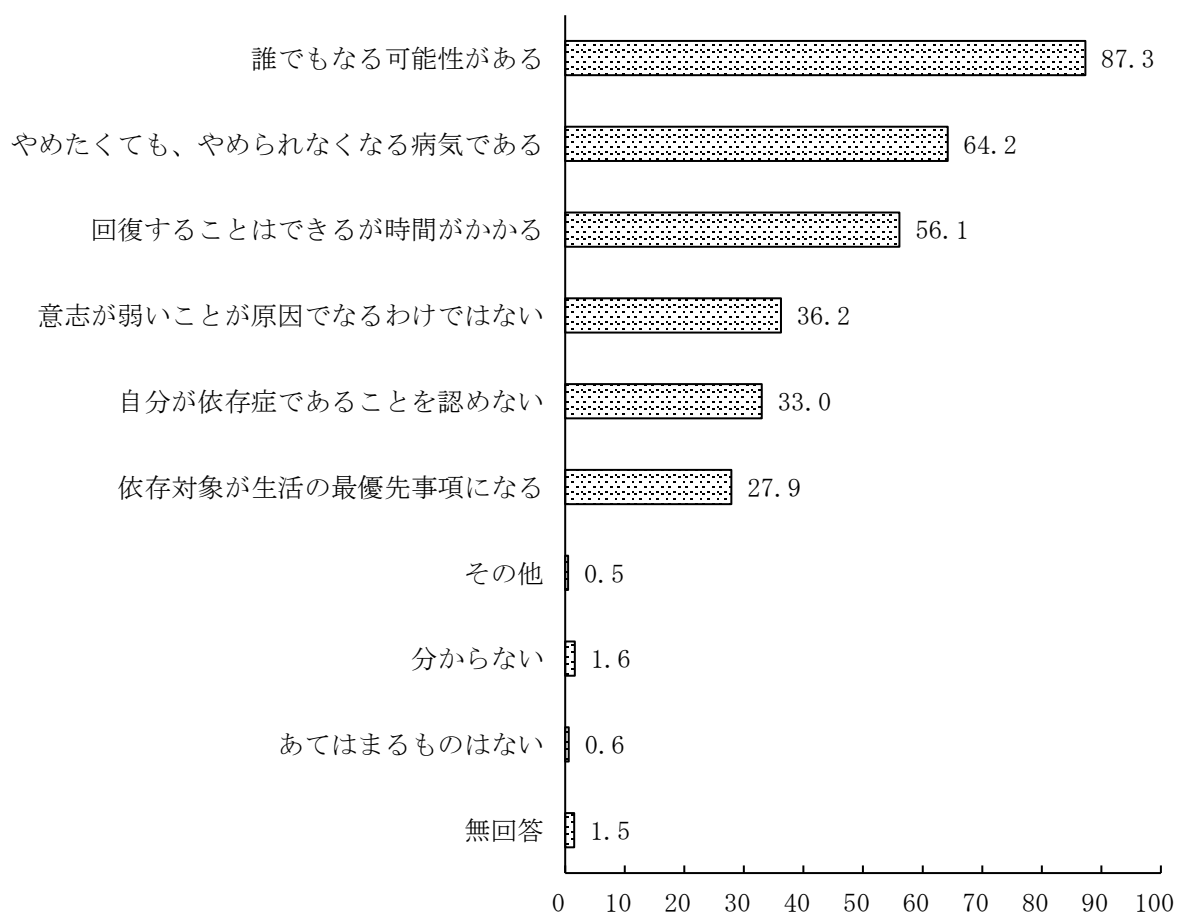
## 7 依存症に対する意識（問 20～問 22）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

### ▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 20）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 87.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 64.2%であった。[図表 7]

図表 7 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,213）（%）



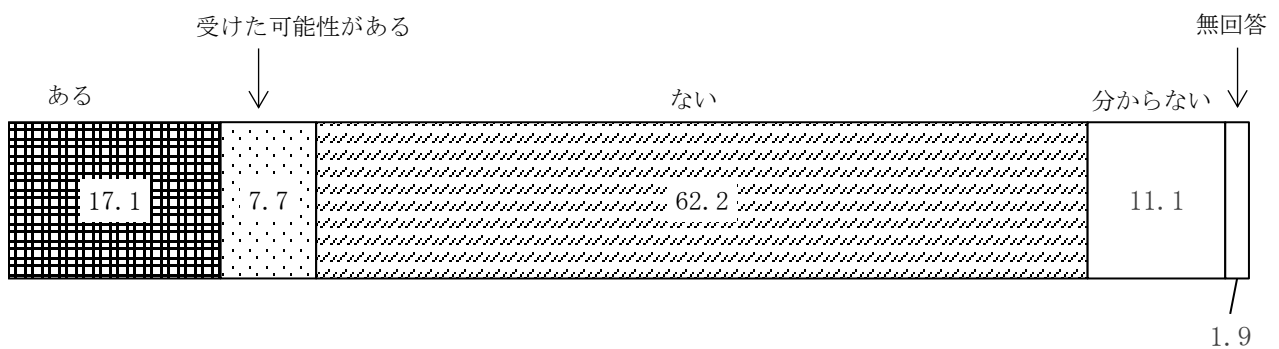
## 8 肝炎対策（問 23～問 24）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

### ▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 24）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 17.1%であった。一方、「ない」が 62.2%であった。〔図表 8〕

図表 8 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,213）（%）



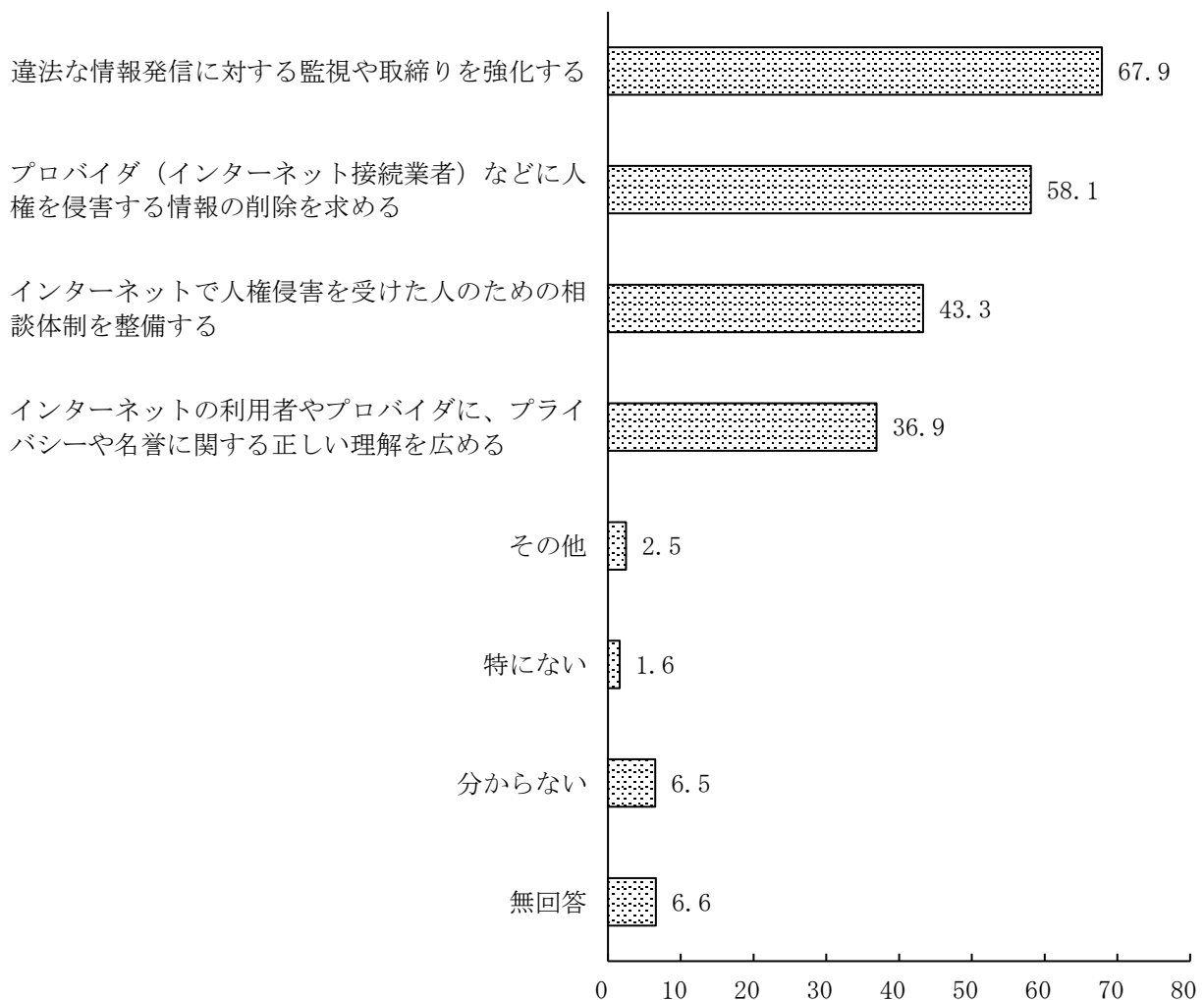
## 9 かながわの人権（問 25～問 28）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うことなどについて調査しました。

### ▼インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（問 26）

インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する」が67.9%で最も多く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）などに人権を侵害する情報の削除を求める」が58.1%であった。[図表9]

図表9 インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（複数回答）（n=1,213）（%）





# 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。





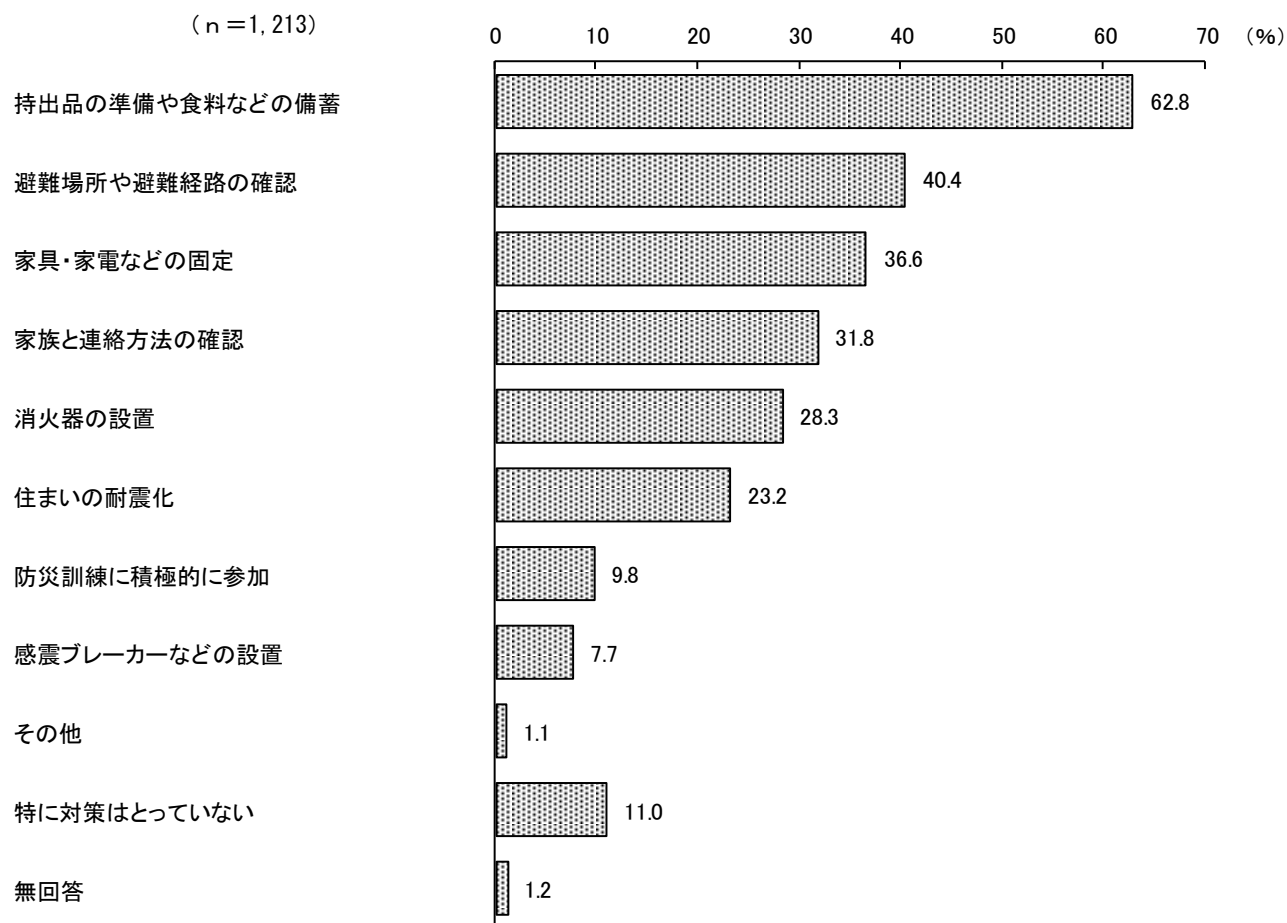
# 第1章 地震対策の取組み【問1～問4】

## 1 大きな地震に備えた対策【問1】

### 【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「持出品の準備や食料などの備蓄」が62.8%で最も多く、次いで「避難場所や避難経路の確認」が40.4%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表1-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

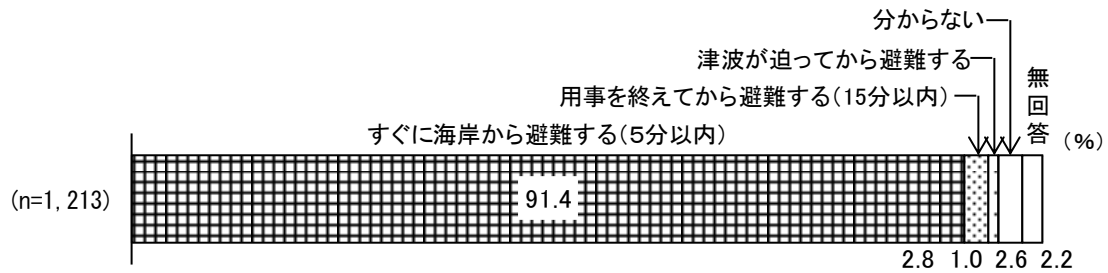
	n	持出品の準備や食料などの備蓄	避難場所や避難経路の確認	家具・家電などの固定	家族と連絡方法の確認	消火器の設置	住まいの耐震化	防災訓練に積極的に参加	感震ブレイカーなどの設置	その他	特に対策はとっていない	無回答
全体	1,213	62.8	40.4	36.6	31.8	28.3	23.2	9.8	7.7	1.1	11.0	1.2
【地域別】												
横浜	471	67.3	39.5	40.8	32.1	37.4	25.1	8.7	8.9	1.3	9.6	1.1
川崎	172	65.1	37.8	39.0	32.6	26.2	19.2	10.5	6.4	0.6	7.6	0.6
相模原	89	55.1	43.8	23.6	33.7	12.4	20.2	5.6	1.1	1.1	18.0	2.2
横須賀三浦	95	63.2	40.0	32.6	31.6	27.4	22.1	11.6	12.6	2.1	7.4	2.1
県央	101	58.4	33.7	31.7	26.7	16.8	18.8	5.9	7.9	2.0	15.8	1.0
湘南	204	60.8	42.2	35.8	32.4	24.5	27.5	11.8	7.8	0.5	13.2	0.5
県西	45	57.8	55.6	37.8	26.7	20.0	26.7	20.0	2.2	-	11.1	-
【性・年代別】												
男性	542	59.0	38.7	36.0	31.4	31.0	23.1	11.3	6.6	0.4	12.7	0.9
女性	620	67.9	41.6	37.7	31.5	26.1	24.2	7.7	8.7	1.8	9.0	1.0
男性18～29歳	20	60.0	30.0	30.0	45.0	30.0	15.0	5.0	10.0	-	25.0	-
30歳代	40	62.5	37.5	27.5	32.5	22.5	27.5	7.5	-	-	20.0	-
40歳代	109	58.7	37.6	30.3	25.7	23.9	22.9	6.4	7.3	0.9	12.8	0.9
50歳代	131	65.6	40.5	33.6	38.2	20.6	22.1	11.5	3.8	-	7.6	-
60歳代	111	58.6	35.1	38.7	27.0	37.8	19.8	10.8	2.7	0.9	13.5	0.9
70～74歳	78	48.7	46.2	50.0	28.2	47.4	24.4	17.9	9.0	-	11.5	-
75歳以上	52	55.8	38.5	34.6	34.6	40.4	30.8	17.3	21.2	-	15.4	5.8
女性18～29歳	29	62.1	13.8	31.0	24.1	13.8	20.7	-	-	3.4	17.2	-
30歳代	65	69.2	36.9	29.2	29.2	9.2	24.6	1.5	3.1	3.1	12.3	-
40歳代	136	70.6	40.4	35.3	27.9	22.1	26.5	8.1	7.4	-	7.4	2.2
50歳代	166	69.9	36.7	42.2	27.7	20.5	20.5	4.2	7.8	2.4	13.9	-
60歳代	105	66.7	50.5	36.2	39.0	41.9	20.0	14.3	11.4	1.0	6.7	1.0
70～74歳	62	64.5	48.4	45.2	30.6	32.3	32.3	14.5	16.1	3.2	1.6	3.2
75歳以上	55	65.5	56.4	40.0	43.6	43.6	30.9	9.1	12.7	1.8	1.8	-

## 2 海岸で地震による強い揺れを感じた時の行動【問2】

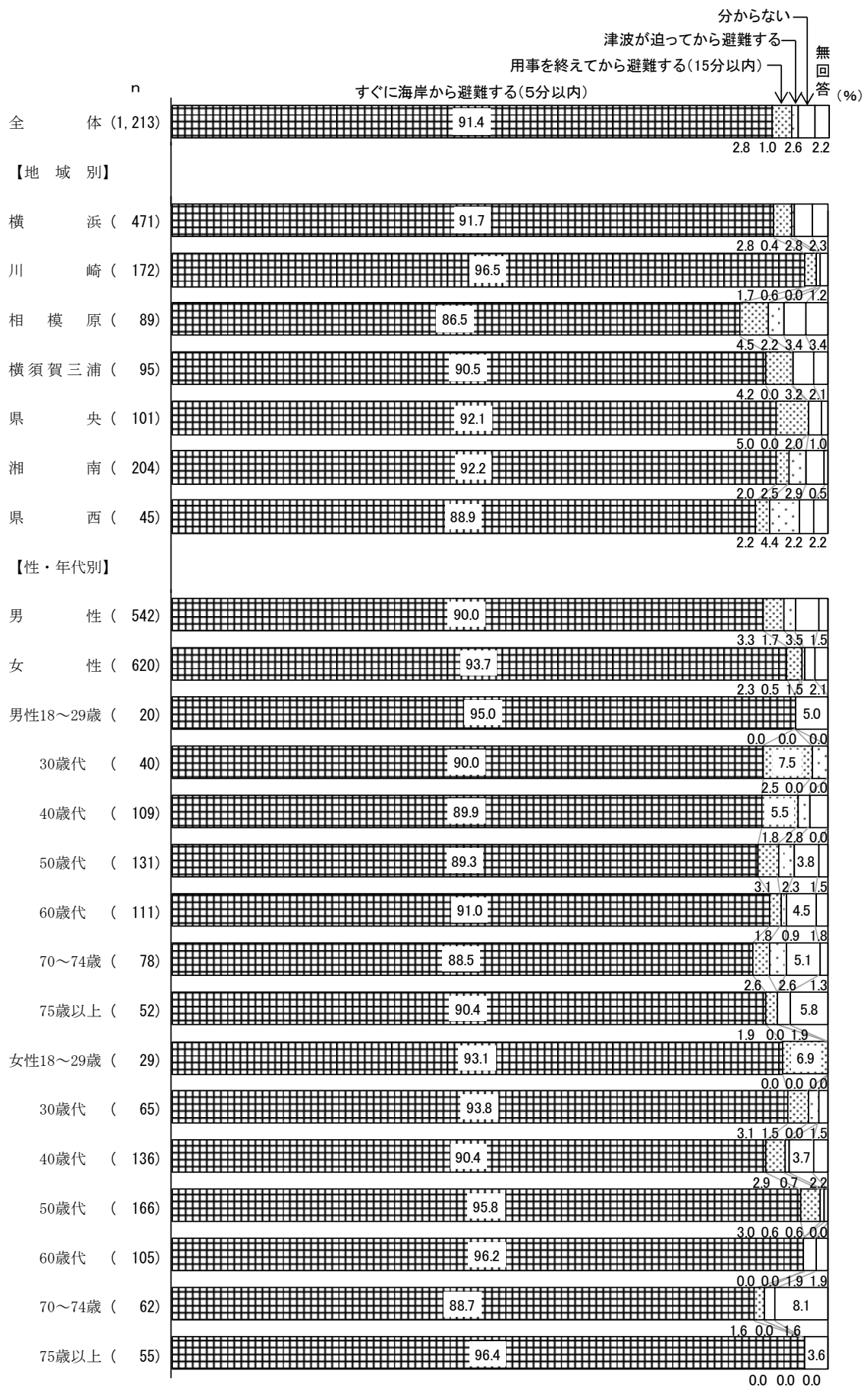
### 【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたらどのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（5分以内）」が91.4%で最も多く、次いで「用事を終えてから避難する（15分以内）」が2.8%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 海岸で地震による強い揺れを感じた時の行動



図表1-2-2 海岸で地震による強い揺れを感じた時の行動—地域別、性・年代別



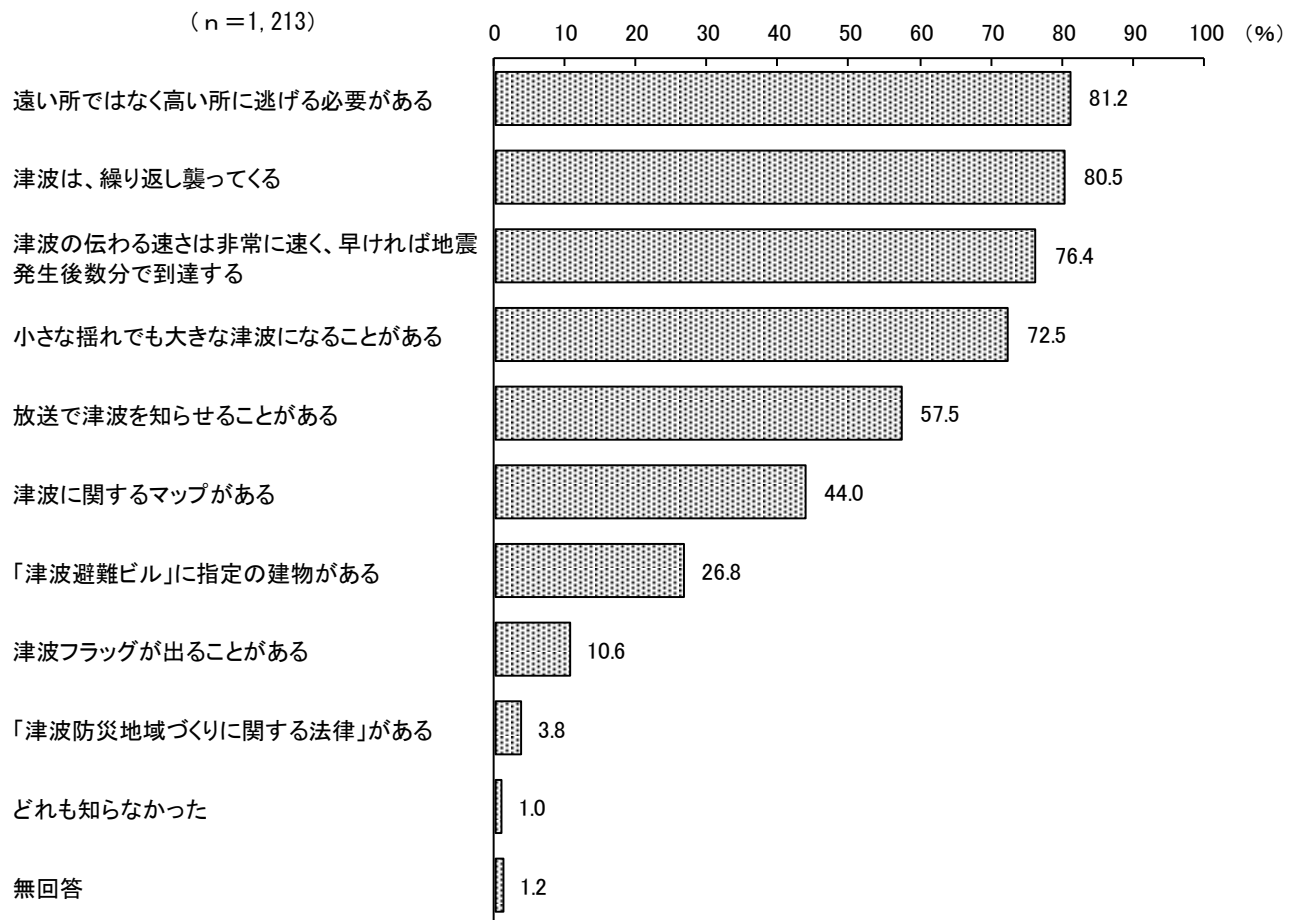
### 3 「津波」に対する知識や理解【問3】

#### 【全体の状況】

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が81.2%で最も多く、次いで「津波は、繰り返し襲ってくる」が80.5%であった。

(図表1-3-1)

図表1-3-1 津波に対する知識や理解（複数回答）



図表1-3-2 津波に対する知識や理解（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

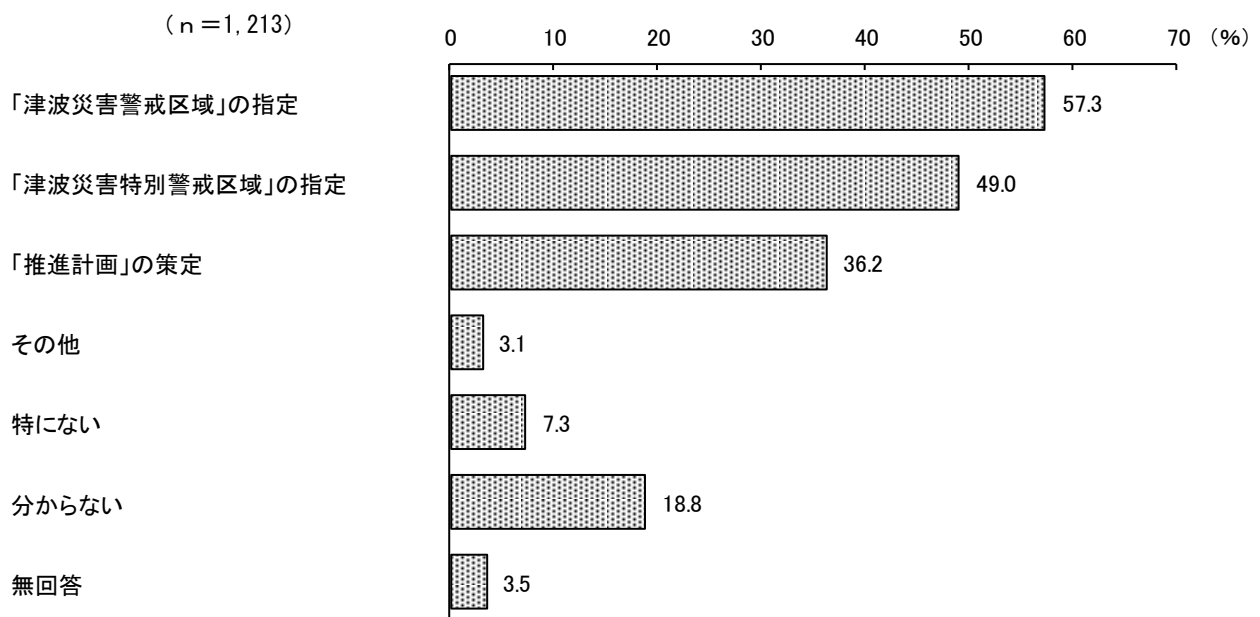
	n	遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある	津波は、繰り返し襲ってくる	津波の伝わる速さは非常に速く、早ければ地震発生後数分で到達する	小さな揺れでも大きな津波になることがある	放送で津波を知らせることがある	津波に関するマップがある	「津波避難ビル」に指定の建物がある	津波フラッグが出ることがある	ある「津波防災地域づくりに関する法律」がある	どれも知らなかった	無回答
全体	1,213	81.2	80.5	76.4	72.5	57.5	44.0	26.8	10.6	3.8	1.0	1.2
【地域別】												
横浜	471	83.9	83.2	76.6	73.0	56.7	43.7	25.9	10.2	4.0	0.8	1.1
川崎	172	78.5	80.8	79.1	72.7	62.8	45.3	22.7	9.3	4.7	0.6	0.6
相模原	89	75.3	68.5	65.2	67.4	49.4	37.1	15.7	9.0	4.5	4.5	2.2
横須賀三浦	95	83.2	75.8	76.8	65.3	52.6	45.3	21.1	13.7	4.2	2.1	2.1
県央	101	81.2	76.2	73.3	73.3	47.5	37.6	25.7	5.9	2.0	-	-
湘南	204	78.9	85.3	81.4	77.9	66.2	53.4	37.7	14.7	3.9	0.5	0.5
県西	45	77.8	75.6	80.0	75.6	66.7	44.4	46.7	15.6	2.2	-	-
【性・年代別】												
男性	542	80.4	82.1	79.2	70.8	58.3	44.1	31.5	12.2	5.2	1.3	0.9
女性	620	81.3	79.5	75.0	75.0	58.1	45.8	23.1	9.8	2.9	0.8	1.0
男性18～29歳	20	80.0	70.0	65.0	60.0	60.0	50.0	35.0	5.0	10.0	5.0	-
30歳代	40	85.0	75.0	75.0	67.5	65.0	70.0	42.5	5.0	7.5	2.5	-
40歳代	109	78.0	77.1	75.2	72.5	57.8	50.5	22.9	8.3	4.6	2.8	-
50歳代	131	84.0	84.0	83.2	75.6	59.5	46.6	44.3	17.6	3.8	0.8	-
60歳代	111	82.0	87.4	84.7	74.8	60.4	41.4	27.9	18.0	5.4	-	0.9
70～74歳	78	79.5	88.5	82.1	62.8	59.0	35.9	26.9	12.8	5.1	-	1.3
75歳以上	52	71.2	76.9	69.2	65.4	44.2	19.2	21.2	1.9	3.8	1.9	5.8
女性18～29歳	29	79.3	75.9	82.8	72.4	69.0	58.6	17.2	-	-	-	-
30歳代	65	83.1	72.3	64.6	73.8	63.1	63.1	18.5	-	1.5	-	-
40歳代	136	74.3	72.8	69.1	69.1	52.2	45.6	25.0	8.1	4.4	2.2	2.2
50歳代	166	80.1	81.3	78.3	76.5	63.3	50.0	28.3	12.0	3.6	0.6	-
60歳代	105	85.7	81.9	76.2	81.9	56.2	41.9	22.9	12.4	1.9	-	1.0
70～74歳	62	87.1	88.7	79.0	71.0	45.2	29.0	17.7	17.7	3.2	1.6	3.2
75歳以上	55	85.5	85.5	80.0	80.0	61.8	30.9	14.5	9.1	1.8	-	-

#### 4 津波に対して実施が望まれる制度【問4】

##### 【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、「『津波災害警戒区域』の指定」が57.3%で最も多く、次いで「『津波災害特別警戒区域』の指定」が49.0%であった。（図表1-4-1）

図表1-4-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



図表1-4-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	「津波災害警戒区域」の指定	「津波災害特別警戒区域」の指定	「推進計画」の策定	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,213	57.3	49.0	36.2	3.1	7.3	18.8	3.5
【地域別】								
横浜	471	62.2	52.0	35.2	3.0	5.9	16.8	2.8
川崎	172	59.3	49.4	36.0	2.9	7.0	18.0	4.1
相模原	89	44.9	41.6	30.3	3.4	12.4	27.0	3.4
横須賀三浦	95	54.7	45.3	30.5	3.2	6.3	23.2	3.2
県央	101	56.4	47.5	39.6	1.0	11.9	20.8	-
湘南	204	54.9	50.5	43.6	4.4	7.4	20.1	1.0
県西	45	62.2	55.6	35.6	2.2	2.2	13.3	6.7
【性・年代別】								
男性	542	56.5	49.1	34.5	4.4	10.3	15.3	2.4
女性	620	59.5	50.5	38.1	1.8	4.5	22.1	2.9
男性18～29歳	20	60.0	40.0	15.0	-	20.0	20.0	-
30歳代	40	52.5	40.0	30.0	2.5	12.5	22.5	-
40歳代	109	64.2	59.6	36.7	5.5	6.4	11.0	0.9
50歳代	131	52.7	47.3	39.7	6.1	7.6	17.6	0.8
60歳代	111	59.5	52.3	38.7	5.4	8.1	13.5	1.8
70～74歳	78	57.7	44.9	26.9	3.8	15.4	15.4	3.8
75歳以上	52	44.2	42.3	30.8	-	15.4	15.4	11.5
女性18～29歳	29	51.7	51.7	41.4	-	6.9	20.7	-
30歳代	65	58.5	50.8	40.0	1.5	1.5	32.3	-
40歳代	136	51.5	43.4	36.0	2.2	5.1	27.2	4.4
50歳代	166	59.0	54.2	37.3	3.6	2.4	24.7	-
60歳代	105	68.6	55.2	40.0	-	7.6	15.2	2.9
70～74歳	62	67.7	50.0	41.9	-	4.8	9.7	8.1
75歳以上	55	60.0	47.3	32.7	1.8	5.5	18.2	5.5



## 第2章 子ども・子育て支援【問5～問6】

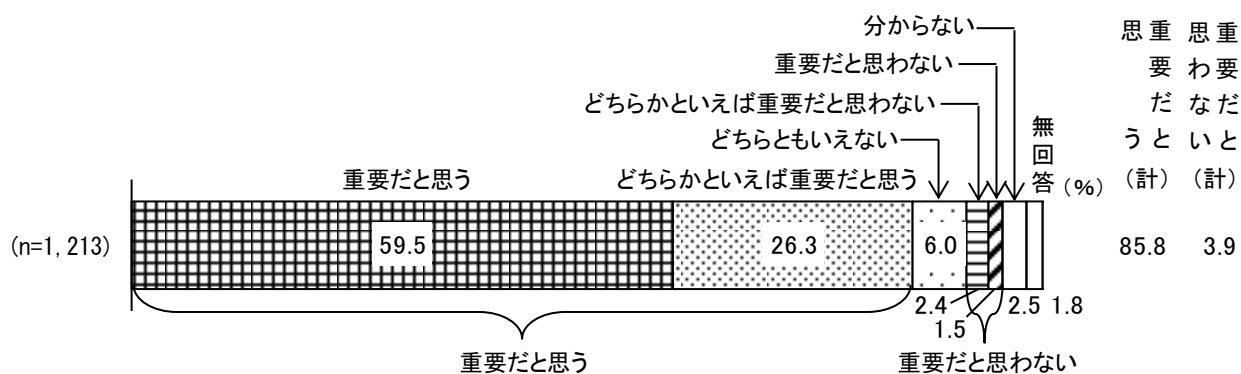
### 1 年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことの重要性【問5】

#### 【全体の状況】

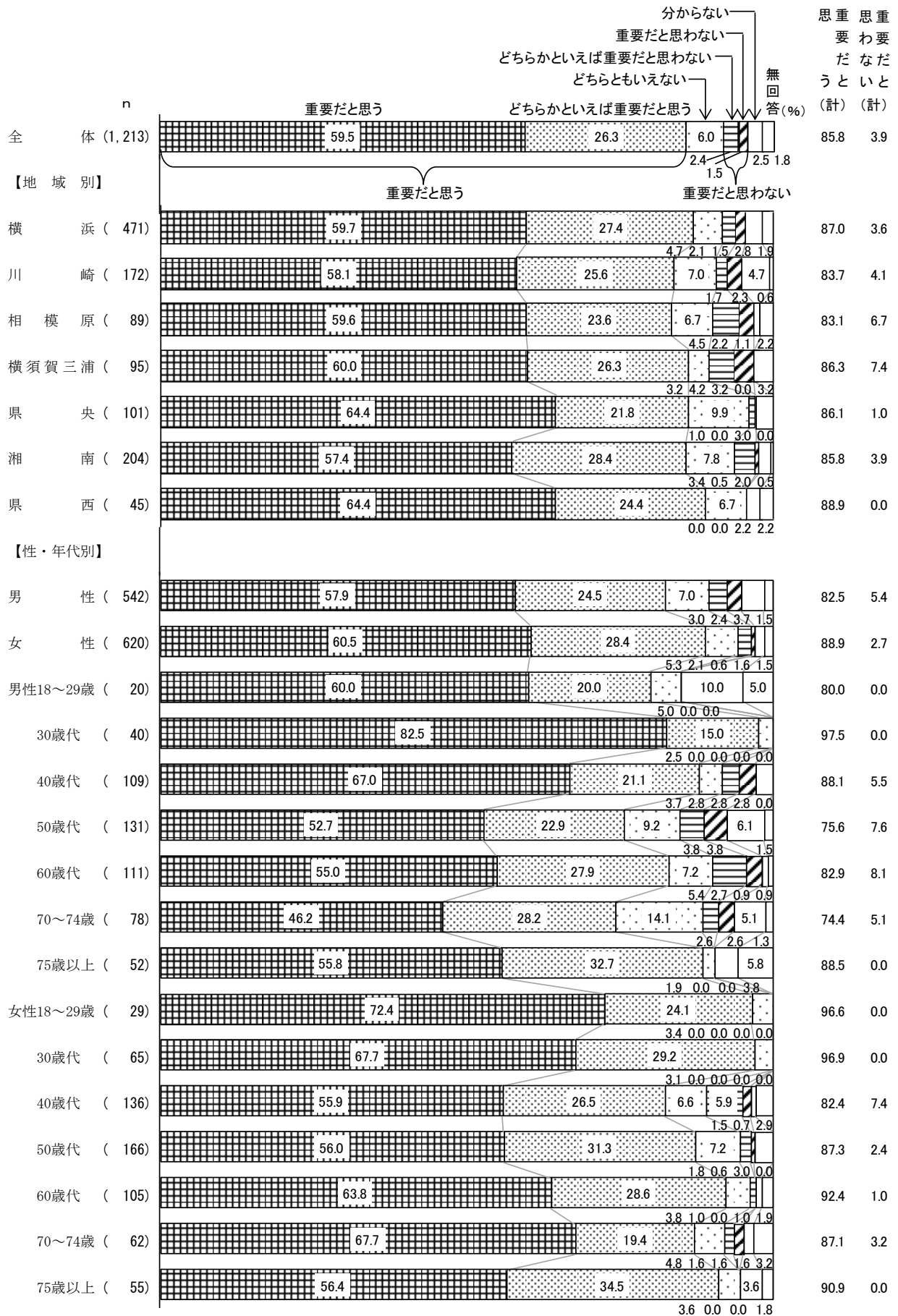
子どもに関する取組みを進める上で、年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことは重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(59.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(26.3%)を合わせた《重要だと思う》は85.8%であった。

一方、「重要だと思わない」(1.5%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(2.4%)を合わせた《重要だと思わない》は3.9%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことの重要性



図表2-1-2 年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことの重要性—地域別、性・年代別

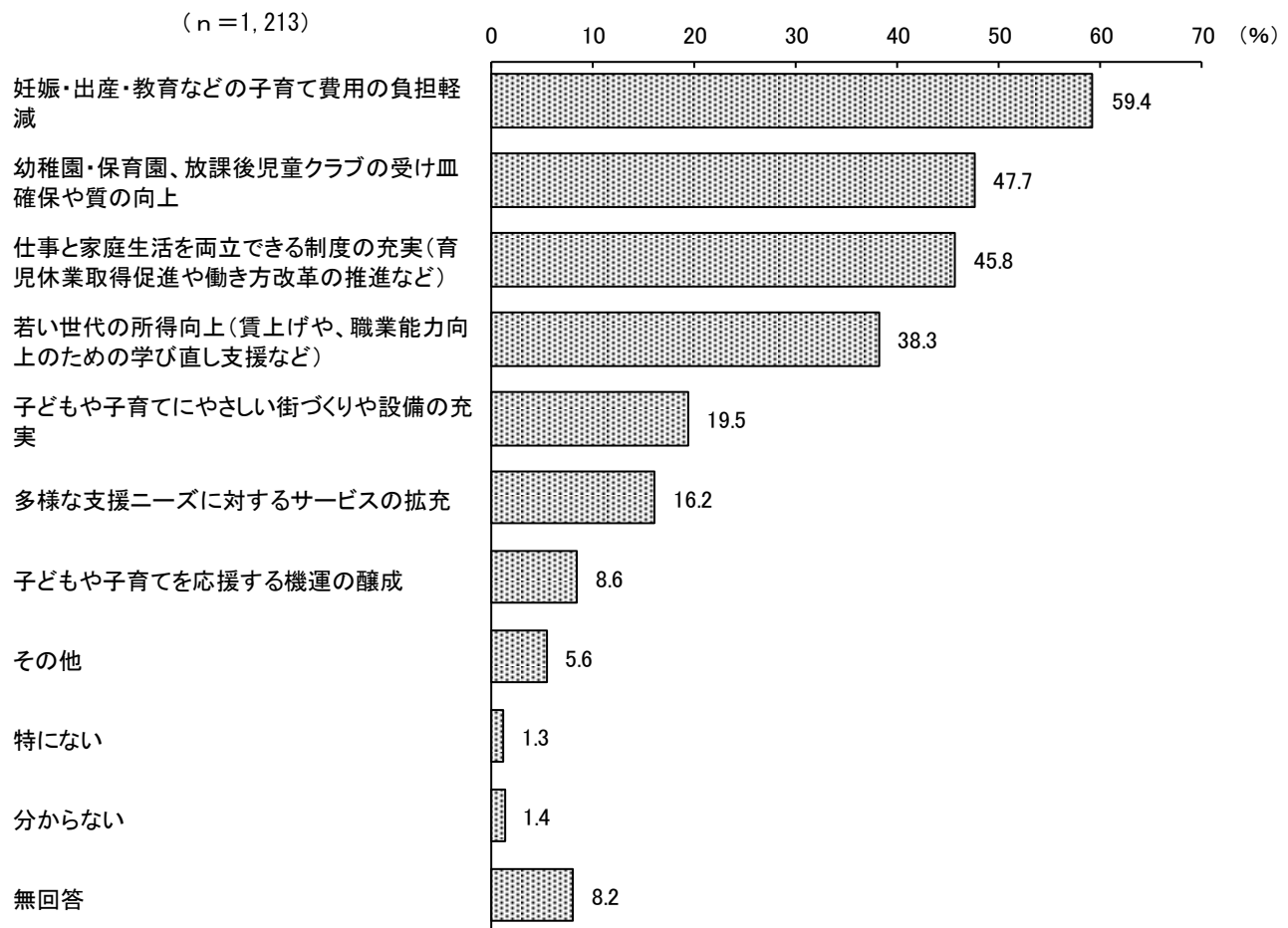


## 2 希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う 取組み【問6】

### 【全体の状況】

希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会を実現するために特に重要だと思う取組みについて複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「妊娠・出産・教育などの子育て費用の負担軽減」が59.4%で最も多く、次いで「幼稚園・保育園、放課後児童クラブの受け皿確保や質の向上」が47.7%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う  
取組み（複数回答）



図表2-2-2 希望する人数の子どもを持つことができる社会の実現のために特に重要だと思う  
取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	妊娠・出産・教育などの子育て費用の負担軽減	幼稚園・保育園、放課後児童クラブの受け皿確保や質の向上	仕事と家庭生活を両立できる制度の充実（育児休業取得促進や働き方改革の推進など）	職業能力向上のための学び直し支援など	若い世代の所得向上（賃上げや、職業能力向上のための学び直し支援など）	子どもや子育てにやさしい街づくりや設備の充実	多様な支援ニーズに対するサービスの拡充	子どもや子育てを応援する機運の醸成	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,213	59.4	47.7	45.8	38.3	19.5	16.2	8.6	5.6	1.3	1.4	8.2	
【地域別】													
横浜	471	60.1	49.0	49.5	40.6	20.8	14.4	7.4	5.7	1.7	1.1	5.9	
川崎	172	62.2	43.0	43.6	44.2	16.3	16.3	7.0	7.0	1.2	1.7	6.4	
相模原	89	64.0	51.7	40.4	40.4	21.3	18.0	6.7	1.1	2.2	1.1	6.7	
横須賀三浦	95	60.0	49.5	42.1	26.3	17.9	23.2	6.3	5.3	2.1	2.1	11.6	
県央	101	62.4	49.5	45.5	35.6	9.9	15.8	11.9	4.0	1.0	2.0	11.9	
湘南	204	56.4	47.5	43.1	35.3	24.5	17.2	13.2	6.9	0.5	1.5	8.8	
県西	45	48.9	40.0	53.3	40.0	11.1	15.6	11.1	11.1	-	2.2	8.9	
【性・年代別】													
男性	542	65.9	48.5	41.5	42.8	18.6	13.8	10.1	5.0	1.7	1.3	6.8	
女性	620	54.7	47.6	50.3	35.6	20.0	18.5	7.6	6.5	1.0	1.6	8.1	
男性18～29歳	20	60.0	40.0	45.0	80.0	15.0	5.0	5.0	5.0	-	5.0	5.0	
30歳代	40	80.0	57.5	40.0	72.5	22.5	10.0	7.5	-	-	-	-	
40歳代	109	61.5	44.0	45.0	45.9	18.3	12.8	10.1	10.1	-	0.9	11.0	
50歳代	131	72.5	44.3	38.2	42.0	15.3	12.2	11.5	6.1	3.1	1.5	2.3	
60歳代	111	59.5	57.7	37.8	33.3	22.5	14.4	7.2	6.3	2.7	0.9	8.1	
70～74歳	78	71.8	53.8	44.9	32.1	17.9	15.4	11.5	-	1.3	1.3	6.4	
75歳以上	52	55.8	36.5	46.2	36.5	19.2	21.2	15.4	-	1.9	1.9	13.5	
女性18～29歳	29	79.3	41.4	44.8	58.6	24.1	6.9	3.4	3.4	-	3.4	6.9	
30歳代	65	70.8	46.2	46.2	60.0	21.5	7.7	6.2	9.2	-	-	4.6	
40歳代	136	56.6	44.1	52.2	30.9	24.3	22.1	9.6	8.8	2.2	2.2	5.9	
50歳代	166	44.0	47.0	50.0	36.1	15.1	20.5	6.6	7.2	0.6	2.4	7.8	
60歳代	105	51.4	55.2	48.6	33.3	18.1	22.9	8.6	4.8	-	1.0	9.5	
70～74歳	62	58.1	54.8	50.0	17.7	17.7	16.1	3.2	4.8	3.2	1.6	12.9	
75歳以上	55	54.5	40.0	56.4	29.1	23.6	18.2	12.7	1.8	-	-	10.9	

### 第3章 かながわの水源地域【問7～問9】

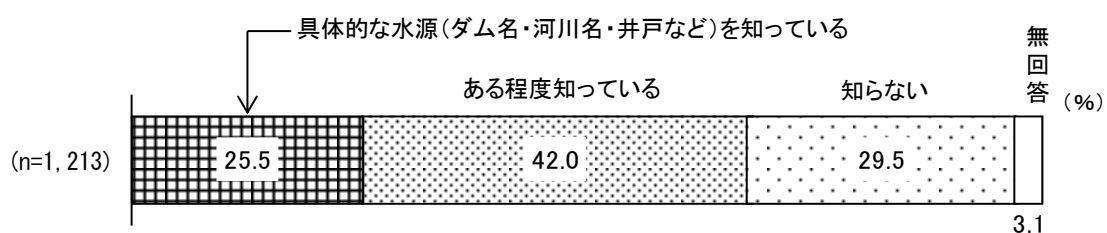
#### 1 家で使っている水道の水源の認知度【問7】

##### 【全体の状況】

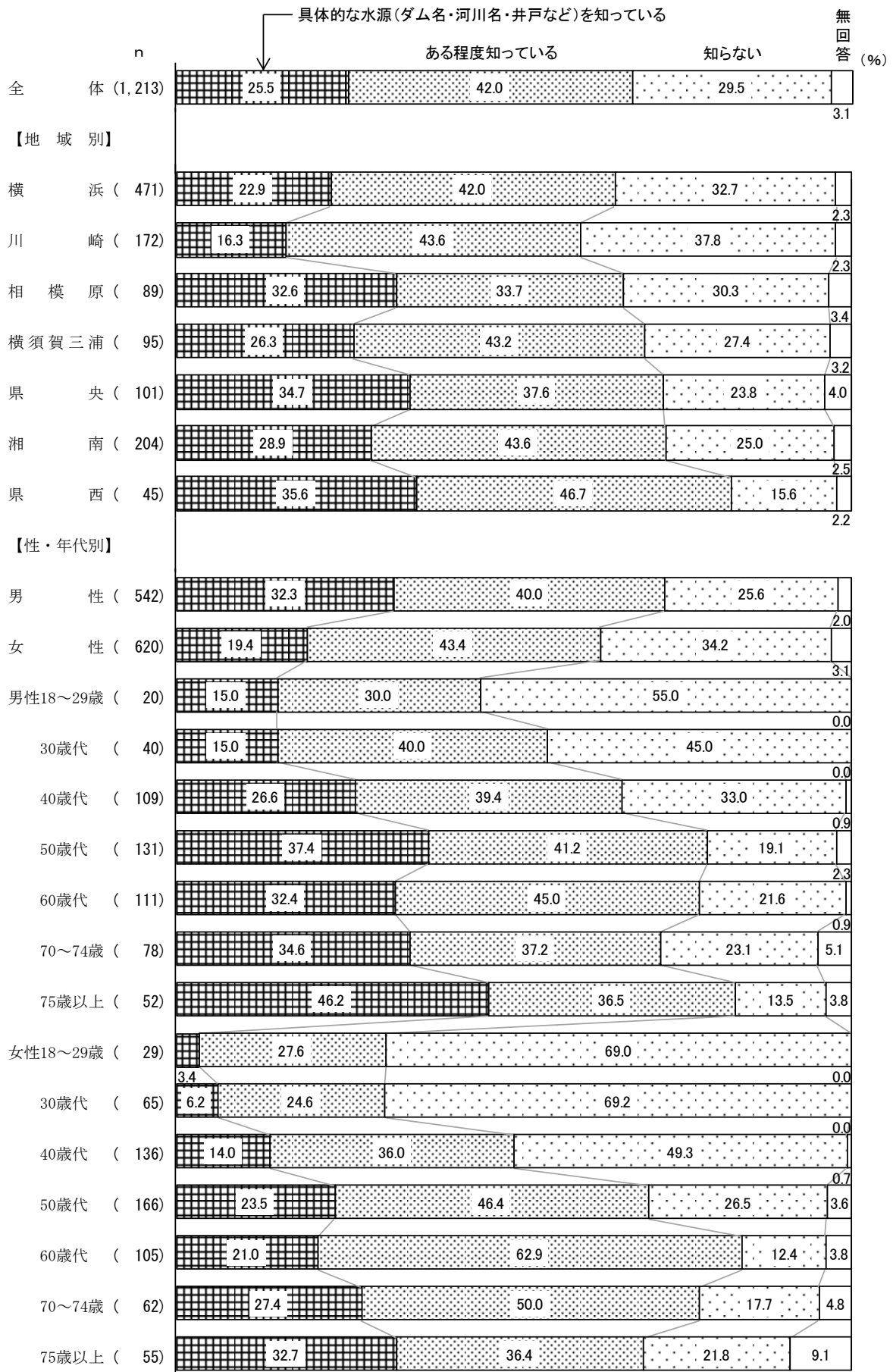
家で使っている水道の水源はどこか知っているか尋ねたところ、「具体的な水源（ダム名・河川名・井戸など）を知っている」が25.5%であった。また、「ある程度知っている」が42.0%であった。

一方、「知らない」は29.5%であった。（図表3-1-1）

図表3-1-1 家で使っている水道の水源の認知度



図表3-1-2 家で使っている水道の水源の認知度—地域別、性・年代別

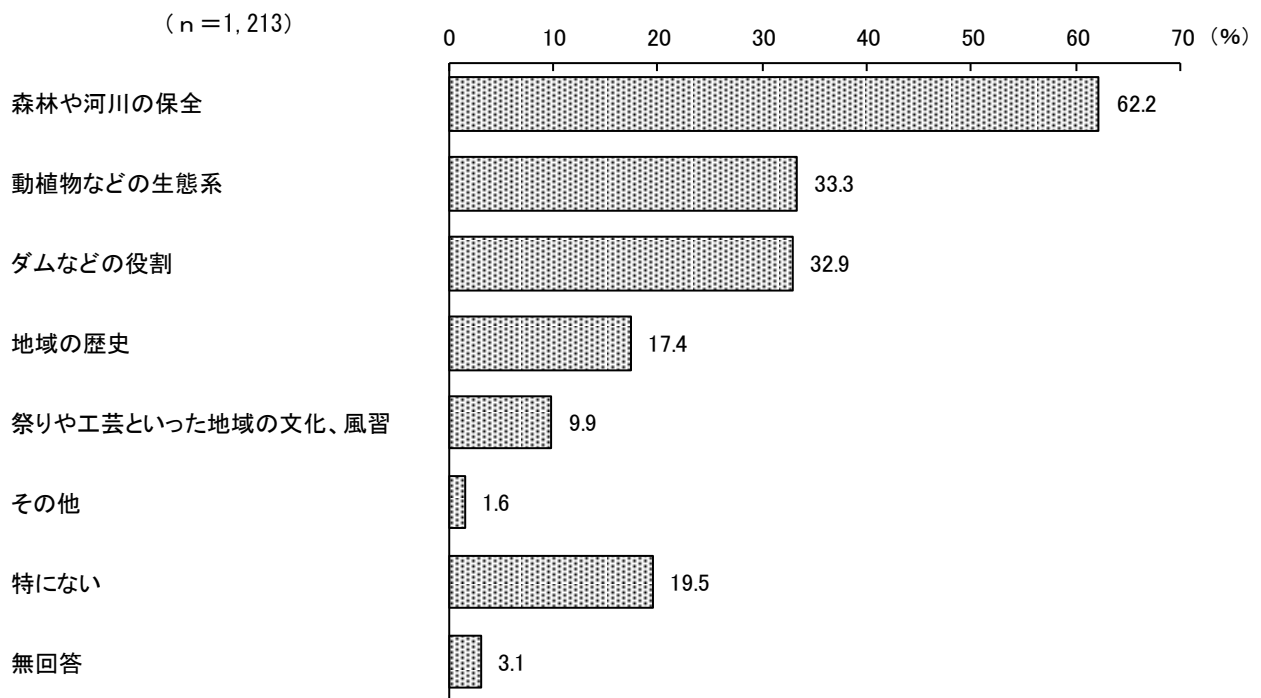


## 2 かながわの水源地域への関心【問8】

### 【全体の状況】

かながわの水源地域について知りたいことを複数回答で尋ねたところ、「森林や河川の保全」が62.2%で最も多く、次いで「動植物などの生態系」が33.3%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 かながわの水源地域への関心（複数回答）



図表3-2-2 かながわの水源地域への関心（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)									
	n	森林や河川の保全	動植物などの生態系	ダムなどの役割	地域の歴史	風習 祭りや工芸といった地域の文化、	その他	特にない	無回答
全体	1,213	62.2	33.3	32.9	17.4	9.9	1.6	19.5	3.1
【地域別】									
横浜	471	60.3	33.1	33.1	18.5	10.6	0.8	19.3	2.5
川崎	172	68.6	30.2	29.7	18.0	8.7	1.7	15.7	3.5
相模原	89	50.6	29.2	38.2	15.7	16.9	2.2	23.6	4.5
横須賀三浦	95	60.0	33.7	28.4	17.9	8.4	3.2	24.2	2.1
県央	101	62.4	33.7	37.6	16.8	9.9	1.0	20.8	5.0
湘南	204	66.2	38.7	30.9	16.7	8.3	2.5	18.6	1.5
県西	45	64.4	28.9	44.4	11.1	2.2	2.2	20.0	2.2
【性・年代別】									
男性	542	59.8	28.2	35.1	18.6	8.1	2.0	21.0	2.0
女性	620	64.4	37.6	31.1	16.8	11.1	1.3	18.2	3.4
男性18～29歳	20	20.0	25.0	20.0	10.0	5.0	-	45.0	-
30歳代	40	37.5	27.5	37.5	25.0	25.0	-	32.5	-
40歳代	109	58.7	32.1	36.7	19.3	10.1	0.9	19.3	0.9
50歳代	131	56.5	28.2	37.4	19.8	7.6	3.1	19.1	1.5
60歳代	111	64.9	25.2	29.7	15.3	2.7	1.8	24.3	1.8
70～74歳	78	73.1	29.5	29.5	19.2	7.7	3.8	12.8	6.4
75歳以上	52	73.1	26.9	50.0	19.2	5.8	1.9	15.4	1.9
女性18～29歳	29	44.8	24.1	20.7	6.9	6.9	-	48.3	-
30歳代	65	46.2	35.4	26.2	10.8	6.2	-	30.8	-
40歳代	136	55.1	38.2	30.9	19.1	19.9	2.2	22.1	1.5
50歳代	166	62.0	35.5	25.9	21.7	7.2	3.0	20.5	3.0
60歳代	105	80.0	44.8	37.1	8.6	9.5	-	4.8	6.7
70～74歳	62	83.9	43.5	43.5	19.4	14.5	-	6.5	1.6
75歳以上	55	72.7	30.9	32.7	20.0	9.1	-	10.9	10.9

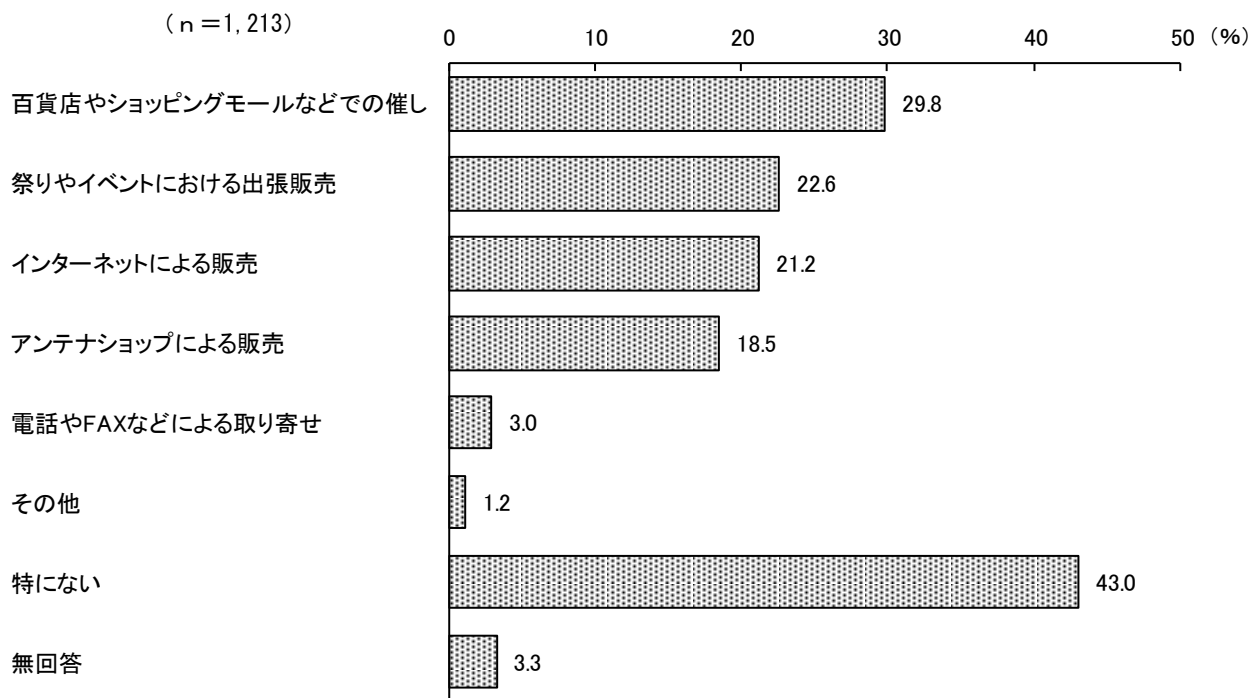


### 3 「やまなみグッズ」を購入したい場所や方法【問9】

#### 【全体の状況】

水源地域の外で「やまなみグッズ」を購入したい場所や方法を複数回答で尋ねたところ、「百貨店やショッピングモールなどでの催し」が29.8%で最も多く、次いで「祭りやイベントにおける出張販売」が22.6%であった。（図表3-3-1）

図表3-3-1 「やまなみグッズ」を購入したい場所や方法（複数回答）



図表3-3-2 「やまなみグッズ」を購入したい場所や方法（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)							
	n	百貨店やショッピングモールなどの催し	祭りやイベントにおける出張販売	インターネットによる販売	アンテナショップによる販売	電話やFAXなどによる取り寄せ	その他	特にない	無回答
全体	1,213	29.8	22.6	21.2	18.5	3.0	1.2	43.0	3.3
【地域別】									
横浜	471	30.1	22.9	21.9	18.5	2.3	1.1	42.0	3.0
川崎	172	27.9	20.3	23.8	18.0	3.5	2.3	44.2	3.5
相模原	89	18.0	22.5	14.6	25.8	1.1	-	49.4	3.4
横須賀三浦	95	30.5	16.8	20.0	14.7	2.1	1.1	46.3	2.1
県央	101	29.7	26.7	17.8	15.8	3.0	1.0	44.6	4.0
湘南	204	31.4	25.0	23.5	20.1	3.9	1.5	41.7	2.0
県西	45	44.4	17.8	20.0	13.3	2.2	2.2	40.0	2.2
【性・年代別】									
男性	542	23.1	19.2	19.9	17.3	3.1	0.9	51.8	1.8
女性	620	35.5	25.2	22.9	19.7	2.4	1.6	36.0	3.7
男性18～29歳	20	10.0	10.0	20.0	10.0	-	-	65.0	-
30歳代	40	10.0	22.5	5.0	12.5	-	-	62.5	-
40歳代	109	30.3	19.3	19.3	17.4	-	0.9	49.5	0.9
50歳代	131	22.1	23.7	22.9	19.1	0.8	0.8	49.6	1.5
60歳代	111	14.4	13.5	19.8	17.1	3.6	-	61.3	0.9
70～74歳	78	28.2	23.1	21.8	19.2	11.5	2.6	42.3	5.1
75歳以上	52	34.6	15.4	21.2	17.3	5.8	1.9	44.2	3.8
女性18～29歳	29	24.1	27.6	17.2	10.3	-	3.4	55.2	-
30歳代	65	23.1	23.1	20.0	12.3	-	-	47.7	-
40歳代	136	34.6	34.6	24.3	21.3	0.7	0.7	34.6	1.5
50歳代	166	34.3	24.1	25.3	23.5	1.2	3.0	34.3	3.0
60歳代	105	36.2	17.1	27.6	21.9	1.0	1.0	33.3	4.8
70～74歳	62	53.2	33.9	24.2	21.0	6.5	-	24.2	6.5
75歳以上	55	40.0	12.7	9.1	12.7	12.7	3.6	38.2	12.7

## 第4章 生物多様性【問10～問12】

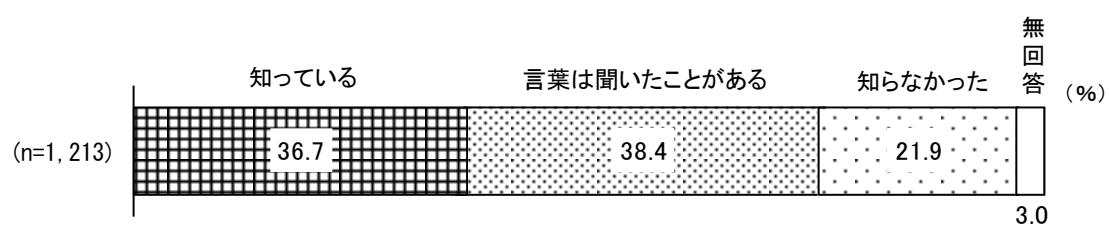
### 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問10】

#### 【全体の状況】

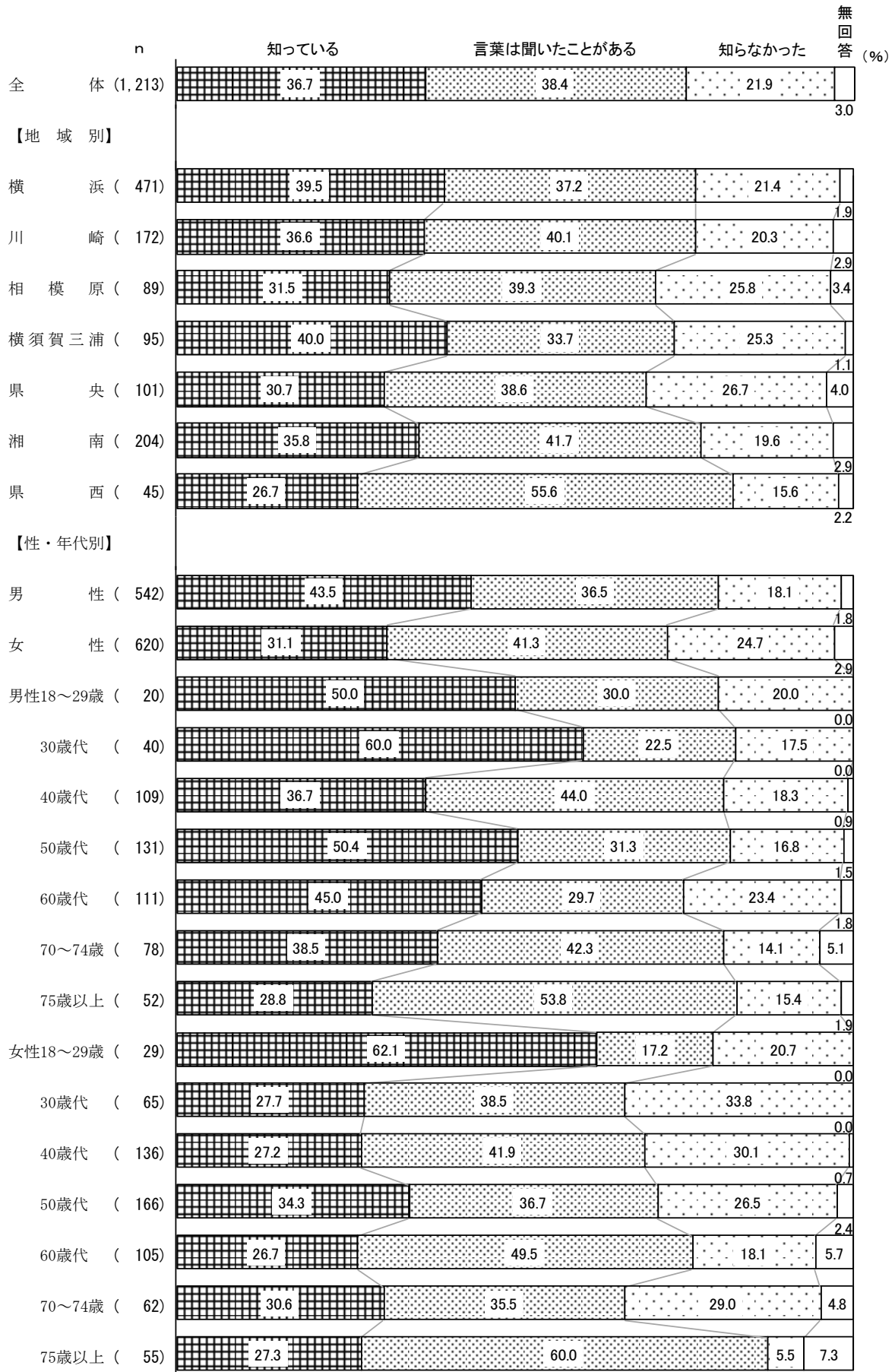
「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が36.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.4%であった。

一方、「知らなかった」が21.9%であった。(図表4-1-1)

図表4-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表4-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

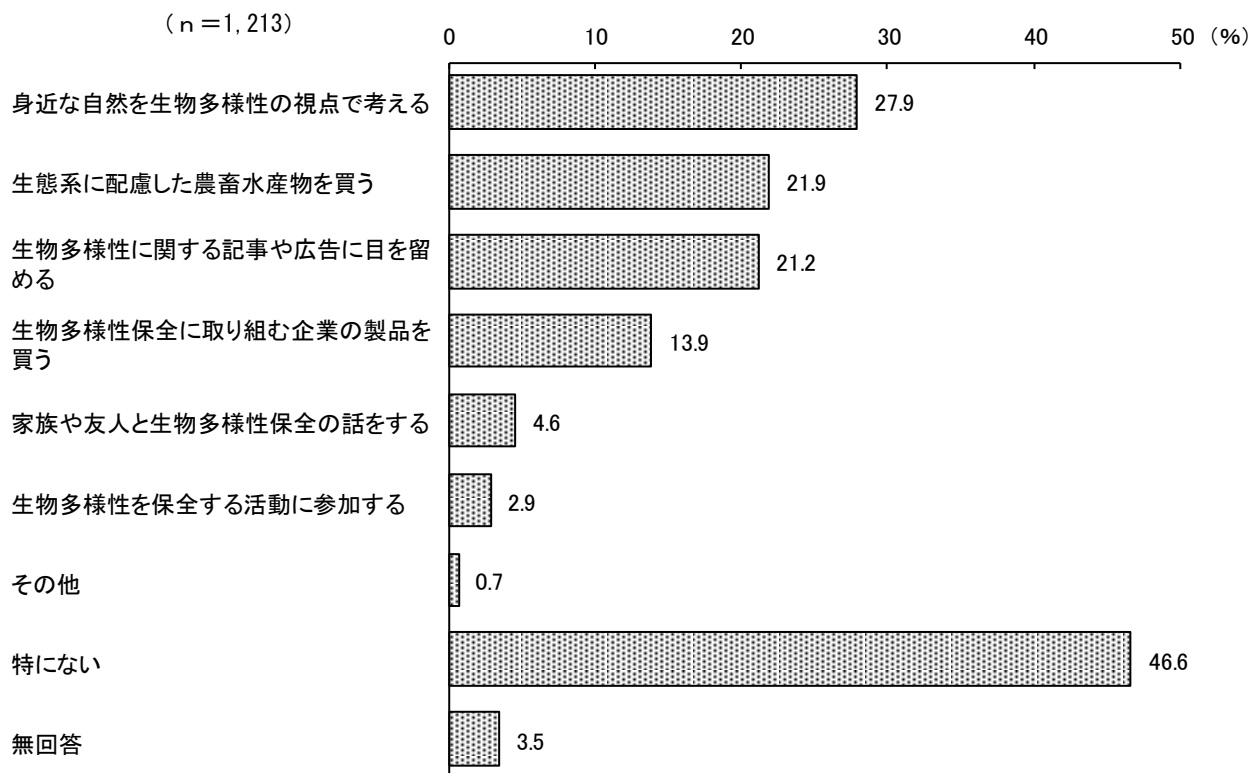


## 2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること【問11】

### 【全体の状況】

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が27.9%で最も多く、次いで「生態系に配慮した農畜水産物を買う」が21.9%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）



図表4-2-2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）

—地域別、性・年代別

		(%)								
	n	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生態系に配慮した農畜水産物を買う	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生物多様性保全に取り組む企業の製品を買う	家族や友人と生物多様性保全の話をする	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にない	無回答
全体	1,213	27.9	21.9	21.2	13.9	4.6	2.9	0.7	46.6	3.5
【地域別】										
横浜	471	28.7	20.6	18.5	13.8	3.6	3.4	0.8	46.1	3.0
川崎	172	26.2	19.8	23.3	14.5	3.5	1.2	0.6	48.3	4.7
相模原	89	24.7	20.2	21.3	10.1	5.6	2.2	2.2	50.6	3.4
横須賀三浦	95	33.7	29.5	20.0	15.8	4.2	5.3	1.1	42.1	4.2
県央	101	24.8	26.7	23.8	12.9	5.9	1.0	-	52.5	3.0
湘南	204	28.4	22.5	25.0	15.2	7.8	3.4	0.5	44.6	1.5
県西	45	24.4	20.0	22.2	13.3	4.4	2.2	-	48.9	4.4
【性・年代別】										
男性	542	30.6	18.3	20.5	12.9	5.4	4.1	0.7	47.2	2.2
女性	620	25.5	25.3	21.9	15.2	4.2	1.9	0.8	46.5	3.9
男性18～29歳	20	10.0	-	5.0	5.0	-	-	-	80.0	-
30歳代	40	20.0	12.5	5.0	7.5	-	7.5	2.5	62.5	-
40歳代	109	27.5	16.5	14.7	11.9	7.3	4.6	-	56.9	0.9
50歳代	131	32.8	16.8	22.9	15.3	7.6	3.8	0.8	42.7	1.5
60歳代	111	29.7	14.4	18.0	9.9	1.8	3.6	-	50.5	1.8
70～74歳	78	33.3	33.3	28.2	19.2	7.7	2.6	1.3	33.3	5.1
75歳以上	52	44.2	23.1	36.5	13.5	5.8	3.8	1.9	28.8	5.8
女性18～29歳	29	20.7	13.8	24.1	10.3	3.4	3.4	3.4	58.6	-
30歳代	65	16.9	12.3	9.2	10.8	3.1	1.5	-	70.8	-
40歳代	136	17.6	17.6	16.9	12.5	8.1	1.5	1.5	55.1	2.2
50歳代	166	25.3	25.3	22.3	12.7	3.6	2.4	-	48.8	3.6
60歳代	105	32.4	40.0	26.7	26.7	4.8	-	-	34.3	4.8
70～74歳	62	33.9	29.0	33.9	17.7	1.6	6.5	-	32.3	4.8
75歳以上	55	32.7	32.7	23.6	12.7	-	-	3.6	23.6	12.7

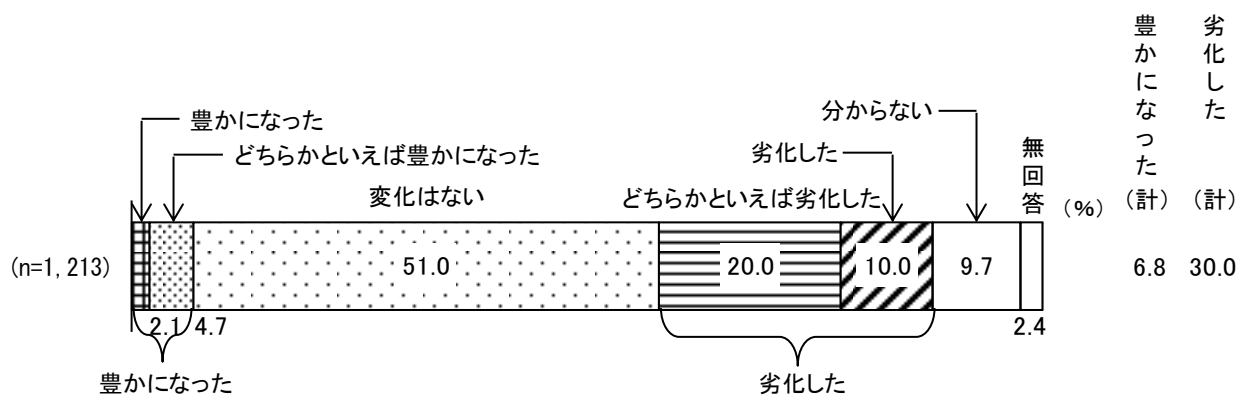
### 3 周辺地域の自然環境の変化【問12】

#### 【全体の状況】

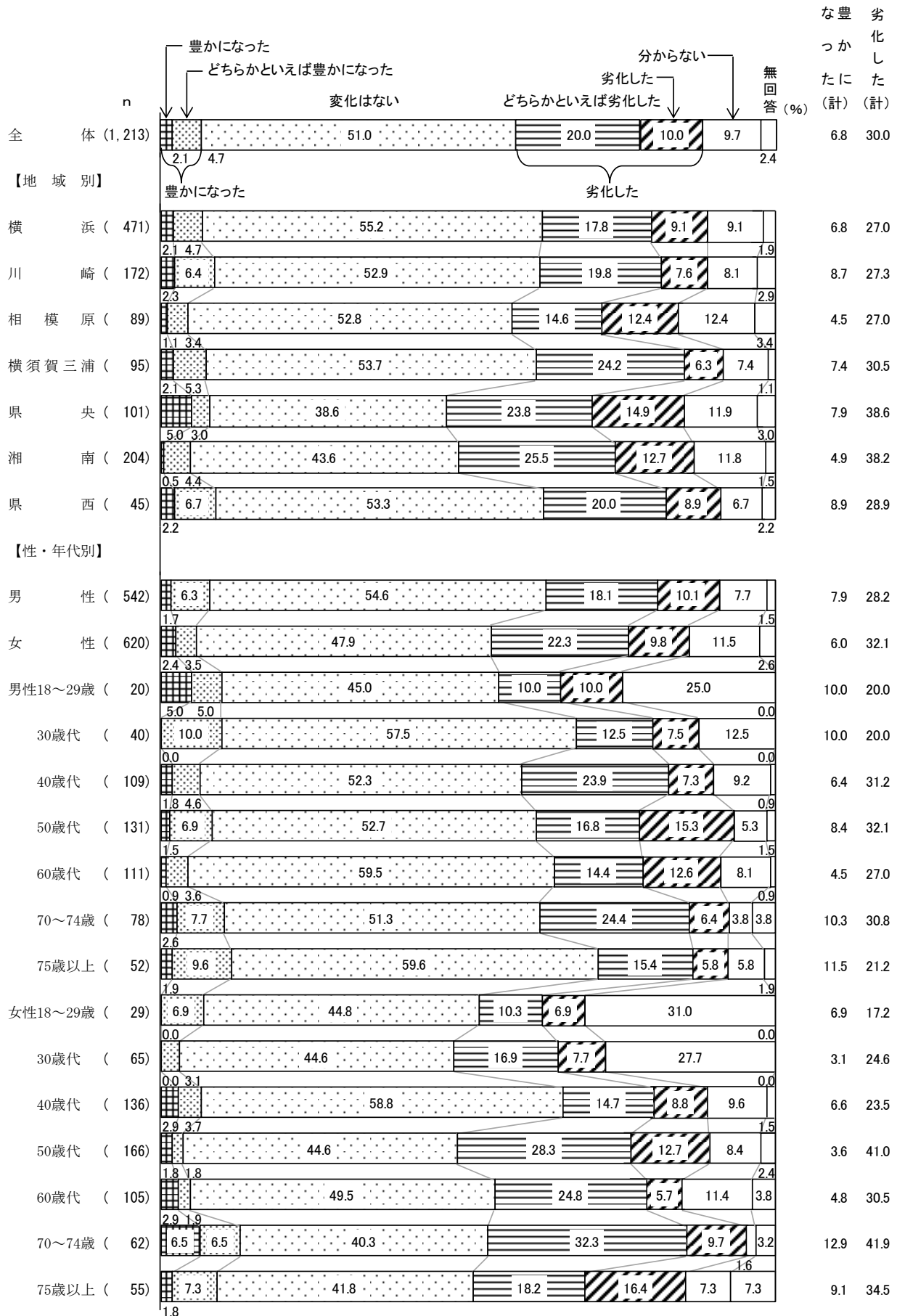
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(2.1%)と「どちらかといえば豊かになった」(4.7%)を合わせた《豊かになった》は6.8%であった。

一方、「劣化した」(10.0%)と「どちらかといえば劣化した」(20.0%)を合わせた《劣化した》は30.0%であった。(図表4-3-1)

図表4-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表4-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別





## 第5章 「未病改善」の取組み【問13～問16】

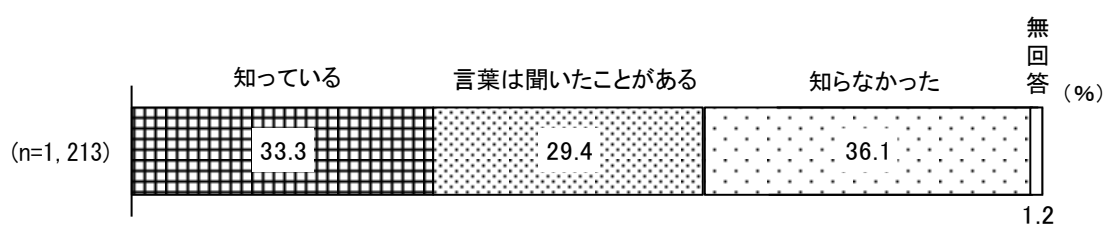
### 1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問13】

#### 【全体の状況】

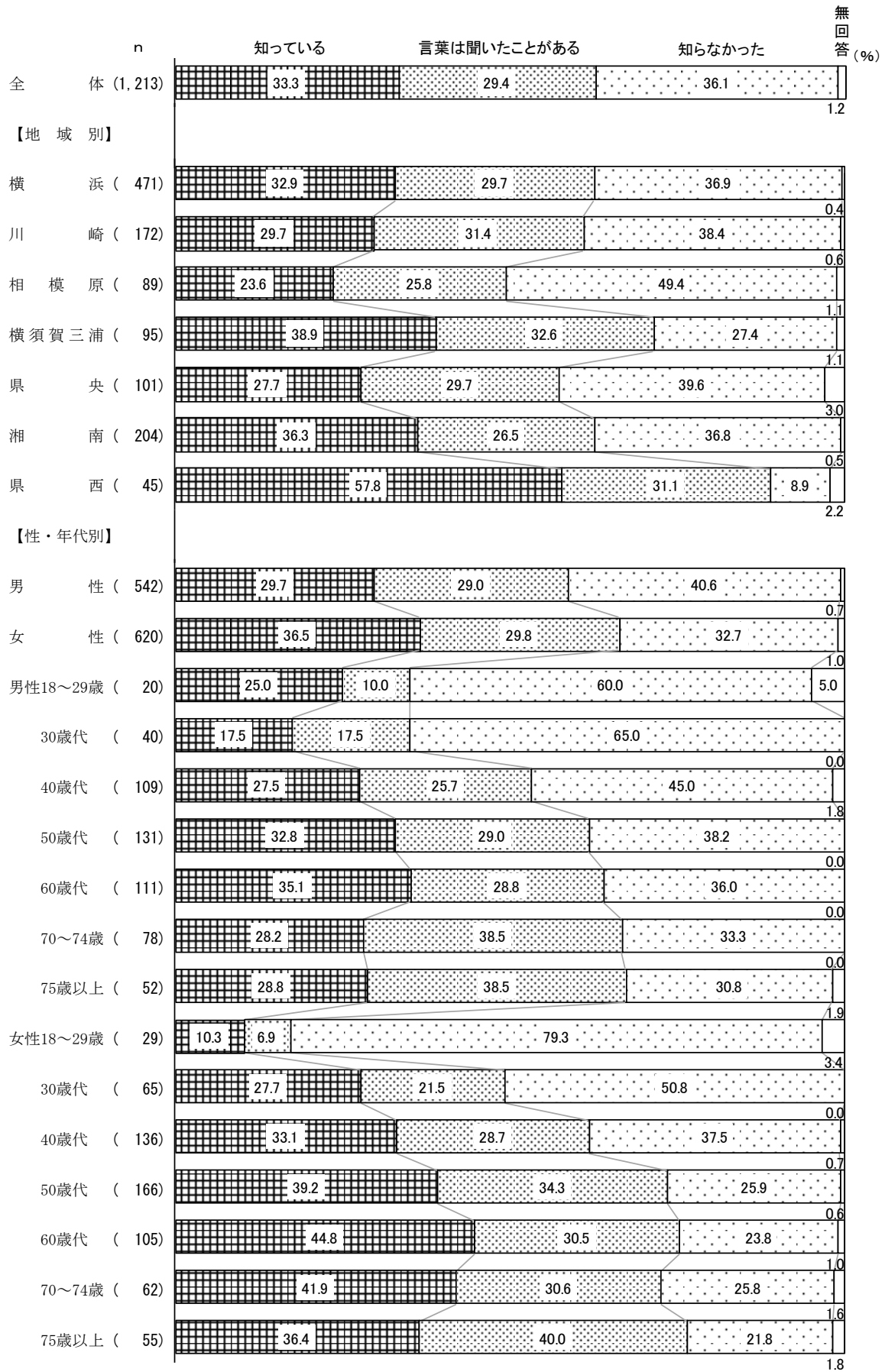
「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が33.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が29.4%であった。

一方、「知らなかった」が36.1%であった。（図表5-1-1）

図表5-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表5-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別

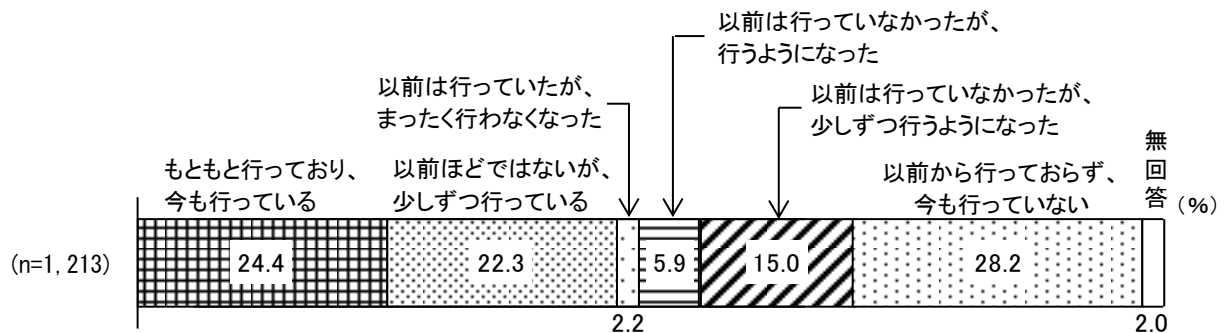


## 2 過去1年間の「未病改善」の取組状況【問14】

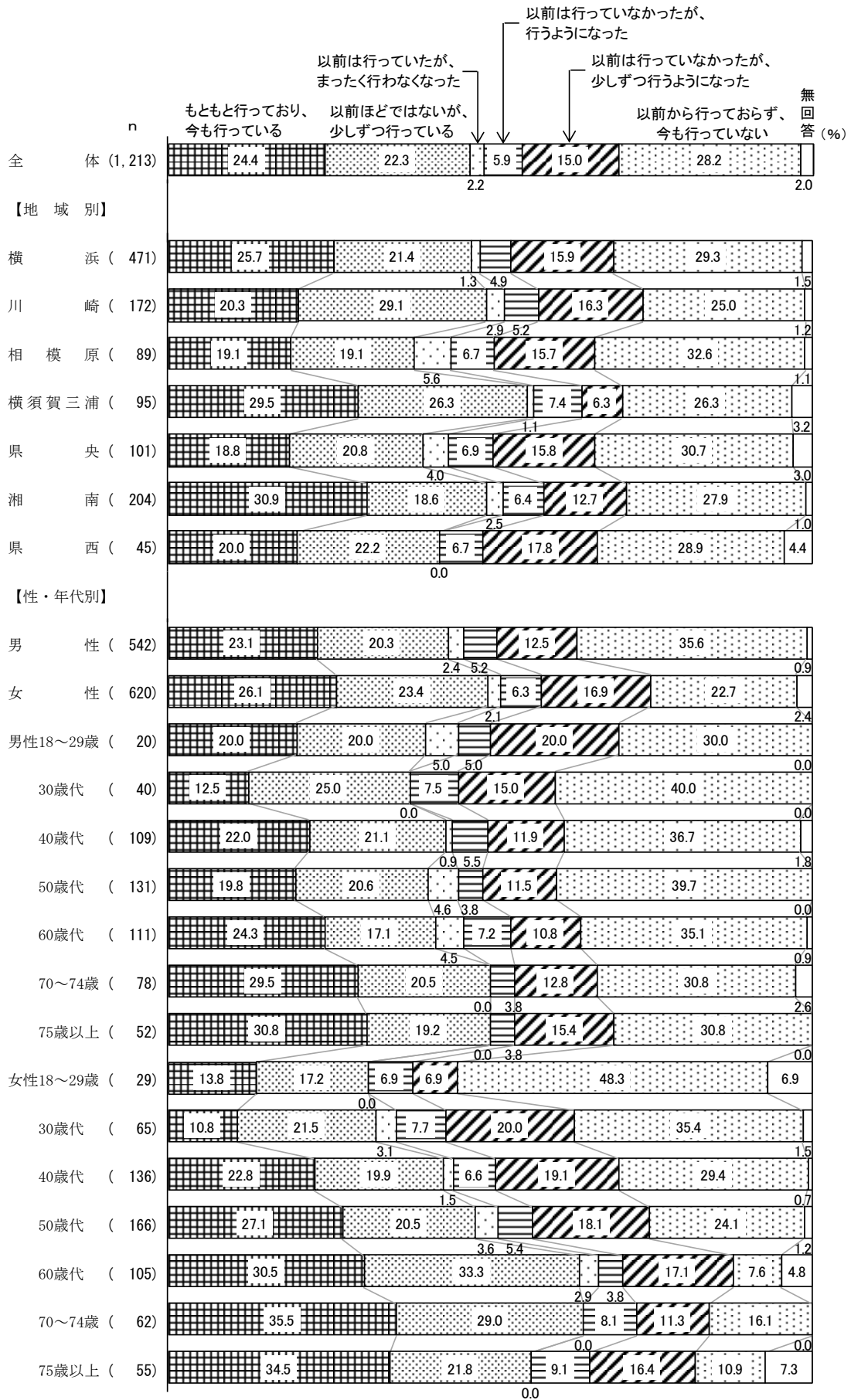
### 【全体の状況】

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「以前から行っておらず、今も行っていない」が28.2%で最も多く、次いで「もともと行っており、今も行っている」が24.4%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 過去1年間の「未病改善」の取組状況



図表5-2-2 過去1年間の「未病改善」の取組状況—地域別、性・年代別

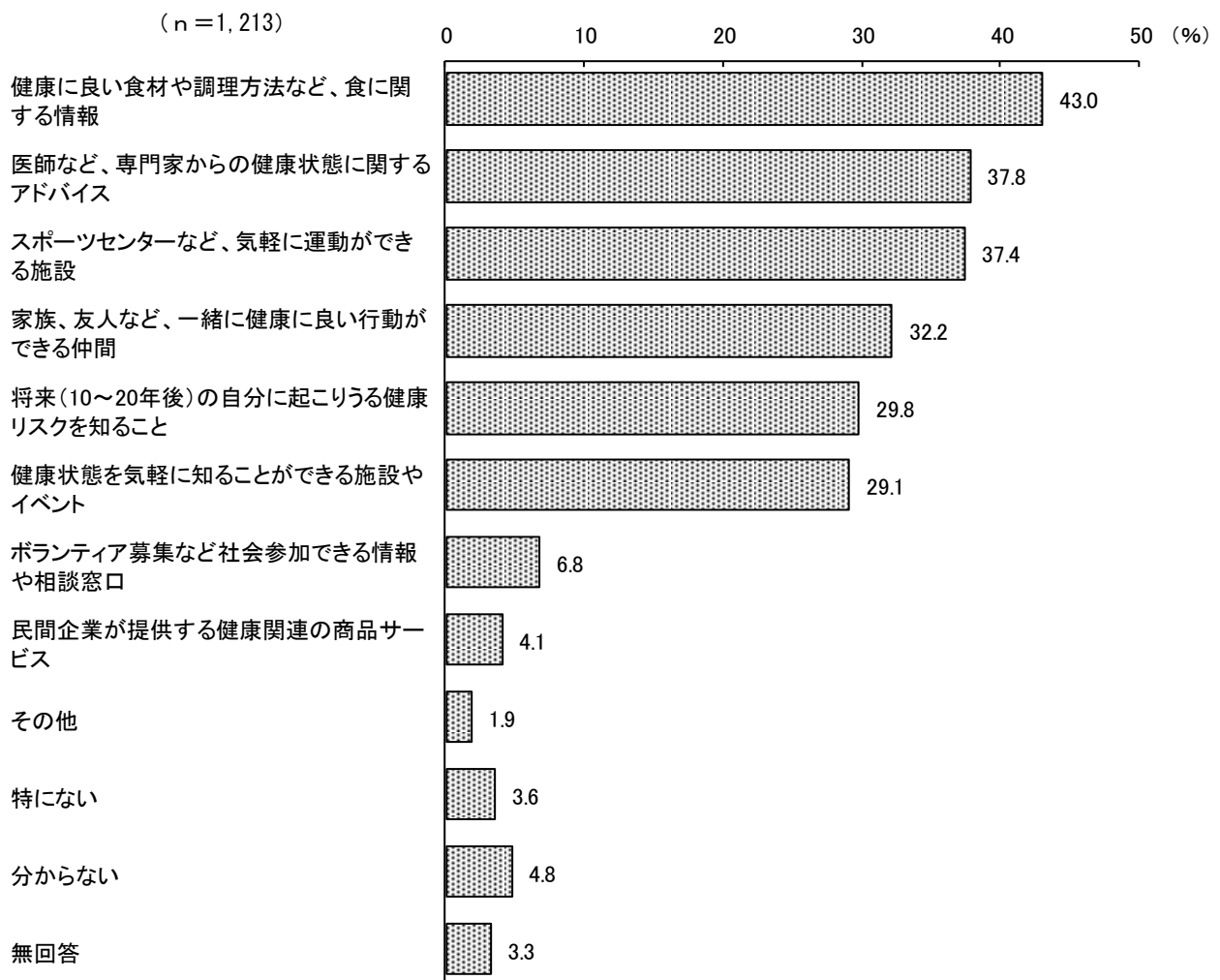


### 3 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問15】

#### 【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報」が43.0%で最も多く、次いで「医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス」が37.8%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表5-3-2 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	食健康に関する情報	健康に良い食材や調理方法など、	医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	将来（10～20年後）の自分について起こりうる健康リスクを知ること	健康状態を気軽に知ることができ、施設やイベント	ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,213	43.0	37.8	37.4	32.2	29.8	29.1	6.8	4.1	1.9	3.6	4.8	3.3	
【地域別】														
横浜	471	42.9	42.0	40.3	31.8	29.1	30.6	6.8	3.6	1.7	3.4	5.5	1.5	
川崎	172	46.5	34.3	33.7	40.1	35.5	31.4	3.5	8.7	0.6	1.7	4.1	4.1	
相模原	89	38.2	33.7	42.7	18.0	28.1	25.8	7.9	3.4	3.4	4.5	10.1	3.4	
横須賀三浦	95	45.3	36.8	35.8	37.9	31.6	23.2	6.3	2.1	2.1	5.3	2.1	2.1	
県央	101	43.6	37.6	37.6	27.7	32.7	30.7	7.9	3.0	-	3.0	5.0	4.0	
湘南	204	42.2	32.8	35.8	33.8	26.0	27.5	8.8	3.4	2.9	3.9	2.9	4.4	
県西	45	42.2	46.7	35.6	24.4	33.3	26.7	6.7	2.2	6.7	2.2	2.2	6.7	
【性・年代別】														
男性	542	39.1	45.4	37.6	27.3	29.7	26.2	6.6	4.1	1.8	4.4	5.9	2.0	
女性	620	46.5	31.1	38.5	36.8	30.3	31.9	7.1	4.0	2.1	2.6	3.9	3.7	
男性18～29歳	20	25.0	25.0	55.0	45.0	10.0	35.0	-	5.0	-	-	20.0	-	
30歳代	40	50.0	45.0	42.5	32.5	35.0	10.0	7.5	12.5	-	2.5	5.0	2.5	
40歳代	109	38.5	32.1	46.8	33.0	27.5	26.6	5.5	2.8	2.8	4.6	5.5	4.6	
50歳代	131	36.6	49.6	31.3	27.5	35.9	22.9	5.3	3.1	3.1	3.8	3.8	-	
60歳代	111	38.7	42.3	37.8	24.3	28.8	29.7	11.7	4.5	1.8	7.2	6.3	1.8	
70～74歳	78	38.5	60.3	28.2	24.4	29.5	28.2	9.0	3.8	1.3	3.8	6.4	-	
75歳以上	52	46.2	55.8	38.5	15.4	25.0	32.7	-	1.9	-	3.8	5.8	3.8	
女性18～29歳	29	37.9	34.5	44.8	37.9	27.6	20.7	3.4	6.9	10.3	6.9	3.4	3.4	
30歳代	65	49.2	23.1	47.7	47.7	41.5	24.6	1.5	7.7	-	-	4.6	3.1	
40歳代	136	44.1	30.9	37.5	36.0	26.5	30.1	5.9	6.6	2.2	2.9	7.4	3.7	
50歳代	166	37.3	28.3	40.4	34.9	34.9	34.9	6.0	2.4	3.0	2.4	3.0	3.6	
60歳代	105	49.5	37.1	34.3	34.3	33.3	37.1	13.3	1.9	1.9	1.9	1.9	3.8	
70～74歳	62	56.5	30.6	33.9	30.6	17.7	38.7	8.1	4.8	-	4.8	4.8	3.2	
75歳以上	55	63.6	38.2	34.5	40.0	21.8	25.5	7.3	-	-	1.8	-	5.5	

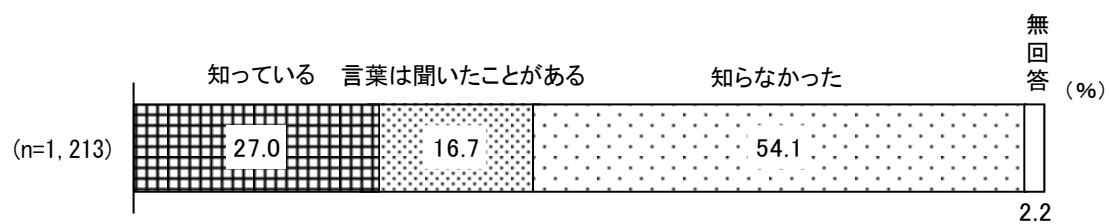
#### 4 「フレイル」の認知度【問16】

##### 【全体の状況】

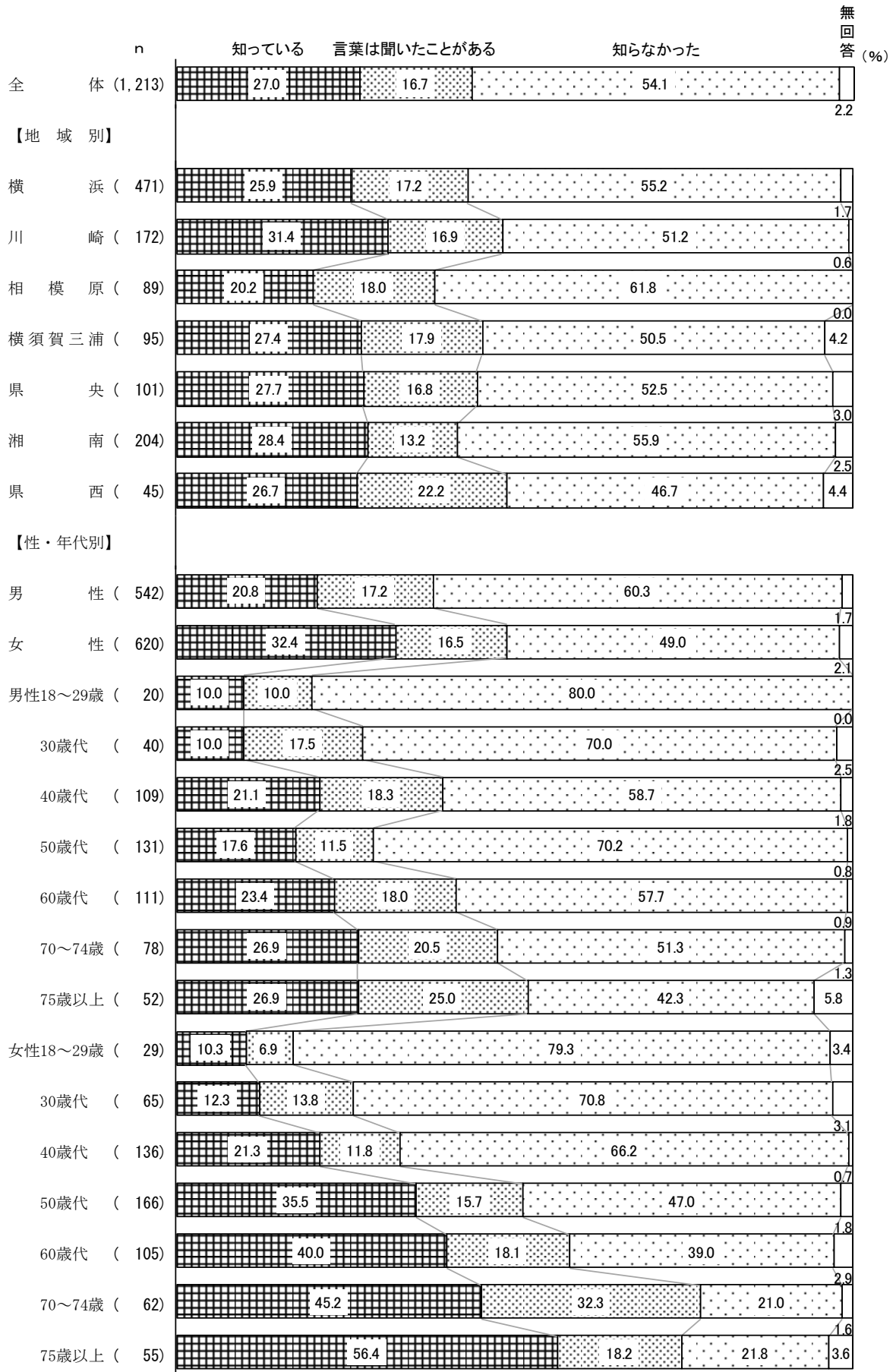
「フレイル」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が16.7%であった。

一方、「知らなかった」が54.1%であった。(図表5-4-1)

図表5-4-1 「フレイル」の認知度



図表5-4-2 「フレイル」の認知度—地域別、性・年代別





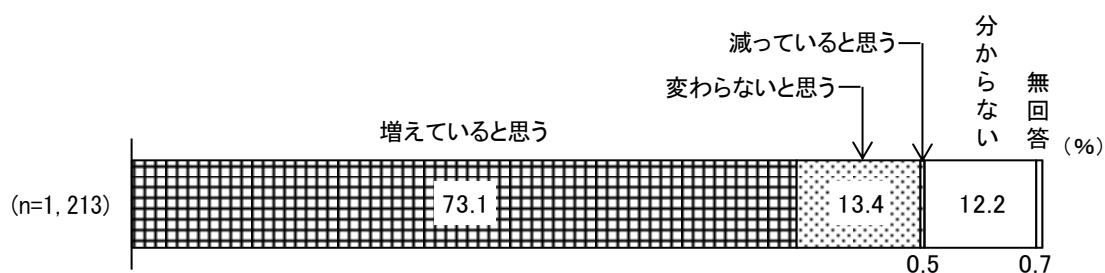
## 第6章 アレルギー疾患【問17～問19】

### 1 アレルギー疾患の増加傾向【問17】

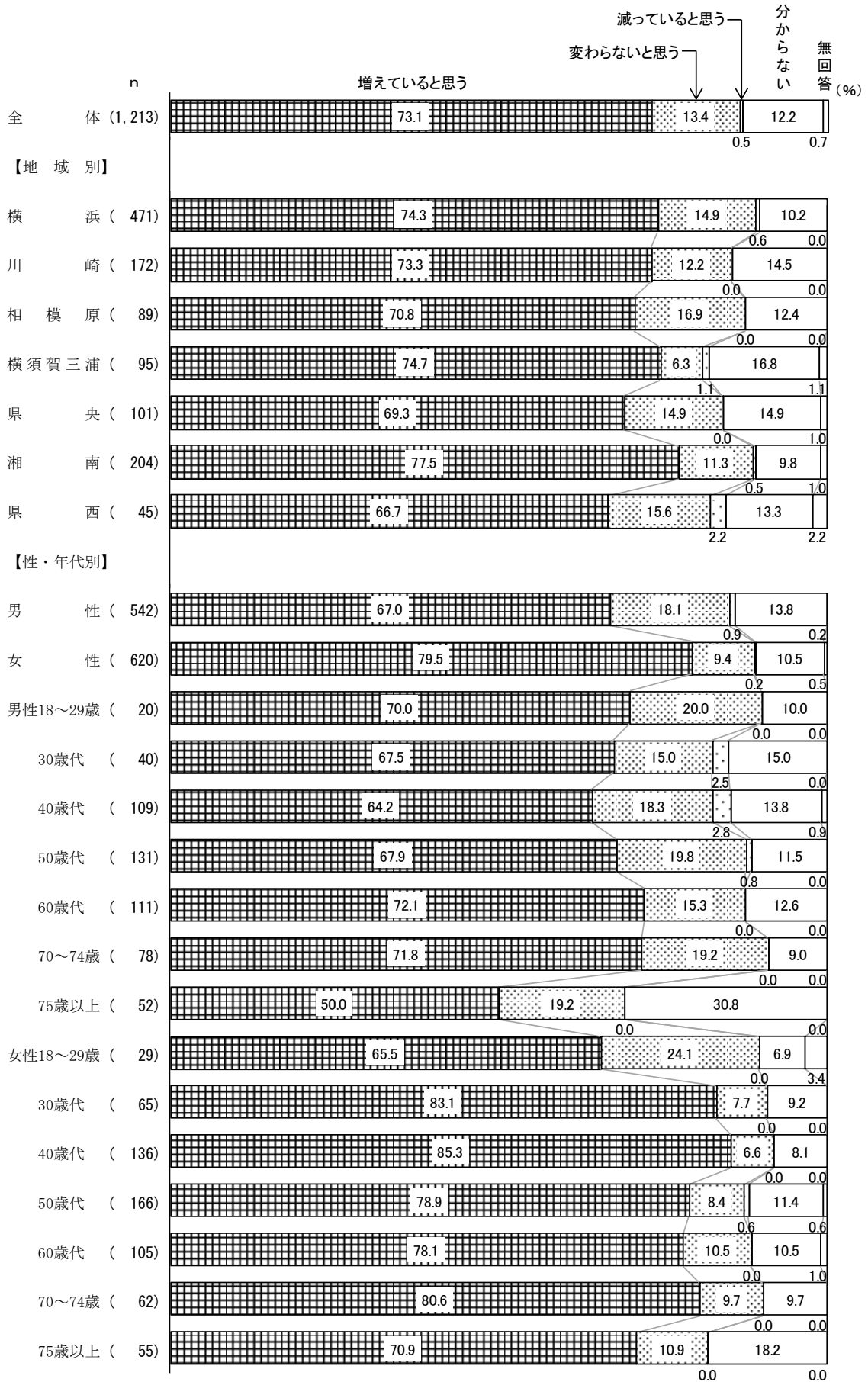
#### 【全体の状況】

5年前と比べて、アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症など）の症状のある方が増えていると思うか尋ねたところ、「増えていると思う」が73.1%で最も多く、次いで「変わらないと思う」が13.4%であった。（図表6-1-1）

図表6-1-1 アレルギー疾患の増加傾向



図表6-1-2 アレルギー疾患の増加傾向—地域別、性・年代別



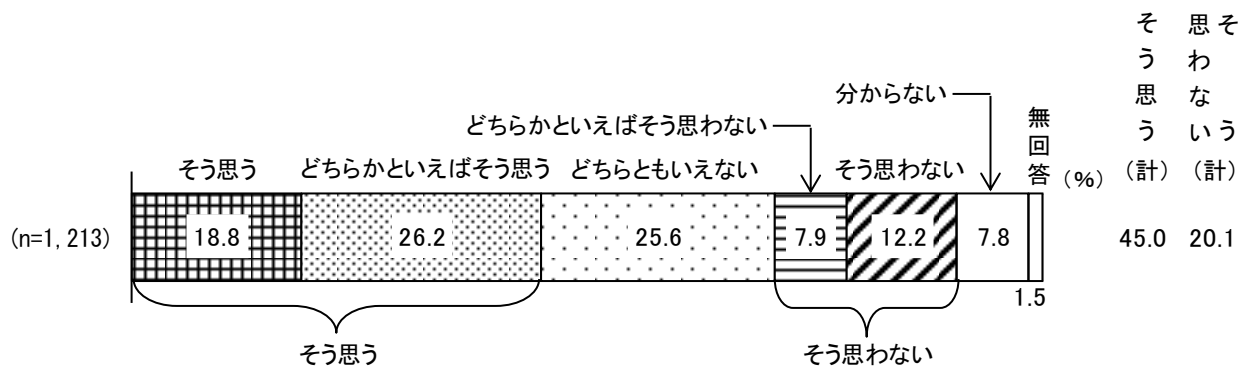
## 2 アレルギー疾患に関する情報の入手【問18】

### 【全体の状況】

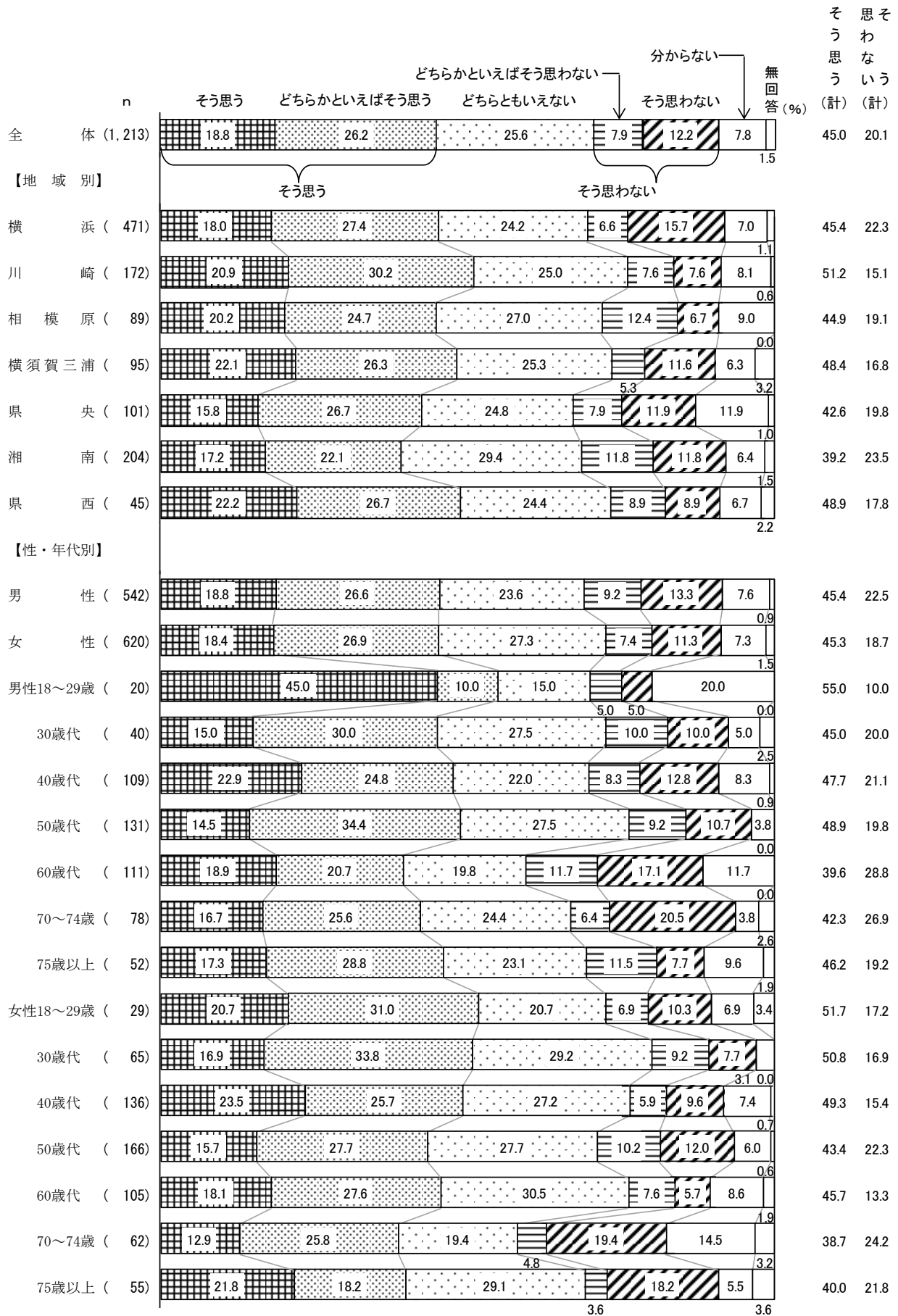
アレルギーの症状がある時に、どの診療科を受診すればよいかなどについて、相談窓口やインターネットなどで信頼性がある情報を受け取ることができると思うか尋ねたところ、「そう思う」（18.8%）と「どちらかといえばそう思う」（26.2%）を合わせた《そう思う》は45.0%であった。

一方、「そう思わない」（12.2%）と「どちらかといえばそう思わない」（7.9%）を合わせた《そう思わない》は20.1%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 アレルギー疾患に関する情報の入手



図表6-2-2 アレルギー疾患に関する情報の入手—地域別、性・年代別

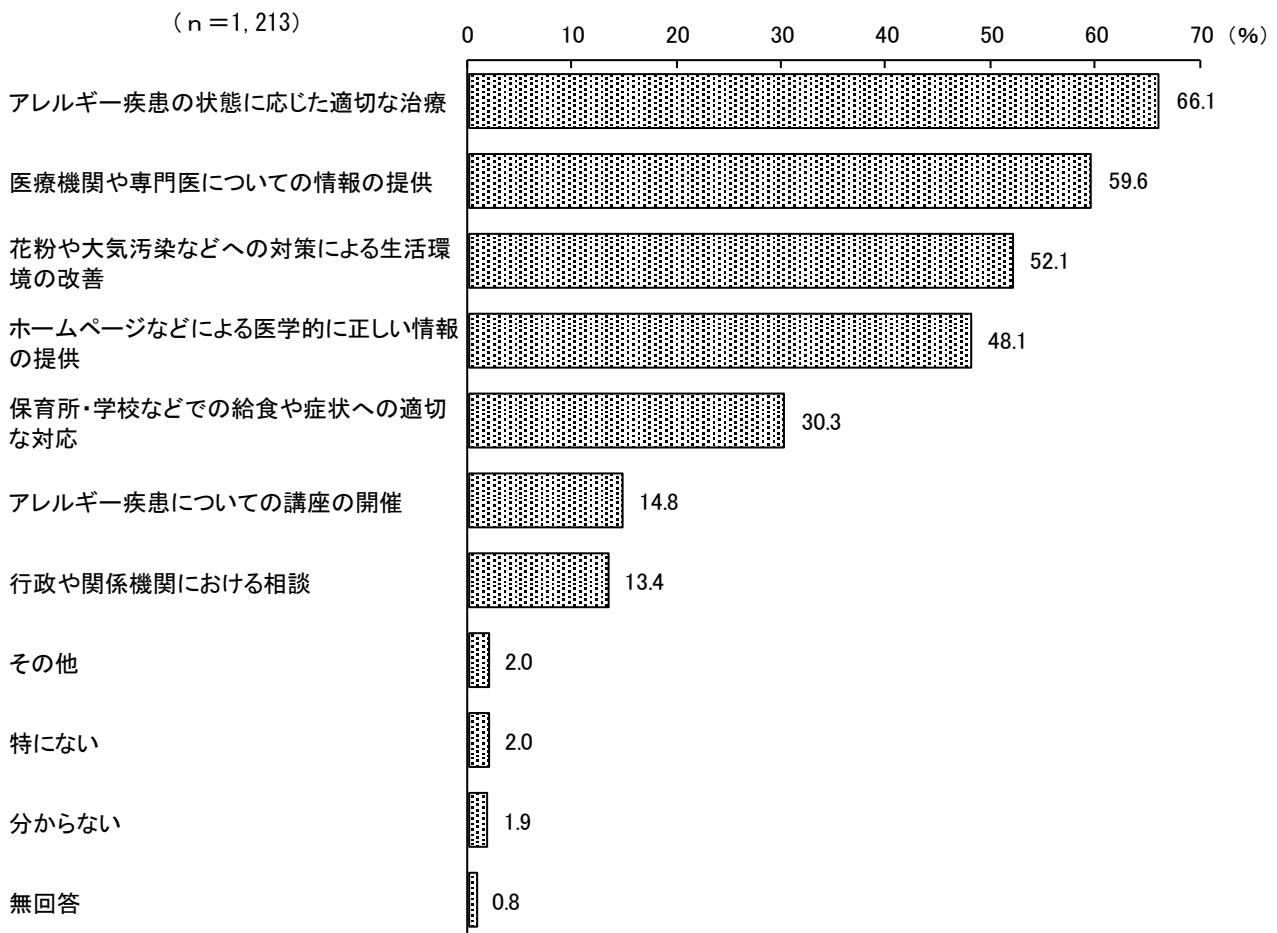


### 3 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援【問19】

#### 【全体の状況】

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「アレルギー疾患の状態に応じた適切な治療」が66.1%で最も多く、次いで「医療機関や専門医についての情報の提供」が59.6%であった。(図表6-3-1)

図表6-3-1 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）



図表6-3-2 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	アレルギー疾患の状態に応じた適切な治療	医療機関や専門医についての情報の提供	花粉や大気汚染などへの対策による生活環境の改善	ホームページなどによる医学的に正しい情報の提供	保育所・学校などでの給食や症状への適切な対応	アレルギー疾患についての講座の開催	行政や関係機関における相談	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,213	66.1	59.6	52.1	48.1	30.3	14.8	13.4	2.0	2.0	1.9	0.8
【地域別】												
横浜	471	64.8	62.8	50.3	47.6	30.4	15.1	12.5	3.6	1.9	1.9	-
川崎	172	68.6	59.3	51.2	51.7	33.1	14.0	13.4	1.2	2.3	0.6	0.6
相模原	89	67.4	49.4	53.9	51.7	25.8	13.5	15.7	-	1.1	2.2	-
横須賀三浦	95	66.3	58.9	55.8	40.0	26.3	11.6	12.6	2.1	3.2	1.1	1.1
県央	101	66.3	58.4	49.5	47.5	32.7	16.8	12.9	1.0	3.0	1.0	1.0
湘南	204	66.2	59.8	55.4	51.0	33.3	17.2	15.2	0.5	1.0	2.5	0.5
県西	45	73.3	62.2	55.6	44.4	24.4	11.1	8.9	2.2	-	2.2	4.4
【性・年代別】												
男性	542	62.0	57.9	49.1	49.1	27.7	14.8	15.7	2.4	2.2	1.8	0.4
女性	620	70.6	61.6	54.8	48.1	33.5	15.0	11.5	1.8	1.5	1.6	0.6
男性18～29歳	20	65.0	55.0	45.0	55.0	20.0	10.0	10.0	5.0	-	5.0	-
30歳代	40	72.5	62.5	47.5	55.0	40.0	17.5	15.0	2.5	-	-	-
40歳代	109	62.4	53.2	57.8	52.3	33.9	21.1	15.6	2.8	0.9	1.8	0.9
50歳代	131	58.8	52.7	50.4	45.0	24.4	18.3	16.0	3.8	2.3	2.3	-
60歳代	111	55.0	61.3	45.0	48.6	26.1	7.2	19.8	1.8	2.7	1.8	-
70～74歳	78	66.7	65.4	51.3	48.7	26.9	14.1	15.4	1.3	2.6	1.3	-
75歳以上	52	69.2	61.5	36.5	48.1	21.2	9.6	9.6	-	5.8	1.9	-
女性18～29歳	29	62.1	58.6	44.8	65.5	51.7	13.8	3.4	3.4	-	3.4	3.4
30歳代	65	73.8	58.5	49.2	52.3	49.2	18.5	13.8	-	-	1.5	-
40歳代	136	72.8	59.6	55.9	50.0	32.4	11.0	10.3	3.7	0.7	1.5	-
50歳代	166	65.7	60.2	56.0	45.8	27.7	15.7	10.2	2.4	4.2	1.8	0.6
60歳代	105	69.5	59.0	55.2	49.5	36.2	19.0	17.1	1.0	1.0	1.0	1.9
70～74歳	62	82.3	66.1	56.5	43.5	32.3	16.1	12.9	-	-	3.2	-
75歳以上	55	72.7	76.4	58.2	38.2	23.6	10.9	7.3	-	-	-	-

## 第7章 依存症に対する意識【問20～問22】

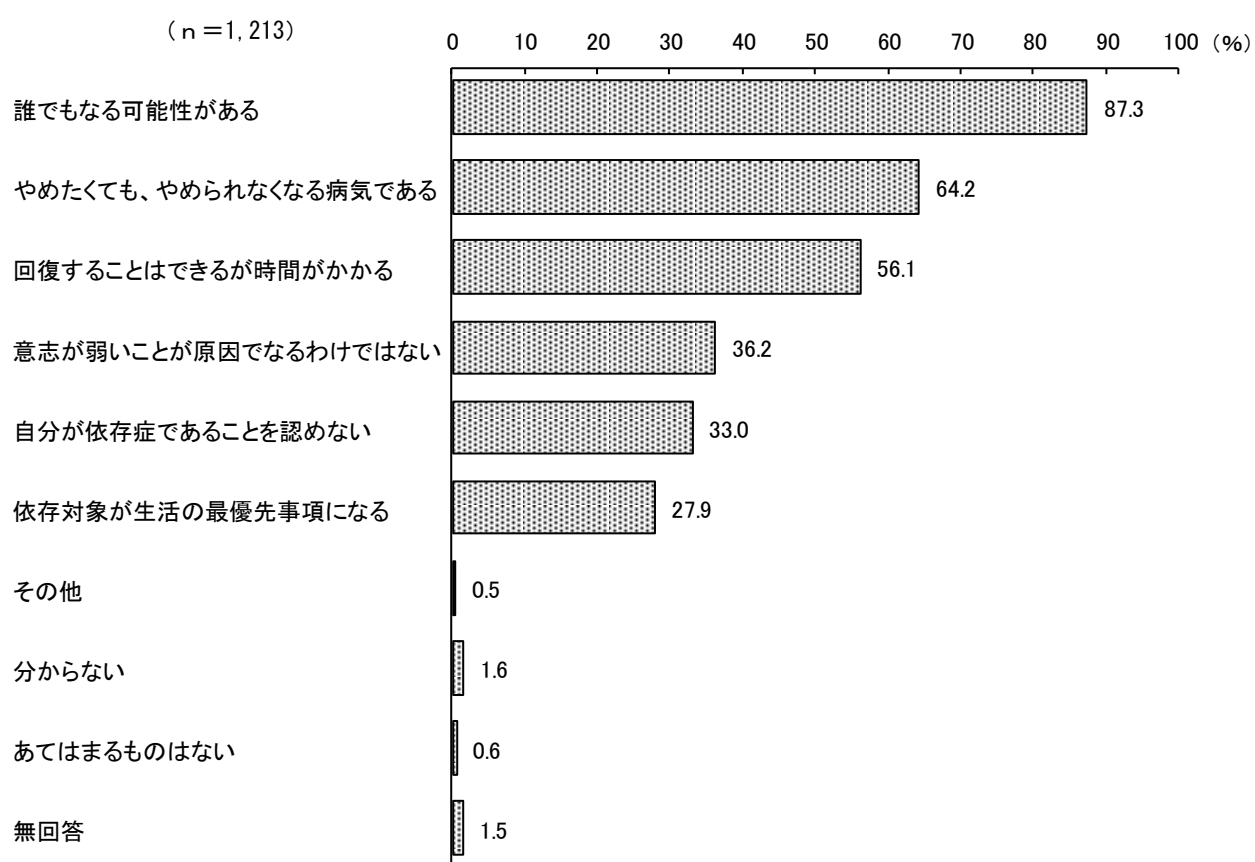
### 1 依存症に対する意識に関する認知状況【問20】

#### 【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が87.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が64.2%であった。

(図表 7-1-1)

図表7-1-1 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）



図表7-1-2 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる 病気である	回復することはできるが時間がかかる	意志が弱いことが原因でなるわけではない	自分が依存症であることを認めない	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	あてはまるものはない	無回答
全 体	1,213	87.3	64.2	56.1	36.2	33.0	27.9	0.5	1.6	0.6	1.5
【地 域 別】											
横 浜	471	88.1	61.8	55.4	37.4	32.1	27.6	0.2	2.1	0.2	1.1
川 崎	172	88.4	68.0	61.6	32.6	33.1	28.5	0.6	1.2	-	1.2
相 模 原	89	85.4	56.2	53.9	40.4	30.3	25.8	1.1	1.1	1.1	4.5
横 須 賀 三 浦	95	83.2	65.3	57.9	36.8	31.6	28.4	1.1	3.2	-	2.1
県 央	101	85.1	74.3	55.4	39.6	43.6	30.7	1.0	-	3.0	-
湘 南	204	90.2	68.1	52.9	34.8	30.9	30.4	0.5	0.5	0.5	1.5
県 西	45	91.1	57.8	57.8	33.3	40.0	26.7	-	-	-	-
【性・年代別】											
男 性	542	88.2	61.6	55.9	35.6	30.4	24.7	0.4	1.7	0.4	0.7
女 性	620	87.6	67.4	56.8	37.1	35.5	31.9	0.6	1.3	0.5	1.9
男性18～29歳	20	95.0	55.0	40.0	35.0	30.0	25.0	5.0	-	-	-
30歳代	40	87.5	65.0	52.5	35.0	25.0	35.0	-	-	-	-
40歳代	109	94.5	55.0	56.9	38.5	28.4	29.4	0.9	-	-	-
50歳代	131	90.1	67.2	51.9	45.0	39.7	31.3	-	1.5	-	0.8
60歳代	111	85.6	65.8	61.3	33.3	27.9	20.7	-	2.7	-	0.9
70～74歳	78	83.3	59.0	61.5	24.4	29.5	14.1	-	2.6	-	2.6
75歳以上	52	80.8	57.7	53.8	28.8	23.1	15.4	-	3.8	3.8	-
女性18～29歳	29	96.6	69.0	58.6	48.3	44.8	44.8	-	-	-	-
30歳代	65	89.2	75.4	44.6	35.4	43.1	33.8	-	1.5	-	3.1
40歳代	136	95.6	67.6	55.1	38.2	33.1	33.1	-	-	-	2.2
50歳代	166	89.8	62.7	54.8	40.4	34.3	32.5	1.2	1.2	0.6	1.2
60歳代	105	84.8	72.4	57.1	41.9	39.0	29.5	1.0	1.0	1.0	1.0
70～74歳	62	74.2	69.4	69.4	25.8	25.8	30.6	-	3.2	1.6	1.6
75歳以上	55	74.5	60.0	63.6	25.5	34.5	23.6	1.8	3.6	-	5.5

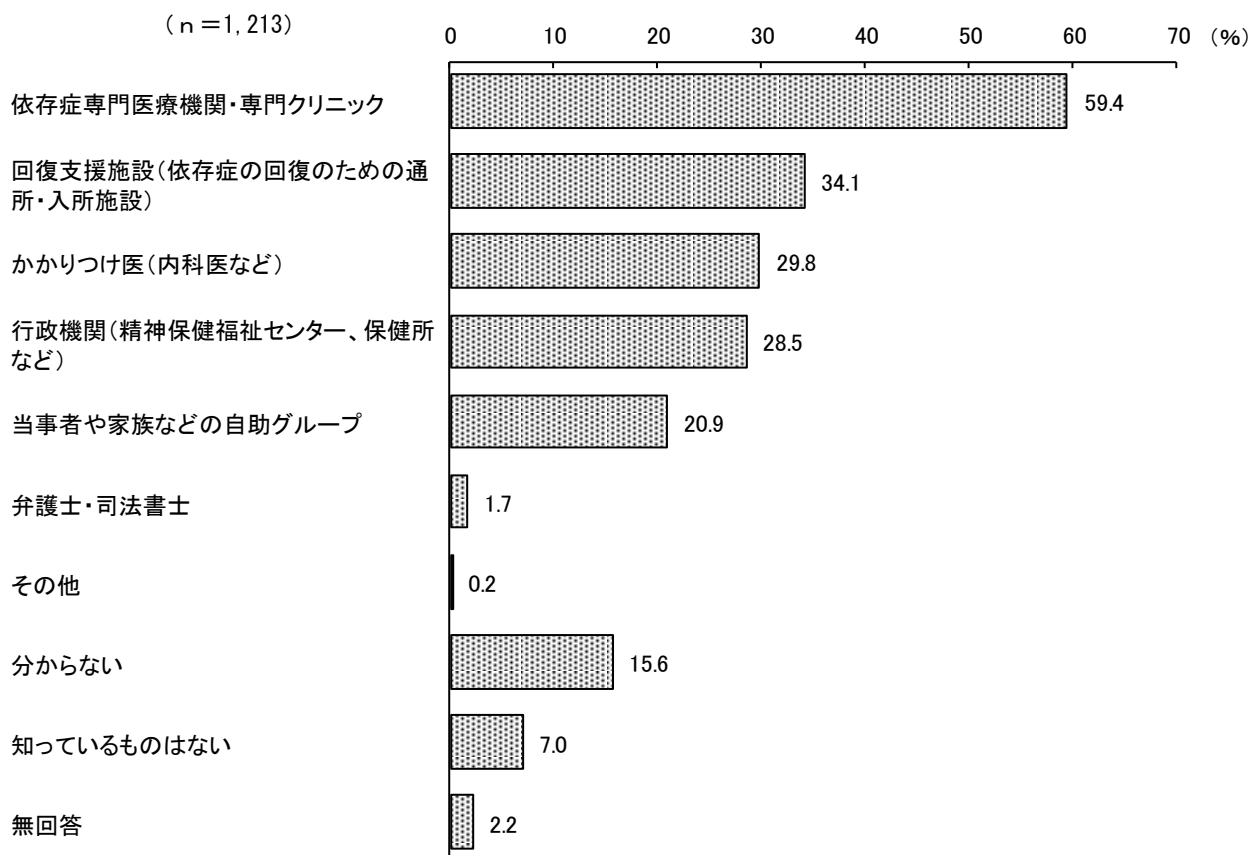


## 2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問21】

### 【全体の状況】

依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が59.4%で最も多く、次いで「回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）」が34.1%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表7-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

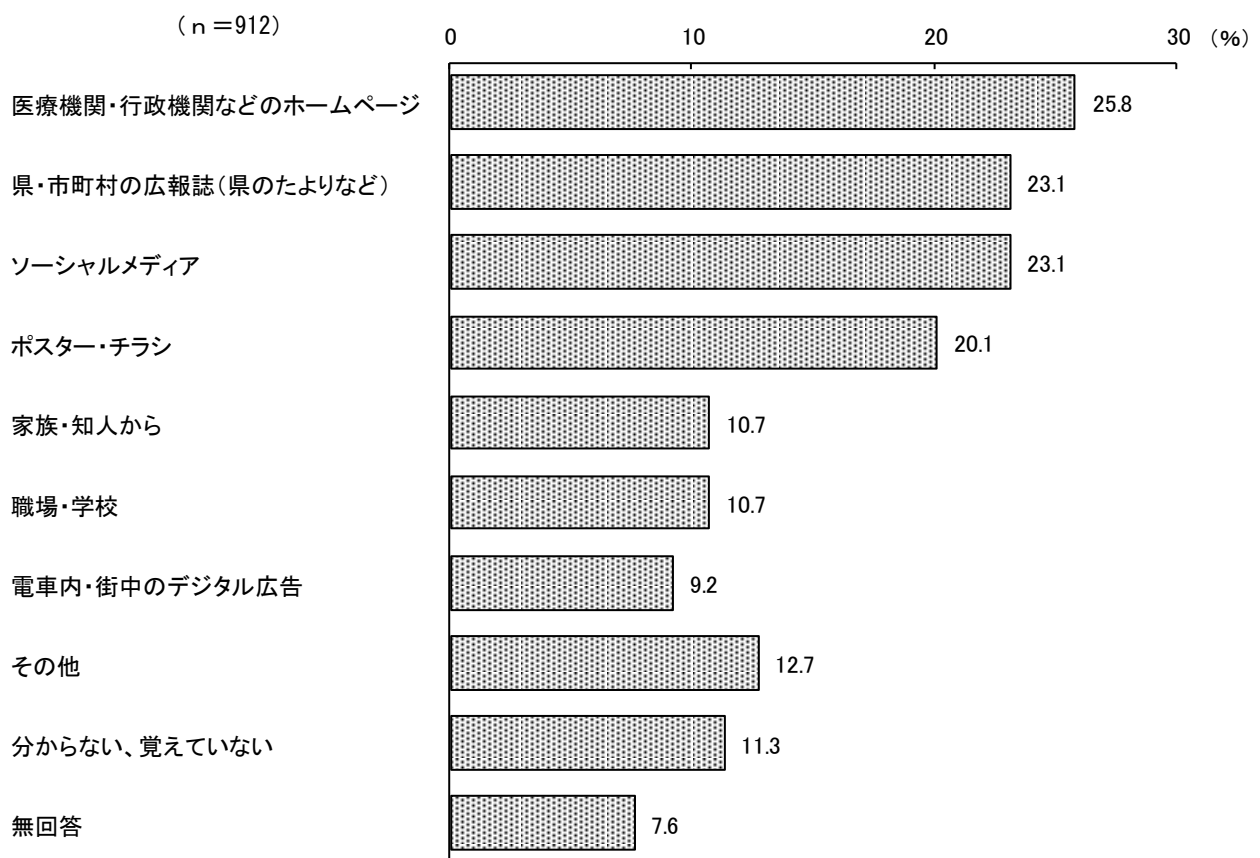
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	回復支援施設（依存症の回復のため通所・入所施設）	かかりつけ医（内科医など）	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全 体	1,213	59.4	34.1	29.8	28.5	20.9	1.7	0.2	15.6	7.0	2.2
【地 域 別】											
横 浜	471	59.7	34.6	31.0	30.1	20.2	2.3	-	15.9	5.7	1.5
川 崎	172	61.0	34.9	33.1	27.3	23.3	1.2	-	14.5	7.0	1.2
相 模 原	89	55.1	32.6	34.8	25.8	24.7	5.6	-	15.7	6.7	4.5
横 須 賀 三 浦	95	68.4	40.0	27.4	28.4	28.4	-	1.1	12.6	3.2	3.2
県 央	101	57.4	33.7	24.8	24.8	21.8	-	1.0	20.8	7.9	1.0
湘 南	204	55.4	33.8	26.0	28.9	17.6	1.5	0.5	15.2	12.3	2.5
県 西	45	64.4	22.2	35.6	26.7	17.8	-	-	13.3	6.7	4.4
【性・年代別】											
男 性	542	58.7	31.2	33.9	29.7	19.0	1.7	0.2	15.3	7.9	0.9
女 性	620	60.5	37.6	27.1	27.6	23.5	1.9	0.3	15.8	6.5	2.6
男性18～29歳	20	50.0	15.0	35.0	5.0	15.0	-	-	30.0	5.0	-
30歳代	40	70.0	35.0	52.5	22.5	22.5	5.0	-	10.0	7.5	-
40歳代	109	66.1	38.5	37.6	41.3	27.5	2.8	-	8.3	8.3	-
50歳代	131	66.4	32.1	29.8	29.0	22.1	1.5	-	10.7	7.6	0.8
60歳代	111	47.7	29.7	36.0	34.2	18.0	1.8	-	18.0	6.3	0.9
70～74歳	78	53.8	32.1	24.4	23.1	7.7	-	1.3	17.9	11.5	3.8
75歳以上	52	48.1	19.2	32.7	23.1	11.5	-	-	30.8	7.7	-
女性18～29歳	29	58.6	31.0	55.2	17.2	27.6	3.4	-	13.8	3.4	-
30歳代	65	64.6	32.3	32.3	30.8	21.5	-	-	10.8	9.2	1.5
40歳代	136	55.9	33.8	32.4	25.0	21.3	3.7	0.7	23.5	3.7	2.9
50歳代	166	65.7	44.6	21.7	27.1	29.5	3.0	0.6	12.7	6.6	1.2
60歳代	105	61.9	41.9	27.6	28.6	22.9	1.0	-	17.1	4.8	1.9
70～74歳	62	64.5	40.3	14.5	32.3	19.4	-	-	12.9	8.1	4.8
75歳以上	55	45.5	25.5	23.6	29.1	18.2	-	-	14.5	10.9	7.3

### 3 相談できる場所を知ったきっかけ【問21-1】

#### 【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問21）で、知っているとは回答した912人に、相談できる場所を知ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「医療機関・行政機関などのホームページ」が25.8%で最も多く、次いで「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」、「ソーシャルメディア」が23.1%（同率）であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表7-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

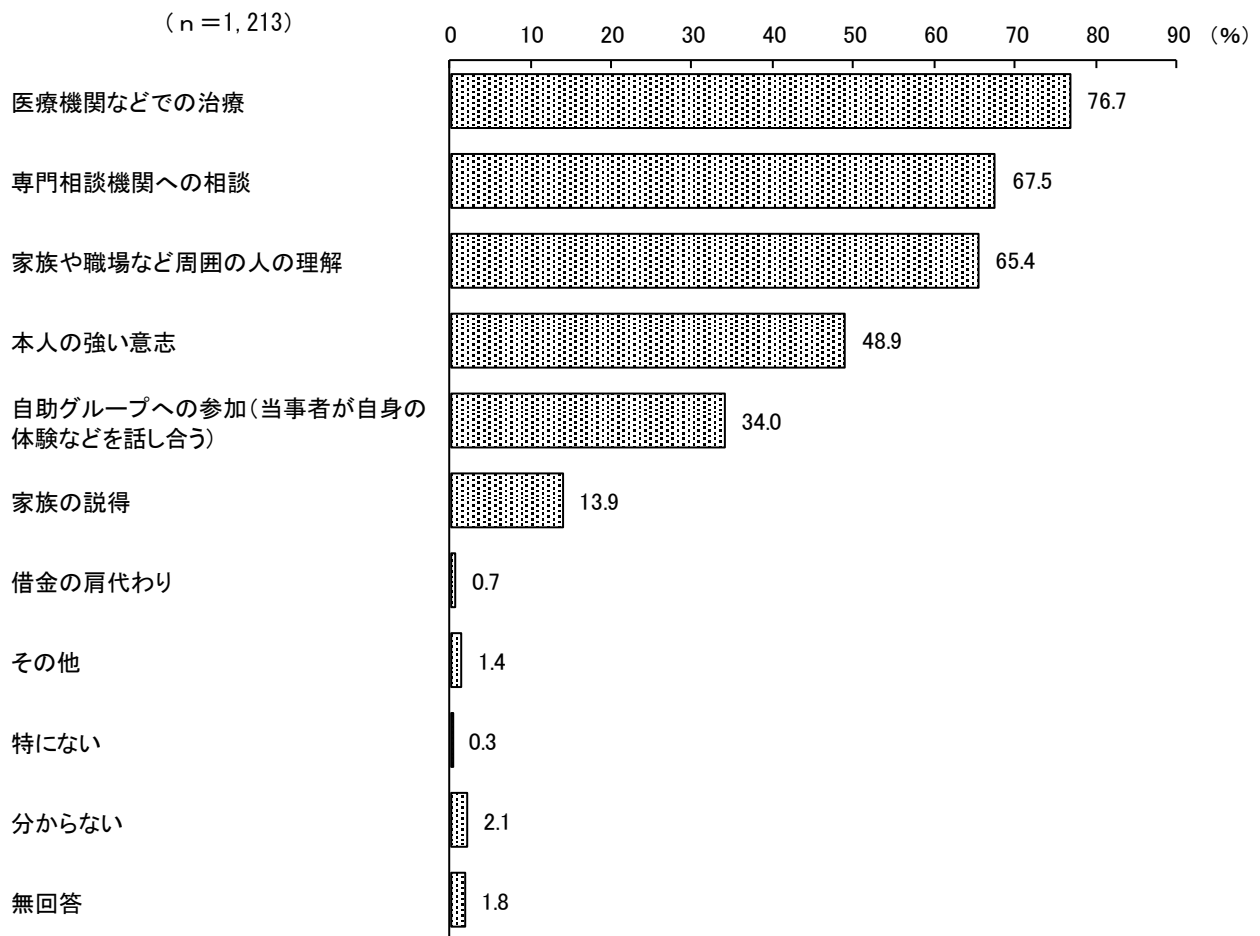
	n	医療機関・行政機関などのホームページ	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	ソーシャルメディア	ポスター・チラシ	家族・知人から	職場・学校	電車内・街中のデジタル広告	その他	分からない、覚えていない	無回答
全 体	912	25.8	23.1	23.1	20.1	10.7	10.7	9.2	12.7	11.3	7.6
【地 域 別】											
横 浜	362	26.2	22.4	25.4	19.9	10.5	9.1	11.3	13.8	11.0	7.2
川 崎	133	24.1	20.3	21.8	17.3	9.0	12.8	8.3	15.8	15.0	6.0
相 模 原	65	27.7	20.0	24.6	26.2	10.8	16.9	12.3	12.3	10.8	4.6
横 須 賀 三 浦	77	16.9	23.4	22.1	20.8	10.4	7.8	11.7	7.8	15.6	10.4
県 央	71	32.4	26.8	19.7	19.7	9.9	9.9	2.8	8.5	9.9	15.5
湘 南	143	23.8	25.9	22.4	17.5	11.2	11.2	7.7	15.4	11.2	5.6
県 西	34	35.3	23.5	20.6	20.6	17.6	14.7	2.9	5.9	-	8.8
【性・年代別】											
男 性	411	27.5	22.1	23.8	23.4	10.2	9.7	10.5	10.2	11.4	8.3
女 性	466	24.0	23.4	23.2	16.3	11.2	11.8	8.6	15.5	11.6	7.1
男性18～29歳	13	23.1	15.4	46.2	30.8	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4
30歳代	33	27.3	21.2	36.4	33.3	12.1	18.2	18.2	3.0	9.1	6.1
40歳代	91	27.5	17.6	31.9	23.1	8.8	9.9	7.7	8.8	14.3	6.6
50歳代	106	26.4	13.2	30.2	19.8	11.3	10.4	12.3	9.4	8.5	8.5
60歳代	83	21.7	24.1	14.5	25.3	8.4	10.8	9.6	14.5	16.9	8.4
70～74歳	52	44.2	36.5	9.6	19.2	13.5	5.8	9.6	11.5	9.6	1.9
75歳以上	32	21.9	40.6	6.3	25.0	9.4	3.1	6.3	12.5	6.3	18.8
女性18～29歳	24	16.7	4.2	54.2	12.5	12.5	29.2	8.3	8.3	8.3	4.2
30歳代	51	19.6	7.8	27.5	9.8	9.8	21.6	17.6	15.7	19.6	2.0
40歳代	95	21.1	11.6	29.5	17.9	8.4	14.7	10.5	16.8	10.5	7.4
50歳代	132	24.2	20.5	23.5	17.4	9.8	11.4	6.8	21.2	15.9	3.8
60歳代	80	32.5	38.8	16.3	21.3	12.5	6.3	7.5	12.5	5.0	7.5
70～74歳	46	23.9	41.3	13.0	17.4	17.4	4.3	4.3	10.9	8.7	17.4
75歳以上	37	24.3	43.2	8.1	5.4	13.5	2.7	5.4	5.4	8.1	13.5

#### 4 依存症の回復に必要と思うもの【問22】

##### 【全体の状況】

依存症の回復に必要と思うものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関などでの治療」が76.7%で最も多く、次いで「専門相談機関への相談」が67.5%であった。(図表7-4-1)

図表7-4-1 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）



図表7-4-2 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	医療機関などでの治療	専門相談機関への相談	家族や職場など周囲の人の理解	本人の強い意志	自助グループへの参加（当事者が自身の体験などを話し合う）	家族の説得	借金の肩代わり	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,213	76.7	67.5	65.4	48.9	34.0	13.9	0.7	1.4	0.3	2.1	1.8
【地域別】												
横浜	471	76.0	67.7	66.5	51.6	32.1	14.0	0.8	2.1	0.4	1.5	1.3
川崎	172	77.9	65.7	65.7	48.3	37.2	15.1	0.6	0.6	-	1.7	1.7
相模原	89	71.9	69.7	66.3	47.2	34.8	14.6	-	-	1.1	1.1	4.5
横須賀三浦	95	80.0	63.2	66.3	43.2	41.1	15.8	3.2	4.2	1.1	2.1	2.1
県央	101	79.2	67.3	58.4	46.5	39.6	15.8	-	-	-	4.0	1.0
湘南	204	79.4	71.6	70.1	46.6	30.9	12.7	-	0.5	-	2.0	1.5
県西	45	73.3	66.7	62.2	51.1	31.1	8.9	2.2	2.2	-	4.4	-
【性・年代別】												
男性	542	77.9	61.6	61.4	50.6	27.7	14.8	1.1	1.5	0.6	2.6	1.3
女性	620	76.8	73.1	70.5	47.4	40.5	13.5	0.5	1.5	0.2	1.5	1.9
男性18～29歳	20	70.0	60.0	60.0	55.0	10.0	25.0	-	5.0	-	5.0	-
30歳代	40	85.0	65.0	75.0	60.0	17.5	10.0	-	2.5	-	-	-
40歳代	109	79.8	59.6	68.8	47.7	33.0	8.3	0.9	0.9	-	5.5	-
50歳代	131	78.6	59.5	64.1	50.4	31.3	15.3	3.1	1.5	-	-	2.3
60歳代	111	82.0	60.4	54.1	46.8	27.0	13.5	-	0.9	1.8	0.9	0.9
70～74歳	78	78.2	64.1	57.7	55.1	29.5	21.8	1.3	1.3	-	2.6	2.6
75歳以上	52	61.5	69.2	51.9	50.0	21.2	19.2	-	1.9	1.9	7.7	-
女性18～29歳	29	86.2	72.4	75.9	37.9	31.0	10.3	3.4	-	-	3.4	-
30歳代	65	84.6	66.2	76.9	43.1	29.2	13.8	-	1.5	1.5	-	1.5
40歳代	136	78.7	76.5	77.9	47.8	38.2	16.9	0.7	2.9	-	0.7	2.9
50歳代	166	77.1	70.5	66.9	49.4	41.0	12.0	0.6	1.2	-	3.0	1.2
60歳代	105	77.1	78.1	67.6	50.5	44.8	13.3	-	-	-	1.9	1.0
70～74歳	62	71.0	71.0	66.1	45.2	48.4	14.5	-	1.6	-	-	1.6
75歳以上	55	63.6	74.5	63.6	47.3	45.5	9.1	-	1.8	-	-	5.5

## 第8章 肝炎対策【問23～問24】

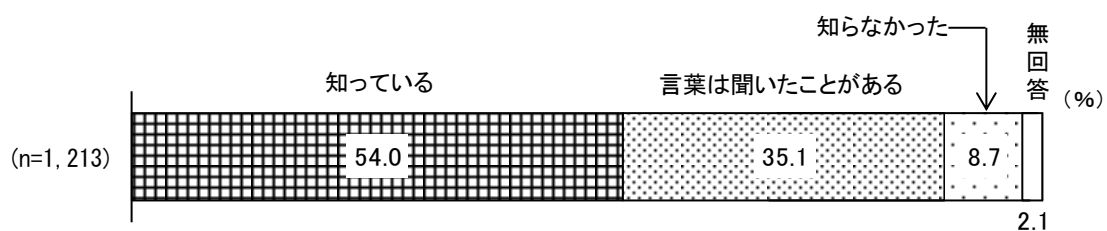
### 1 ウイルス性肝炎の認知度【問23】

#### 【全体の状況】

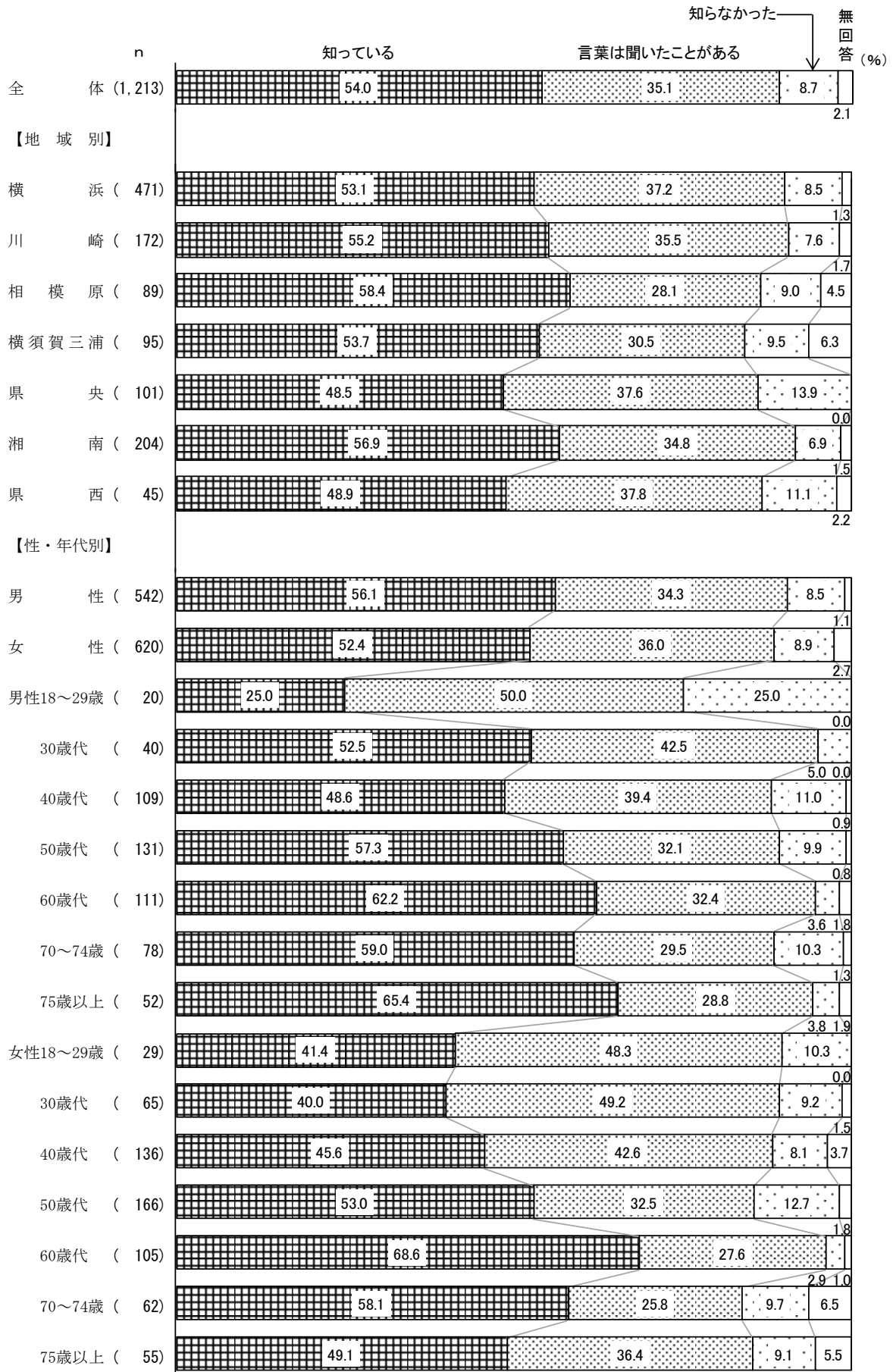
ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が54.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が35.1%であった。

一方、「知らなかった」は、8.7%であった。（図表 8-1-1）

図表8-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表8-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別





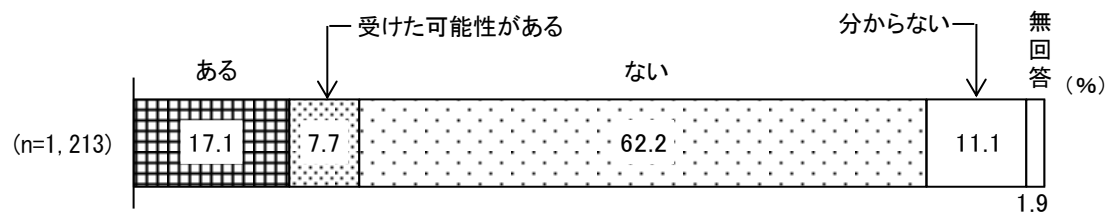
## 2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問24】

### 【全体の状況】

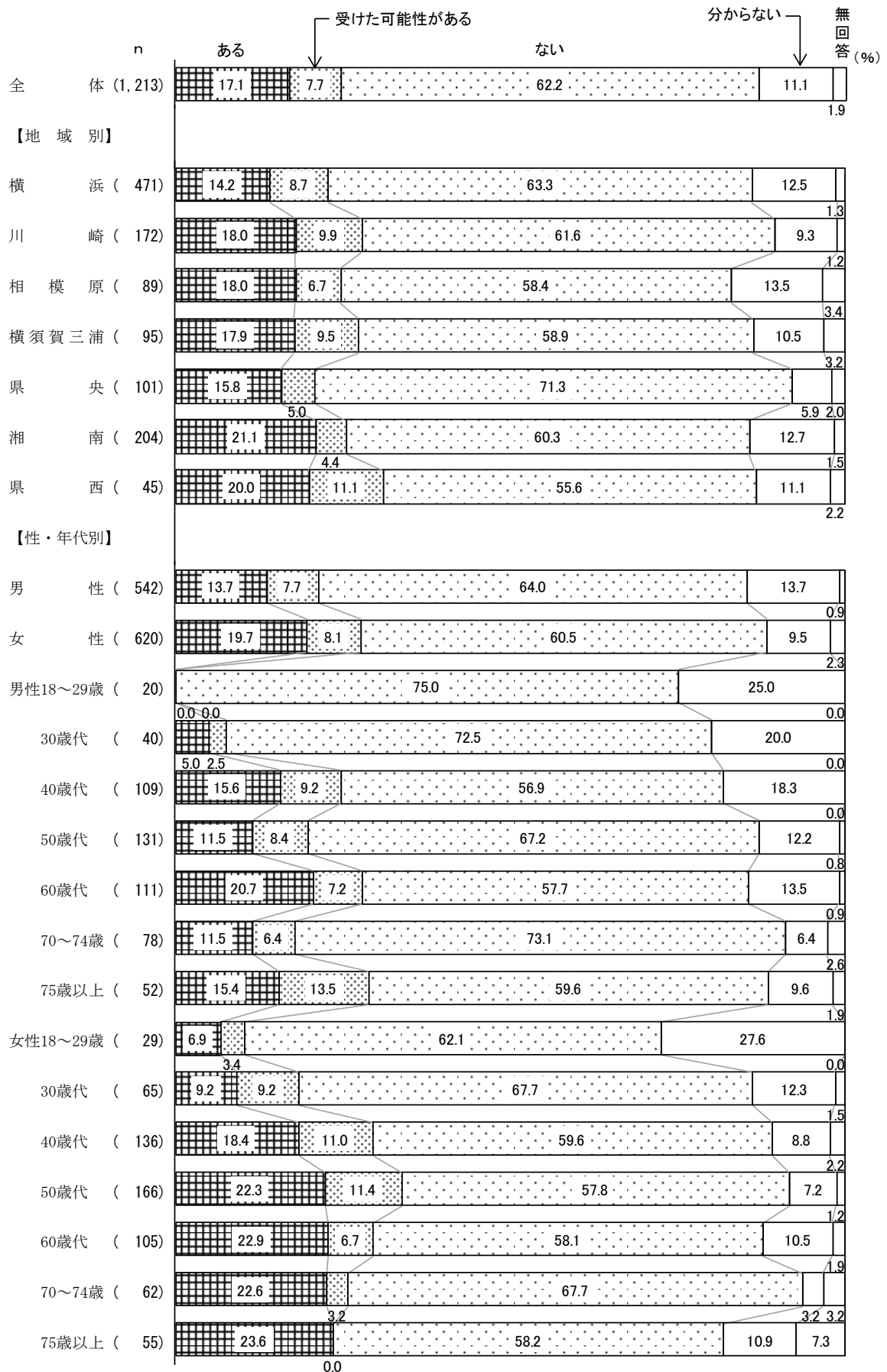
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が17.1%であった。

一方、「ない」が62.2%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表8-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別



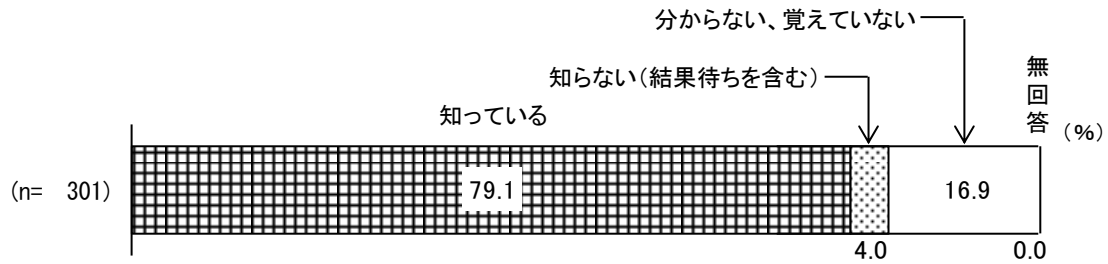
### 3 検査結果の把握状況【問24-1】

#### 【全体の状況】

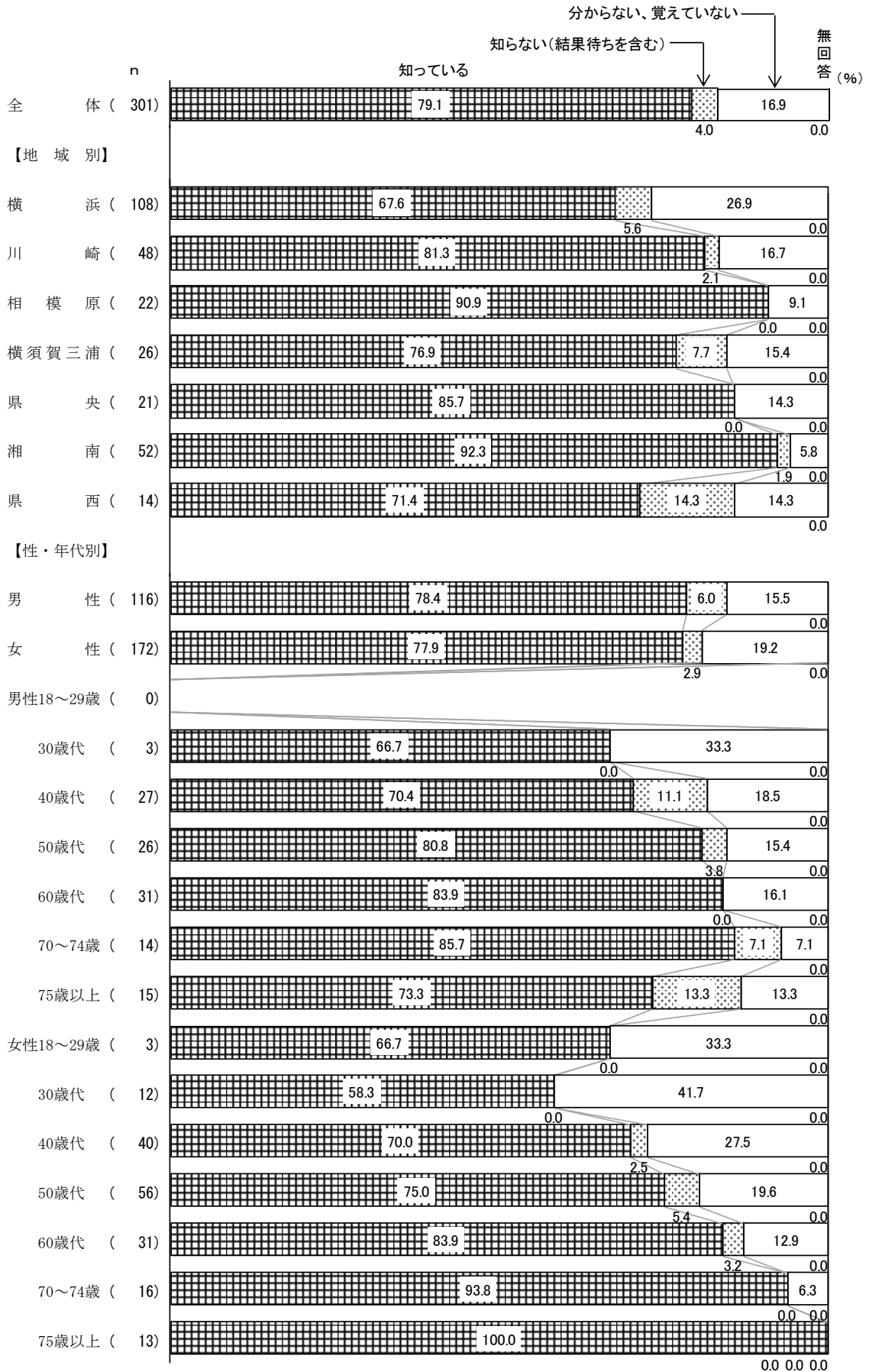
「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問24）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した301人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が79.1%であった。

一方、「知らない（結果待ちを含む）」は、4.0%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 検査結果の把握状況



図表8-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



## 第9章 かながわの人権【問25～問28】

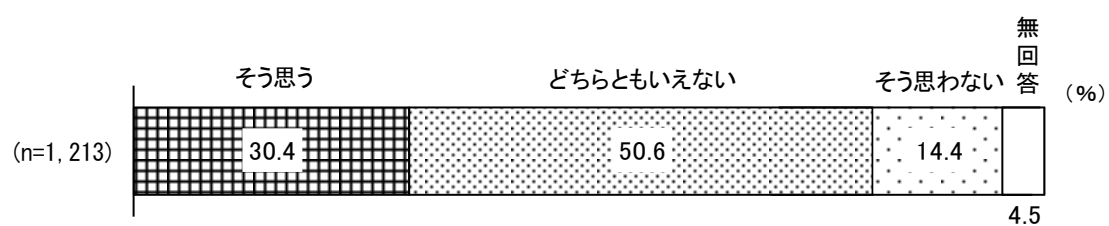
### 1 基本的人権が尊重されている社会か【問25】

#### 【全体の状況】

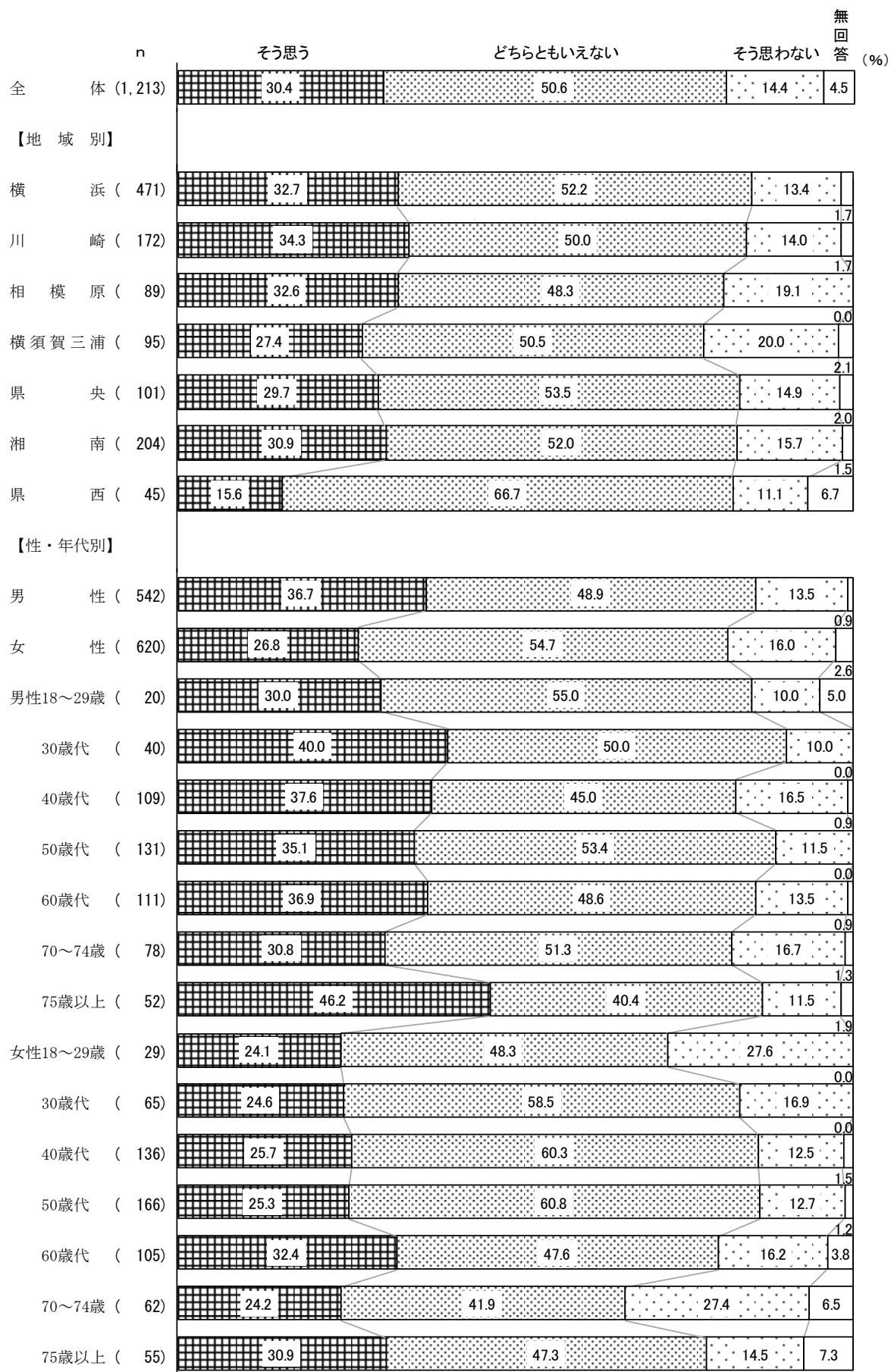
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が30.4%であった。

一方、「そう思わない」が14.4%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 基本的人権が尊重されている社会か



図表9-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別

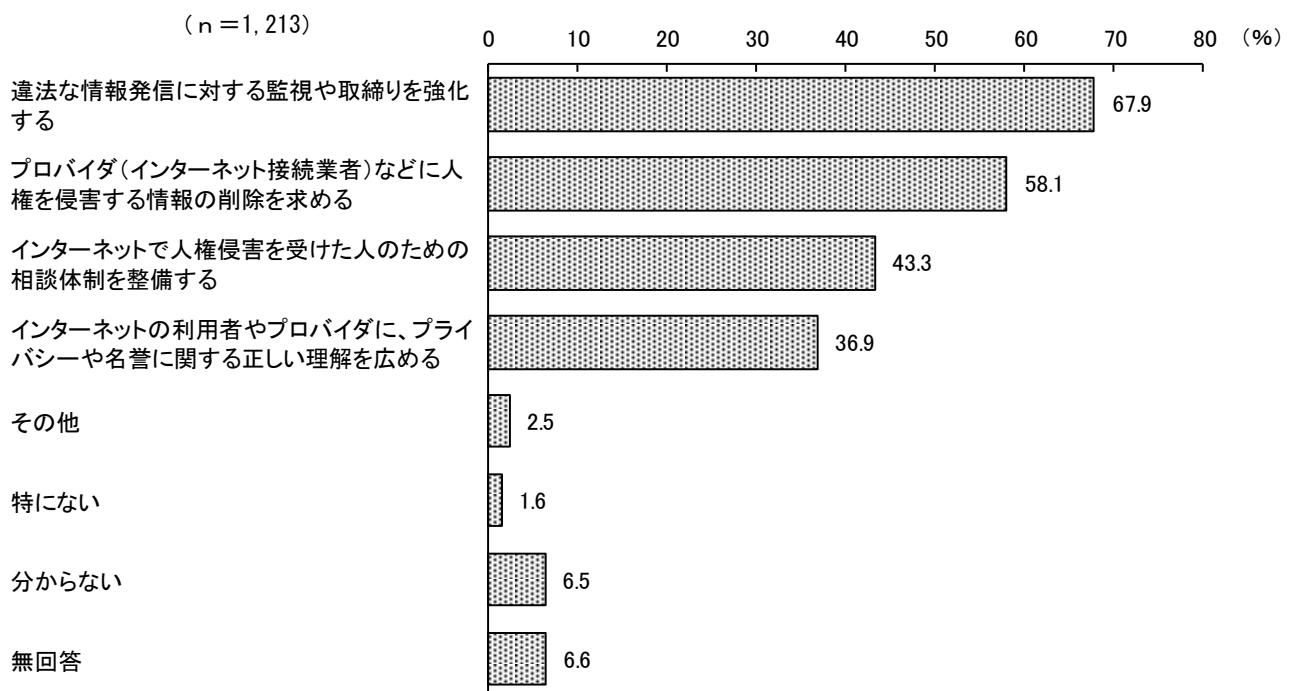


## 2 インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと【問26】

### 【全体の状況】

インターネットでの人権侵害を防ぐために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する」が67.9%で最も多く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）などに人権を侵害する情報の削除を求める」が58.1%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（複数回答）



図表9-2-2 インターネットでの人権侵害を防ぐために特に力を入れて取り組む必要があると思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)								
	n	違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する	プロバイダ（業者）などに人権を侵害する情報削除を求める	インターネットの相談体制を整備する	インターネット利用者の権利侵害を受ける	インターネットのプラットフォームやサービスや名前やプロフィールに関する理解を広める	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,213	67.9	58.1	43.3	36.9	2.5	1.6	6.5	6.6	
【地域別】										
横浜	471	71.5	62.4	44.2	39.5	2.5	1.7	7.4	3.6	
川崎	172	69.8	61.0	47.1	36.0	3.5	1.2	5.2	2.9	
相模原	89	62.9	51.7	50.6	48.3	4.5	2.2	5.6	-	
横須賀三浦	95	62.1	52.6	42.1	34.7	1.1	4.2	9.5	6.3	
県央	101	66.3	59.4	39.6	36.6	2.0	2.0	6.9	6.9	
湘南	204	75.5	60.3	44.1	30.4	2.0	0.5	6.4	3.9	
県西	45	64.4	55.6	46.7	48.9	2.2	-	-	8.9	
【性・年代別】										
男性	542	71.0	62.0	43.9	37.8	3.7	2.8	4.4	2.8	
女性	620	68.9	58.1	45.6	38.5	1.6	0.6	8.4	5.0	
男性18～29歳	20	50.0	40.0	45.0	55.0	5.0	-	10.0	-	
30歳代	40	70.0	60.0	55.0	47.5	-	-	2.5	-	
40歳代	109	57.8	54.1	46.8	41.3	9.2	2.8	2.8	2.8	
50歳代	131	74.0	63.4	41.2	42.7	3.1	3.8	3.1	2.3	
60歳代	111	76.6	66.7	44.1	28.8	3.6	2.7	5.4	2.7	
70～74歳	78	85.9	71.8	44.9	32.1	-	2.6	3.8	2.6	
75歳以上	52	67.3	61.5	34.6	32.7	1.9	1.9	9.6	7.7	
女性18～29歳	29	62.1	55.2	48.3	51.7	10.3	3.4	6.9	-	
30歳代	65	63.1	44.6	43.1	41.5	1.5	-	6.2	4.6	
40歳代	136	66.2	53.7	50.7	34.6	1.5	-	11.8	4.4	
50歳代	166	66.3	62.0	40.4	39.8	1.8	1.2	7.2	5.4	
60歳代	105	79.0	68.6	50.5	46.7	1.0	-	3.8	5.7	
70～74歳	62	79.0	62.9	46.8	33.9	-	1.6	4.8	4.8	
75歳以上	55	65.5	50.9	41.8	25.5	-	-	16.4	7.3	

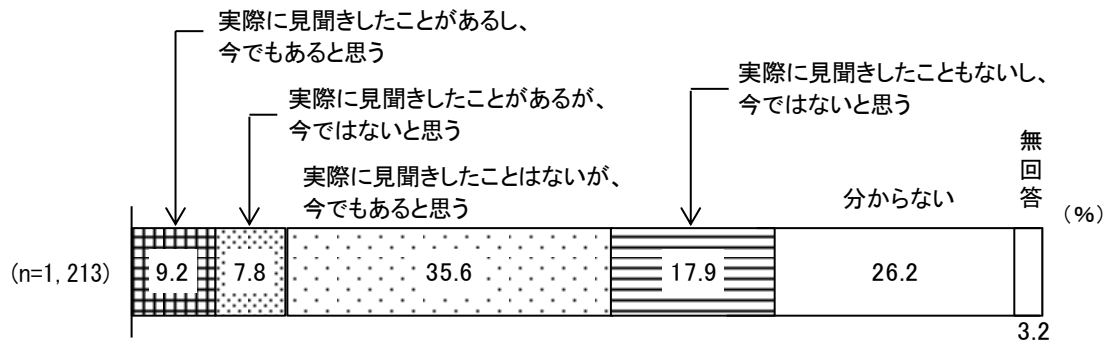


### 3 同和地区出身者に対する差別について【問27】

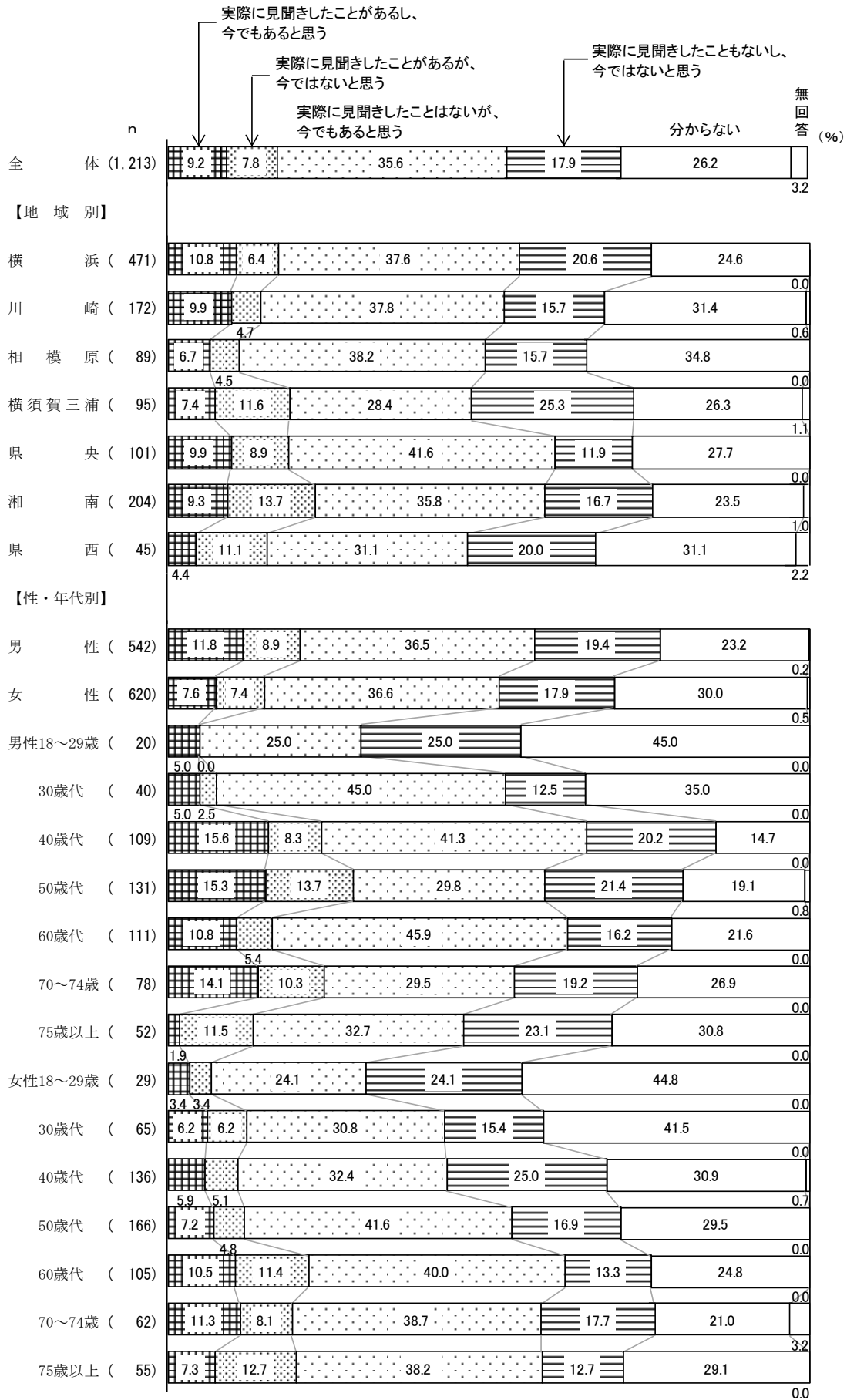
#### 【全体の状況】

県内での、同和地区出身者に対する差別についてどう思うか尋ねたところ、「実際に見聞きしたことはないが、今でもあると思う」が35.6%で最も多く、次いで「実際に見聞きしたこともないし、今ではないと思う」が17.9%であった。(図表9-3-1)

図表9-3-1 同和地区出身者に対する差別について



図表9-3-2 同和地区出身者に対する差別について—地域別、性・年代別

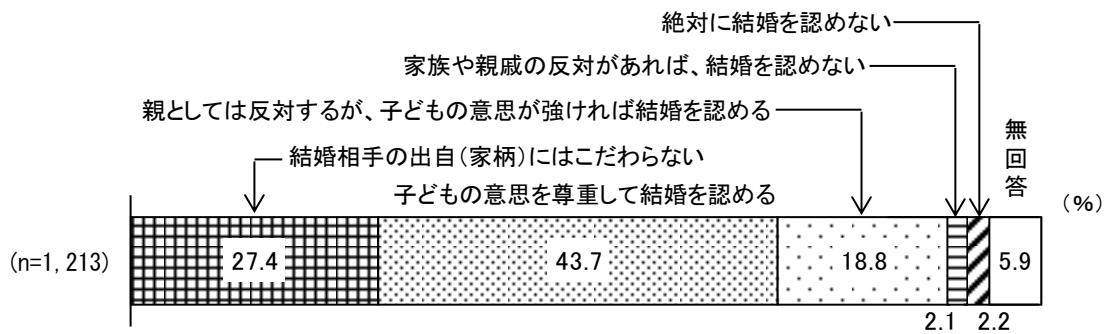


#### 4 子どもの結婚相手が同和地区出身者であると分かった時の対応【問28】

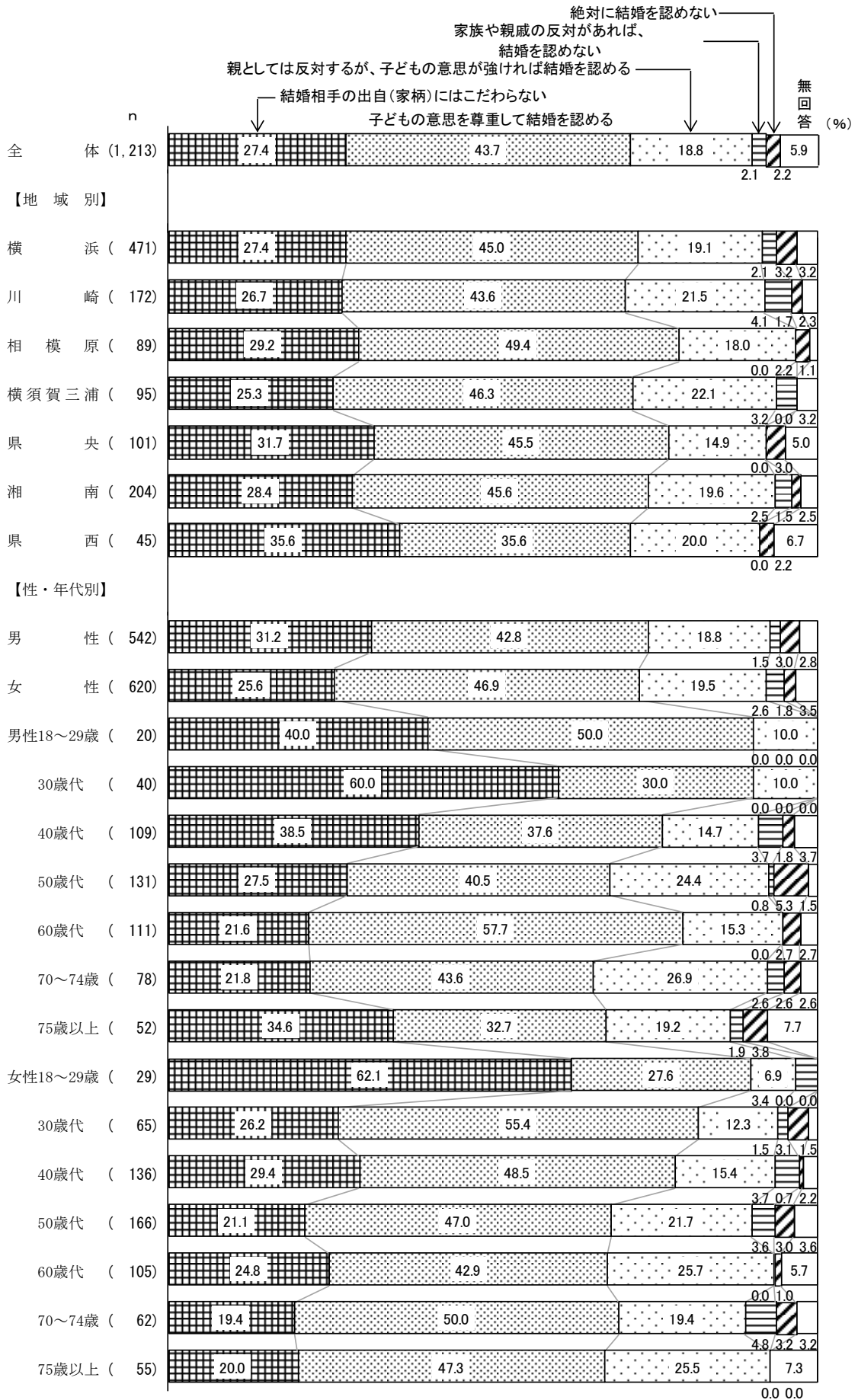
##### 【全体の状況】

お子さんの結婚する相手が同和地区出身者であると分かったらどうするか尋ねたところ、「子どもの意思を尊重して結婚を認める」が43.7%で最も多く、次いで「結婚相手の出自（家柄）にはこだわらない」が27.4%であった。（図表9-4-1）

図表9-4-1 子どもの結婚相手が同和地区出身者であると分かった時の対応



図表9-4-2 子どもの結婚相手が同和地区出身者であると分かった時の対応—地域別、性・年代別



第IV部 調査票と単純集計結果



# 令和5年度(2023年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【テーマ】

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1 地震対策の取組み   | 6 アレルギー疾患   |
| 2 子ども・子育て支援  | 7 依存症に対する意識 |
| 3 かながわの水源地域  | 8 肝炎対策      |
| 4 生物多様性      | 9 かながわの人権   |
| 5 「未病改善」の取組み |             |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、封筒のあて名のご本人様にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の記入は不要です。
- お答えは、直接、この調査票のあてはまる番号を○で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、  
11月21日(火)までにご投函ください。  
 (切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム

二次元コードから送信

※ 11月21日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15  
 (土日祝日は閉庁)



※ インターネットからもご回答  
 いただけます!

二次元コードから  
 回答画面へ



インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

# 1 地震対策の取組み

問1 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。 (○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 持出品の準備や食料などの備蓄	62.8	6 防災訓練に積極的に参加	9.8
2 住まいの耐震化	23.2	7 感震ブレーカー※などの設置	7.7
3 家具・家電などの固定	36.6	8 消火器の設置	28.3
4 避難場所や避難経路の確認	40.4	9 その他	1.1
5 家族と連絡方法の確認	31.8	10 特に対策はとっていない	11.0
(無回答 1.2)			

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

※ 感震ブレーカーとは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

問2 海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動しますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 すぐに海岸から避難する(5分以内)	91.4	3 津波が迫ってから避難する	1.0
2 用事を終えてから避難する(15分以内)	2.8	4 分からない	2.6
(無回答 2.2)			

問3 津波について、知っていたことを選んでください。 (○はいくつでも) (n=1,213) (%)

1 小さな揺れでも大きな津波になることがある	72.5	6 遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある	81.2
2 津波の伝わる速さは非常に速く、早ければ地震発生後数分で到達する(※1)	76.4	7 津波フラッグ(※3)が出ることがある	10.6
3 津波は、繰り返し襲ってくる	80.5	8 放送で津波を知らせることがある	57.5
4 「津波避難ビル」に指定の建物がある	26.8	9 「津波防災地域づくりに関する法律」がある	3.8
5 津波に関するマップ(※2)がある	44.0	10 どれも知らなかった	1.0
(無回答 1.2)			

※1 津波は海が深いほど速く伝わり、沖合いではジェット機と同様の速さで伝わります。

※2 津波に関するマップとは、津波の浸水範囲や避難情報などが記載されている、津波浸水予測図マップや津波ハザードマップなどのことをいいます。

※3 津波フラッグとは、津波警報・注意報などが発表された際、避難を呼びかけるために海岸に出される赤と白の格子模様の旗のことをいいます。



問4 津波に対する防災・減災の観点から、実施が望まれるものはありますか。 (○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 「津波災害警戒区域」(※1)の指定	57.3	4 その他	3.1
2 「津波災害特別警戒区域」(※2)の指定	49.0	5 特になし	7.3
3 「推進計画」(※3)の策定	36.2	6 分からない	18.8
			(無回答 3.5)

※1 津波災害警戒区域とは、津波発生時に住民などに危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※2 津波災害特別警戒区域とは、津波災害警戒区域のうち、住民などに著しい危害が生じる恐れがある区域のことをいいます。

※3 推進計画とは、津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画のことをいいます。

## 2 子ども・子育て支援

問5 子どもに関する取組みを進める上で、年齢や発達段階に応じて子ども自身の意見を聴くことは重要だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 重要だと思う	59.5	4 どちらかといえば重要だと思わない	2.4
2 どちらかといえば重要だと思う	26.3	5 重要だと思わない	1.5
3 どちらともいえない	6.0	6 分からない	2.5
			(無回答 1.8)

問6 希望する人が、希望する人数の子どもを持つことができる社会を実現するために、どのような取組みが特に重要だと思いますか。 (○は3つまで) (n=1,213) (%)

1 妊娠・出産・教育などの子育て費用の負担軽減	59.4
2 若い世代の所得向上(賃上げや、職業能力向上のための学び直し支援など)	38.3
3 幼稚園・保育園、放課後児童クラブの受け皿確保や質の向上	47.7
4 多様な支援ニーズに対するサービス※の拡充	16.2
5 仕事と家庭生活を両立できる制度の充実(育児休業取得促進や働き方改革の推進など)	45.8
6 子どもや子育てを応援する機運の醸成	8.6
7 子どもや子育てにやさしい街づくりや設備の充実	19.5
8 その他	5.6
9 特になし	1.3
10 分からない	1.4
(無回答 8.2)	

※ 多様な支援ニーズに対するサービスとは、不安を抱える妊産婦への相談支援、保護者のいない子どもや医療的ケア児といった支援を必要とする子どもへの支援などをいいます。

### 3 かながわの水源地域

問7 家で使っている水道の水源はどこか知っていますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 具体的な水源(ダム名・河川名・井戸など)を知っている	25.5	
2 ある程度知っている	42.0	
3 知らない	29.5	(無回答 3.1)

問8 次のうち、かながわの水源地域※について知りたいことは何ですか。 (○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 ダムなどの役割	32.9	5 祭りや工芸といった地域の文化、風習	9.9
2 森林や河川の保全	62.2	6 その他	1.6
3 動植物などの生態系	33.3	7 特になし	19.5
4 地域の歴史	17.4		(無回答 3.1)

※ かながわの水源地域とは、水道水源としてのダム湖(相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖及び宮ヶ瀬湖)が位置する地域である相模原市(城山地区、津久井地区、相模湖地区及び藤野地区)、山北町、愛川町、清川村のことをいいます。

問9 水源地域の外で「やまなみグッズ」※を購入したい場所や方法はありますか。 (○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 百貨店やショッピングモールなどでの催し	29.8	5 電話やFAXなどによる取り寄せ	3.0
2 祭りやイベントにおける出張販売	22.6	6 その他	1.2
3 アンテナショップによる販売	18.5	7 特になし	43.0
4 インターネットによる販売	21.2		(無回答 3.3)

※ やまなみグッズとは、かながわの水源地域の素材や、自然の恵みを生かした食品、工芸品などの特産品のことをいいます。

## 4 生物多様性

問 10 「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 知っている	36.7	3 知らなかった	21.9
2 言葉は聞いたことがある	38.4	(無回答 3.0)	

※ 生物多様性とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。

問 11 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,213) (%)

1 生態系に配慮した農畜水産物(※1)を買う	21.9	5 生物多様性を保全する活動に参加する	2.9
2 生物多様性保全に取り組む企業(※2)の製品を買う	13.9	6 家族や友人と生物多様性保全の話をする	4.6
3 身近な自然を生物多様性の視点で考える	27.9	7 その他	0.7
4 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	21.2	8 特になし	46.6
(無回答 3.5)			

※1 生態系に配慮した農畜水産物とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業による水産物のことをいいます。例えば、有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられます。

※2 生物多様性保全に取り組む企業とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を継続して実施したりしている企業のことをいいます。

問 12 お住いの周辺地域の自然環境は、おおよそ3年前と比べてどのような変化があったと感じますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 豊かになった	2.1	4 どちらかといえば劣化した	20.0
2 どちらかといえば豊かになった	4.7	5 劣化した	10.0
3 変化はない	51.0	6 分からない	9.7
(無回答 2.4)			

## 5 「未病改善」の取組み

問 13 「未病（ME-BYO）」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 知っている	33.3	3 知らなかった	36.1
2 言葉は聞いたことがある	29.4	(無回答 1.2)	

※ **未病**とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念のことをいいます。

問 14 過去1年間で「未病改善」※の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思いませんか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 もともと行っており、今も行っている	24.4
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	22.3
3 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.2
4 以前は行っていなかったが、行うようになった	5.9
5 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	15.0
6 以前から行っておらず、今も行っていない	28.2
(無回答 2.0)	

※ **未病改善**とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことをいいます。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

問 15 「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,213) (%)

1 医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	37.8
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	43.0
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	6.8
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	37.4
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	32.2
6 健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	29.1
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	4.1
8 将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスクを知ること	29.8
9 その他	1.9
10 特になし	3.6
11 分からない	4.8
(無回答 3.3)	

問 16 「フレイル」※という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 知っている	27.0	3 知らなかった	54.1
2 言葉は聞いたことがある	16.7	(無回答 2.2)	

※ **フレイル**とは、高齢になって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいい、多くの方が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。

## 6 アレルギー疾患

問 17 5年前と比べて、アレルギー疾患(食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症など)の症状のある方が、増えていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,213) (%)

1 増えていると思う	73.1	3 減っていると思う	0.5
2 変わらないと思う	13.4	4 分からない	12.2
(無回答 0.7)			

【次の問 18、問 19 は、アレルギー疾患の症状のない方は、ご自分やご家族に症状があると仮定してお答えください】

問 18 アレルギーの症状があるときに、どの診療科を受診すればよいかなどについて、相談窓口やインターネットなどで、信頼性がある情報を受け取ることができていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,213) (%)

1 そう思う	18.8	4 どちらかといえばそう思わない	7.9
2 どちらかといえばそう思う	26.2	5 そう思わない	12.2
3 どちらともいえない	25.6	6 分からない	7.8
(無回答 1.5)			

問 19 アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思いますか。(〇はいくつでも) (n=1,213) (%)

1 ホームページなどによる医学的に正しい情報の提供	48.1
2 医療機関や専門医についての情報の提供	59.6
3 アレルギー疾患についての講座の開催	14.8
4 花粉や大気汚染などへの対策による生活環境の改善	52.1
5 アレルギー疾患の状態に応じた適切な治療	66.1
6 保育所・学校などでの給食や症状への適切な対応	30.3
7 行政や関係機関における相談	13.4
8 その他	2.0
9 特にない	2.0
10 分からない	1.9
(無回答 0.8)	

## 7 依存症に対する意識

問 20 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 誰でもなる可能性がある	87.3	6 依存対象が生活の最優先事項になる	27.9
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	36.2	7 その他	0.5
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	64.2	8 分からない	1.6
4 回復することはできるが時間がかかる	56.1	9 あてはまるものはない	0.6
5 自分が依存症であることを認めない	33.0		(無回答 1.5)

※ 依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心やからだ、社会生活に問題が出ることをいいます。

問 21 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。(○はいくつでも)  
(n=1,213) (%)

1 依存症専門医療機関・専門クリニック	59.4		
2 かかりつけ医（内科医など）	29.8		
3 行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	28.5		
4 回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	34.1		
5 当事者や家族などの自助グループ	20.9		
6 弁護士・司法書士	1.7		
7 その他	0.2		
8 分からない	15.6		
9 知っているものはない	7.0		(無回答 2.2)

### 【問 21 で 1～7 を選んだ方へ】

問 21-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=912) (%)

1 ポスター・チラシ	20.1	6 家族・知人から	10.7
2 県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	23.1	7 職場・学校	10.7
3 医療機関・行政機関などのホームページ	25.8	8 その他	12.7
4 ソーシャルメディア（※1）	23.1	9 分からない、覚えていない	11.3
5 電車内・街中のデジタル広告（※2）	9.2		(無回答 7.6)

※1 ソーシャルメディアとは、例えばX（旧 Twitter）、Facebook、Instagram などがあります。

※2 デジタル広告とは、電車のドア上や網棚上の液晶ディスプレイ、街中のデジタルサイネージなどを使った広告のことをいいます。

### 【全員の方がお答えください】

問 22 依存症の回復に必要なと思うものは何ですか。(○はいくつでも) (n=1,213) (%)

1 医療機関などでの治療	76.7	6 家族の説得	13.9
2 専門相談機関への相談	67.5	7 借金の肩代わり	0.7
3 家族や職場など周囲の人の理解	65.4	8 その他	1.4
4 自助グループへの参加 （当事者が自身の体験などを話し合う）	34.0	9 特になし	0.3
5 本人の強い意志	48.9	10 分からない	2.1
			(無回答 1.8)

## 8 肝炎対策

問 23 「ウイルス性肝炎」※という病気を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 知っている	54.0	3 知らなかった	8.7
2 言葉は聞いたことがある	35.1	(無回答)	2.1

※ **ウイルス性肝炎**とは、肝炎ウイルスにより肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気のことをいいます。日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっており、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 24 これまでに「肝炎ウイルス検査」※を受けたことがありますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1 ある	17.1	3 ない	62.2
2 受けた可能性がある	7.7	4 分からない	11.1
		(無回答)	1.9

※ **肝炎ウイルス検査**は、本人が自覚的に受ける場合のほか、大きな外科手術（全身麻酔での手術で1993年以降に経験）、妊娠・出産（1993年以降に経験）及び献血（1990年以降に経験）をしたときに無自覚に受けた可能性があります。

【問 24 で 1、2 を選んだ方へ】

問 24-1 検査の結果を知っていますか。 (○は1つ) (n=301) (%)

1 知っている	79.1	3 分からない、覚えていない	16.9
2 知らない（結果待ちを含む）	4.0	(無回答)	-

## 9 かながわの人権

問 25 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1	そう思う	30.4	3	そう思わない	14.4
2	どちらともいえない	50.6		(無回答)	4.5

問 26 インターネットでの人権侵害を防ぐために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,213) (%)

1	違法な情報発信に対する監視や取締りを強化する	67.9
2	プロバイダ（インターネット接続業者）などに人権を侵害する情報の削除を求める	58.1
3	インターネットで人権侵害を受けた人のための相談体制を整備する	43.3
4	インターネットの利用者やプロバイダに、プライバシーや名誉に関する正しい理解を広める	36.9
5	その他	2.5
6	特になし	1.6
7	分からない	6.5
	(無回答)	6.6

問 27 県内での、同和地区出身者に対する差別についてどう思いますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1	実際に見聞きしたことがあるし、今でもあると思う	9.2
2	実際に見聞きしたことがあるが、今ではないと思う	7.8
3	実際に見聞きしたことはないが、今でもあると思う	35.6
4	実際に見聞きしたこともないし、今ではないと思う	17.9
5	分からない	26.2
	(無回答)	3.2

同和問題とは、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低位の状態を強いられ、同和地区と呼ばれる地域の出身者であることなどを理由に日常生活の上で様々な差別を受けるなどしている、わが国固有の人権課題です。

問 28 もし、あなたにお子さんがいて、そのお子さんの結婚する相手が同和地区出身者であると分かったら、どうしますか。 (○は1つ) (n=1,213) (%)

1	結婚相手の出自（家柄）にはこだわらない	27.4
2	子どもの意思を尊重して結婚を認める	43.7
3	親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める	18.8
4	家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	2.1
5	絶対に結婚を認めない	2.2
	(無回答)	5.9



…\*\*

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,213) (%)

1	横浜（横浜市）	38.8
2	川崎（川崎市）	14.2
3	相模原（相模原市）	7.3
4	横須賀三浦（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）	7.8
5	県央（厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）	8.3
6	湘南（平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町）	16.8
7	県西（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）	3.7
		（無回答 3.0）

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,213) (%)

1	男性	44.7	2	女性	51.1	（無回答 4.2）
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2023年11月1日現在) (n=1,213) (%)

1	18～19歳	-	5	35～39歳	5.4	9	55～59歳	12.2	13	75～79歳	7.4
2	20～24歳	1.3	6	40～44歳	9.3	10	60～64歳	10.2	14	80歳以上	1.5
3	25～29歳	2.7	7	45～49歳	11.0	11	65～69歳	7.9			
4	30～34歳	3.2	8	50～54歳	12.4	12	70～74歳	12.0	（無回答 3.3）		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,213) (%)

1	小学校入学前	8.7	5	短大、専門学校等在学中	3.7	9	その他	2.7
2	小学校在学中	12.0	6	大学、大学院等在学中	4.5	10	子どもはいない	27.0
3	中学校在学中	7.6	7	学校教育終了 [未婚]	23.1			
4	高校在学中	7.4	8	学校教育終了 [既婚]	25.6	（無回答 3.6）		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,213) (%)

1	一人暮らし（単身世帯）	13.4	4	祖父母と親と子の世帯（3世代世帯）	4.4
2	夫婦のみ（1世代世帯）	27.6	5	その他の世帯	4.8
3	親と子の世帯（2世代世帯）	46.2	（無回答 3.7）		

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。  
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,213) (%)		(n=793) (%)	
1 自営業主	5.6	ア 農林水産業	0.4
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.2	イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.4
3 勤め (フルタイム)	42.2	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.9
4 勤め (パートタイム)	16.3	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	8.8
5 内職	0.1	オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	19.5
6 主婦・主夫(勤めていない)	16.1	カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	24.5
7 学生	0.4	キ 教育職(教諭、保育士など)	6.4
8 無職	13.9	ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	11.0
9 その他	0.4	ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	16.9
(無回答 3.8)		(無回答 3.2)	

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月21日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)  
なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1 地震対策の取組み   | 6 アレルギー疾患   |
| 2 子ども・子育て支援  | 7 依存症に対する意識 |
| 3 かながわの水源地域  | 8 肝炎対策      |
| 4 生物多様性      | 9 かながわの人権   |
| 5 「未病改善」の取組み |             |

下記にその内容をご記載ください。

211人(17.4%)から自由意見が寄せられました。